

2018年社会保障・人口問題基本調査

第6回全国家庭動向調査 結果の概要

(2019年9月13日公表)

I. 調査の概要	1
1. 調査の概要	1
2. 調査手続きと調査票の回収状況.....	1
3. 有配偶女性の特性と代表性.....	2
II. 親世代との同別居と居住距離	3
1. 親世代との同別居	3
2. 別居する親との居住距離.....	4
III. 出産・子育てに関わるサポート資源	8
1. 精神的サポート	8
2. 世話的サポート	9
3. 経済的サポート	11
IV. 妻と夫の家事分担と家事遂行	12
1. 妻と夫の家事時間	12
2. 妻と夫の家事分担割合	15
3. 妻と夫の家事遂行の実態と変化.....	17
4. 夫の家事に対する妻の期待と評価	21
V. 妻と夫の育児分担と育児遂行	24
1. 妻と夫の育児時間	24
2. 妻と夫の育児分担割合	27
3. 妻と夫の育児遂行の実態と変化.....	29
4. 夫の育児に対する妻の期待と評価	35
VI. 妻と夫のコミュニケーション	37
1. 妻と夫の共通行動の頻度.....	38
2. 妻と夫の共通行動の満足度	41
3. 妻と夫の意思決定	44
4. 妻に対する夫の情緒的支援	46
VII. 家族に関する妻の意識	49
1. 全体像.....	49
2. 性別役割についての考え方.....	50
3. 夫婦のあり方についての考え方.....	54
4. 老親への援助についての考え方.....	56
5. 同性カップルについての考え方.....	58
参考資料	62

国立社会保障・人口問題研究所

担当：社会保障基礎理論部

Tel (03)3595-2984 内線 4442

<http://www.ipss.go.jp>

本資料について

- ・この資料は第6回全国家庭動向調査の結果をとりまとめたものである。資料には、第4回調査から第5回調査の結果も含まれるが、これらは今回の公表に際して改めて集計し直したものである。したがって、過去に公表した報告書の結果とこの資料に含まれる数値とが異なる場合がある。
- ・この資料の数値のうち、「n」とは集計対象となった調査票の数のことである。nには非該当や不詳はとくに断りのない限り含まない。
- ・この資料の数値のうち、割合については四捨五入した値であり、割合を合計または差し引きした値については、四捨五入の関係で図中の数値の合計または差し引きした値と一致しない場合がある。また、割合の単位は原則としてパーセントを用いた。
- ・この資料のうち、本文中に掲載した図のデータは参考資料(62～72ページ)にまとめた。図に数値が記載されていない場合には参考資料もご参照いただきたい。

本資料の用語について

- ・本資料では、過去の調査について言及する場合、煩雑さを避けるために年次の記載を省略している。第4回調査から第6回調査の実施年は下記の通りである。

第4回調査：2008年実施

第5回調査：2013年実施

第6回調査：2018年実施

- ・本資料で調査結果の説明で妻や「妻」と記載がある場合、基本的には本調査の回答者である有配偶女性のことを指す。ただし、記載内容によっては、一般的な呼称としての妻の意味で用いている場合もある。
- ・本資料の妻の従業上の地位のうち、「自営」には家族従業者を含む。また、「その他」は、大多数が仕事を持たないいわゆる専業主婦である。
- ・V章の「最年少同居子」とは、回答者である有配偶女性と同居している子どものなかで、もっとも年齢の若い子どもを指す。

I. 調査の概要

1. 調査の概要

近年、出生率の低下など人口動態の変化、その結果としての人口の高齢化などが急速に進み、わが国の家族は、単独世帯や夫婦世帯、ひとり親世帯の増加、女性の社会進出による共働き家庭の増加など、その姿とともに機能も大きく変化している。この家庭機能の変化は、家庭内における子育て、老親扶養・介護などのあり方に大きな影響を及ぼすだけでなく、社会全般に多大な影響を与える。本格的な少子高齢・人口減少社会の到来で、家族変動の影響を大きく受ける子育てや高齢者の扶養・介護などの社会サービス政策の重要性が高まっている。わが国の家族の構造や機能の変化、それに伴う出産、子育てなどの実態、およびその変化要因や動向などを正確に把握することがますます重要となっている。

国立社会保障・人口問題研究所の全国家庭動向調査は、家庭動向を全国規模で把握しうる唯一の大標本調査として、1993年の第1回調査より家庭機能の実態と変化要因を把握し続けてきた。今回の調査は、第1回調査（1993年）、第2回調査（1998年）、第3回調査（2003年）、第4回調査（2008年）、第5回調査（2013年）に続く第6回調査として2018年に実施された。

2. 調査手続きと調査票の回収状況

本調査は、平成30（2018）年に実施された国民生活基礎調査のために全国から層化集落抽出法によって選定された1,106の国勢調査区の中から、無作為に抽出した300の調査区に居住する世帯の結婚経験のある女性（複数いる場合はもっとも若い女性、1人もいない場合は世帯主）を対象とした。調査方法は配票自計方式で、2018年7月1日の事実について記入を求めた。

調査票配布数は12,718票、回収された調査票は10,965票で回収率は86.2%であった。ただし、回収票のうち集計が困難な票を除いた有効回収数は9,790票であり、有効回収率は77.0%であった。調査票は主として有配偶女性を想定して設計されているので、ここでは有配偶女性（妻）が回答した6,142票を対象に分析した。分析対象となる有配偶女性の年齢別の票数は表1-1のとおりである。除外した3,648票は、離死別女性が回答したものか、または結婚経験のある女性がない世帯の世帯主が回答したものである。

表 1-1 年齢別有効票数（有配偶女性）

年齢	分析対象の票数	(%)
総数	6,142	(100.0)
29歳以下	161	(2.6)
30～34歳	322	(5.2)
35～39歳	493	(8.0)
40～44歳	597	(9.7)
45～49歳	646	(10.5)
50～54歳	608	(9.9)
55～59歳	620	(10.1)
60～64歳	678	(11.0)
65～69歳	780	(12.7)
70～74歳	613	(10.0)
75歳以上	624	(10.2)

3. 有配偶女性の特性と代表性

分析対象とする有配偶女性の代表性を確認するために、年齢分布を国勢調査（2015年10月1日）および労働力調査（2018年6月30日）と比較した結果を表1-2に示した。これによると本調査では45歳未満の票数が相対的に少なく、50歳以上の票数が相対的に多くなっていることが分かる。ただし、調査時期が近い労働力調査と比べると、全ての年齢層について±1.9ポイント以内の差であり、それほど大きな偏りはないとみてよいだろう。

表1-2 有配偶女性の年齢分布の比較

年齢	国勢調査 (2015年10月1日)	労働力調査 (2018年6月30日)	全国家庭動向調査 (2018年7月1日)
総数	31,389,002	32,360,000	6,142
29歳以下	4.3 %	4.2 %	2.6 %
30～34歳	6.8	6.4	5.2
35～39歳	8.9	8.3	8.0
40～44歳	10.8	10.4	9.7
45～49歳	9.8	10.8	10.5
50～54歳	9.3	9.5	9.9
55～59歳	9.2	9.1	10.1
60～64歳	10.4	9.1	11.0
65歳以上	30.5	32.1	32.8

表1-3は、有配偶女性の所属世帯を示したものである。表によると、本調査に回答した有配偶女性が暮らす世帯でもっとも多いのは「夫婦と子」で、「夫婦のみ」がそれに次ぐ。親が同居する拡大家族世帯も一定の割合を占めるが、「単独」や「ひとり親と子」はごくわずかである¹。国勢調査と比較すると本調査では「夫婦のみ」、「夫婦と子」がそれぞれ3.6ポイント、0.7ポイント多く、「三世代」が3.4ポイント少なくなっている。しかし、約3年の調査時期の違いを考えると、それほど大きな偏りはないといえる。

表1-3 有配偶女性の所属世帯の家族類型

	国勢調査 (2015年10月1日)	全国家庭動向調査 (2018年7月1日)
総数	31,201,989	6,142
単独	1.0 %	1.0 %
夫婦のみ	34.4	38.0
夫婦と子	45.9	46.6
ひとり親と子	2.3	2.0
夫婦と両親	1.2	0.7
夫婦とひとり親	2.2	2.2
三世代	10.0	6.6
その他	2.9	2.9

¹ 「単独」には夫の単身赴任などの理由により夫と別居している世帯などが含まれる。

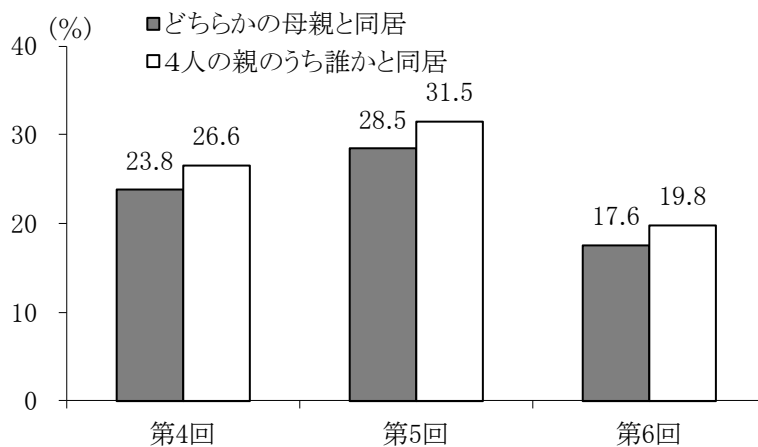
II. 親世代との同別居と居住距離

1. 親世代との同別居

夫婦にとって双方の親、とくに母親は出産・子育てに対するサポートを得られるもっとも大きな資源であり、親が同居あるいは近居の場合にはサポートを受けやすいと考えられる。この章では、親世代との同居の状況をみていく。本調査では妻の両親、夫の両親の居住状況をたずねているが、ここで同居とは同設間において「あなたと同居」を選択した場合をいう。ただし、親が亡くなっている場合は集計対象から除外している。例えば、妻の母との同居割合の算出にあたっては、妻の母が存命の世帯のみを対象としている。

妻の年齢が70歳未満となる世帯を対象として、妻と夫のそれぞれの両親（以下、4人の親）のうち誰かと同居している割合および妻方または夫方のいずれかの母親と同居している割合をみたのが図2-1である。第6回調査では19.8%が「4人の親のうち誰かと同居」、17.6%が「どちらかの母親と同居」となっている。時系列でみれば、第4回調査の場合で「4人の親のうち誰かと同居」が26.6%、「どちらかの母親と同居」が23.8%、第5回調査の場合で「4人の親のうち誰かと同居」が31.5%、「どちらかの母親と同居」が28.5%、第6回調査の場合で「4人の親のうち誰かと同居」が19.8%、「どちらかの母親と同居」が17.6%となっている。

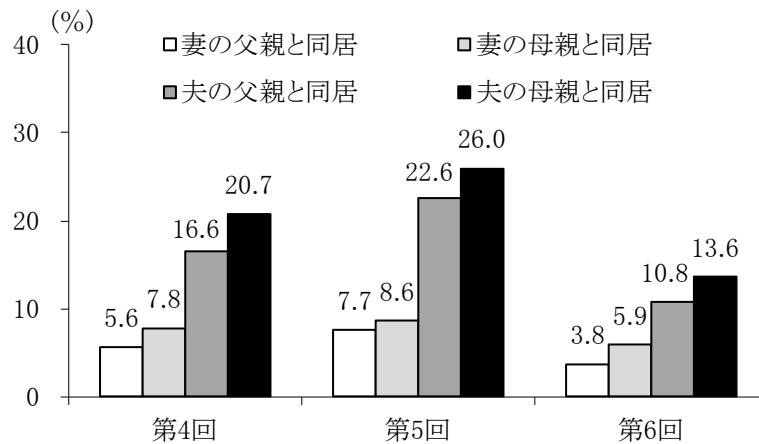
図2-1 調査回別にみた4人の親のうち誰かと同居割合とどちらかの母親との同居割合



注) 妻の年齢が70歳未満の世帯について集計。

また、親との同居割合を、妻の父親、妻の母親、夫の父親、夫の母親それぞれについてみたのが図2-2である。いずれの調査回でも父より母との同居割合が高く、妻方の親より夫方の親との同居割合が高い。また図2-1と同様に、いずれの親との同居でも第6回調査の同居割合がもっとも小さく、「妻の父親と同居」が3.8%、「妻の母親と同居」が5.9%、「夫の父親と同居」が10.8%、そして「夫の母親と同居」が13.6%となっている。

図 2-2 調査回別にみた夫と妻のそれぞれの親との同居割合



注) 妻の年齢が 70 歳未満の世帯について集計。

第 6 回調査について、親との同居割合を妻の年齢別にみたのが表 2-1 である。詳細を表からは確認しづらいが、妻の年齢別でみた場合、妻の母親・父親との同居と夫の母親・父親との同居には違いがみられる。まず、妻の年齢を考慮した場合でも、妻の母親・父親との同居割合のほうが夫の母親・父親との同居割合よりも小さい。そして、妻の母親と父親の同居割合は 50 歳代になると増加するが、その上がり方は妻の母親のほうが父親よりも大きい。妻の母親と父親との同居割合は妻の年齢が 40 歳代までほぼ同じであるが、50 歳代になると上述のように母親との同居割合が父親との同居割合より大きくなっていく。一方、夫の母親・父親との同居割合は、妻の年齢が高いほど高くなっている。

表 2-1 妻の年齢別にみた親との同居割合 (第 6 回調査)

表 2-1 妻の年齢別にみた親との同居割合 (第 6 回調査)

妻の年齢	4人の親のうち誰かと同居		どちらかの母親と同居		妻の父親と同居		妻の母親と同居		夫の父親と同居		夫の母親と同居	
	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)
29歳以下	130	16.9	140	12.9	129	5.4	142	4.9	121	6.6	136	5.9
30～39歳	667	14.5	707	12.3	634	3.3	720	3.5	591	8.1	678	8.3
40～49歳	1,024	17.3	1,049	14.7	840	2.7	1,020	3.7	749	10.3	951	11.4
50～59歳	951	23.3	960	21.6	452	4.4	819	7.8	330	14.8	690	18.4
60～69歳	578	25.1	561	23.9	114	9.6	445	11.9	66	27.3	284	25.4

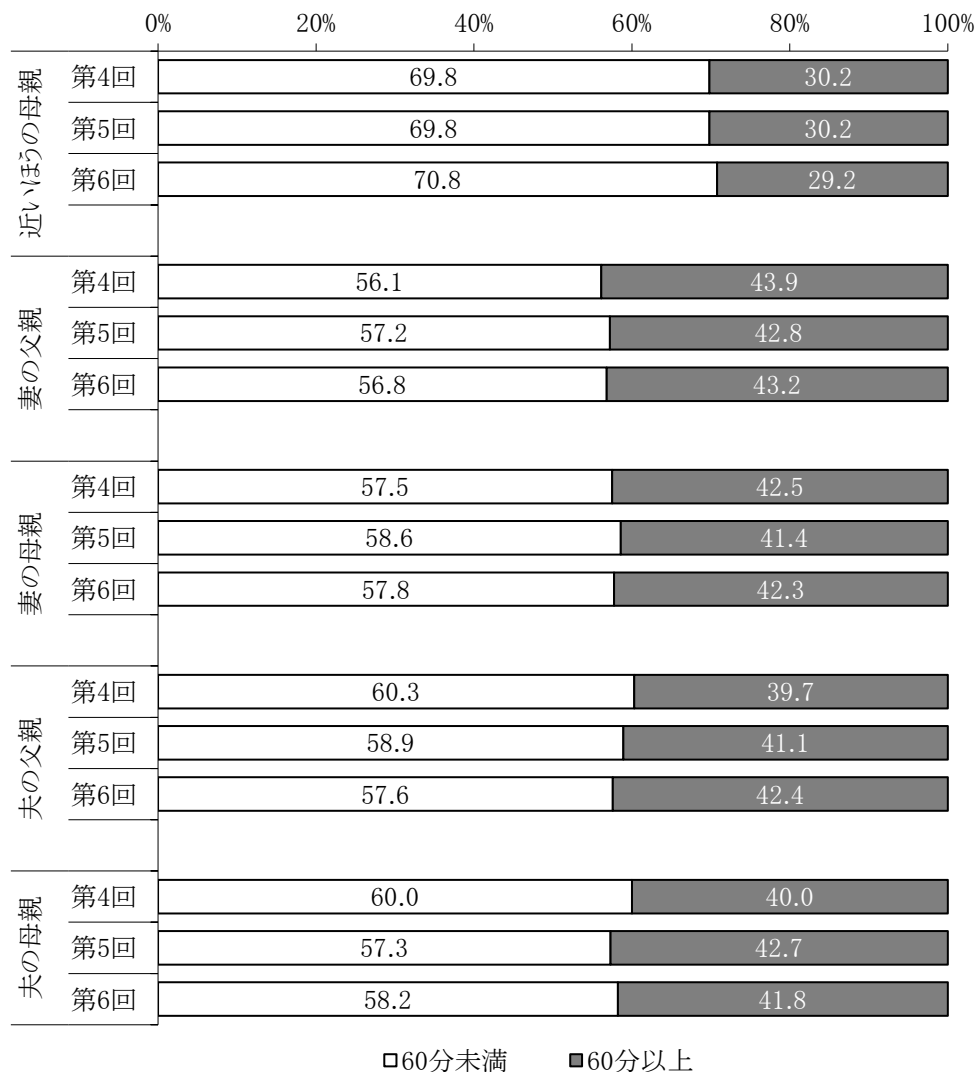
注) 妻の年齢が 70 歳未満の世帯について集計。

2. 別居する親との居住距離

いずれの親とも同居していない妻について、親がどの程度離れた距離に住んでいるのかを整理したのが図 2-3 である。本調査では親の住まいとの距離について「同じ建物内」、「同じ敷地内の別棟」、「15 分未満」、「15～30 分未満」、「30～60 分未満」、「1～2 時間未満」、「2～3 時間未満」、および「3 時間以上」の 8 つから 1 つを選択する形式でたずねている。図 2-3 では、同居を示す「同じ建物内」を除く、「同じ敷地内の別棟」から「30～60 分未満」

を「60分未満」、「1～2時間未満」から「3時間以上」を「60分以上」と区分している。上述したように母親は家事や育児の重要なサポート資源であることから、妻方・夫方のいずれか近いほうの母親についてみていくと、いずれの調査回においても、「60分未満」が約7割、「60分以上」が約3割となっている。

図 2-3 調査回別にみた別居する親との居住距離（60分未満と60分以上）



注) 妻の年齢が70歳未満であり、いずれの親とも同居していない世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

親の居住地までの距離をより詳細な区分で示したのが表 2-2 である。「近いほうの母親」の場合、第6回調査では「敷地内別居」が6.9%、「15分未満」が30.7%、「15～30分」が17.2%、「30～60分」が16.1%、「60分以上」が29.2%であり、親と別居する妻のうち半数以上は30分未満の距離に夫または妻の母親が住んでいる。4人の親それぞれについてみると、もっとも割合が高いのは「60分以上」に別居する割合で、おおむねどの親の場合でも

40%程度となっている。ただし、「敷地内別居」の割合は、母親・父親ともに、夫の親で高い結果となっている。

表 2-2 調査回別にみた別居する親の居住距離

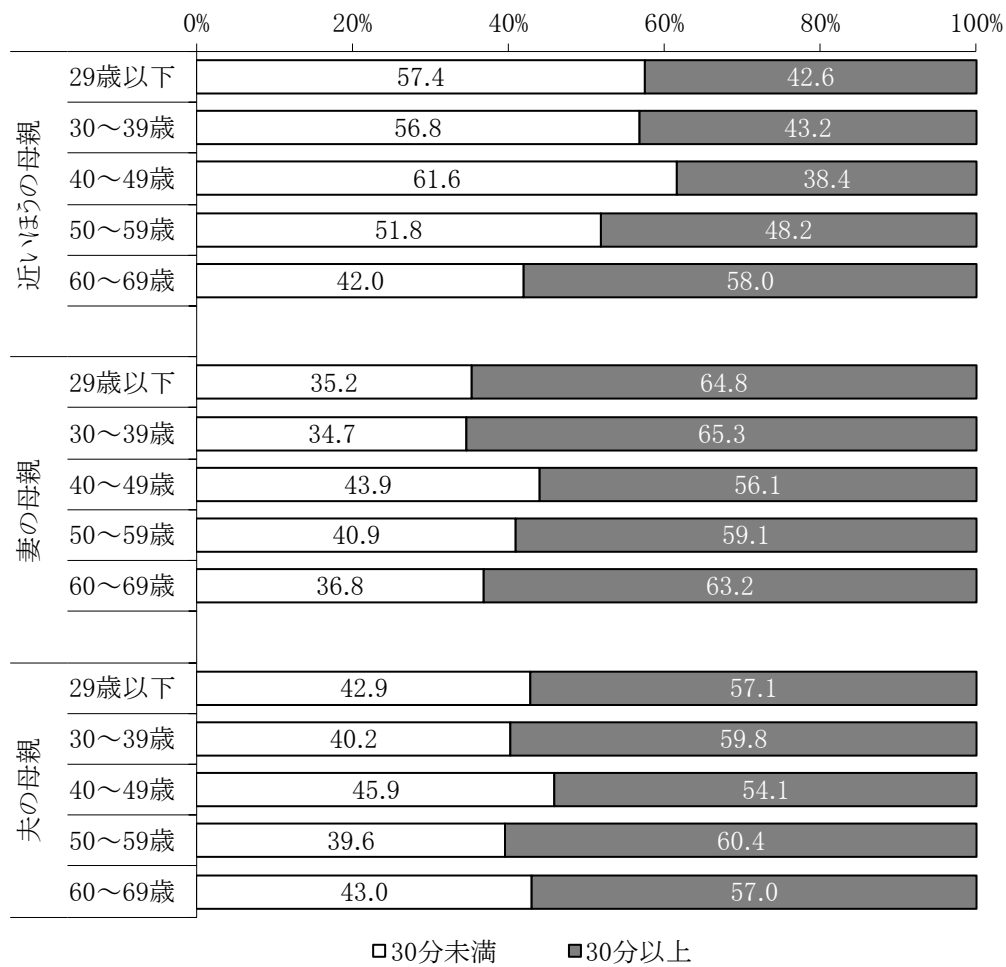
親	調査回	n	距離(%)				
			敷地内別居	15分未満	15～30分	30～60分	60分以上
近いほうの母親	第4回	3,039	7.4	32.1	17.5	12.8	30.2
	第5回	2,620	7.9	29.5	16.2	16.2	30.2
	第6回	2,625	6.9	30.7	17.2	16.1	29.2
妻の父親	第4回	1,970	2.1	19.4	18.3	16.3	43.9
	第5回	1,616	2.9	19.5	15.2	19.7	42.8
	第6回	1,661	2.4	20.9	15.0	18.5	43.2
妻の母親	第4回	2,700	2.3	20.9	18.0	16.4	42.5
	第5回	2,317	2.9	20.5	15.1	20.2	41.4
	第6回	2,303	2.1	21.8	15.8	18.2	42.3
夫の父親	第4回	1,697	7.2	23.2	16.0	13.9	39.7
	第5回	1,420	7.8	22.0	12.8	16.3	41.1
	第6回	1,459	6.8	20.6	14.8	15.4	42.4
夫の母親	第4回	2,360	7.0	23.7	15.3	13.9	40.0
	第5回	2,012	7.1	21.1	13.6	15.6	42.7
	第6回	2,051	6.4	20.5	15.6	15.7	41.8

注) 妻の年齢が 70 歳未満であり、いずれの親とも同居していない世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

第 6 回調査について、妻の年齢別に別居親との居住距離を示したのが図 2-4 である。ここでは、「同じ敷地内の別棟」から「15～30 分未満」を「30 分未満」、「30～60 分未満」から「3 時間以上」を「30 分以上」と区分している。夫方と妻方のそれぞれの母親との居住距離については、妻の母親の居住距離が「30 分未満」の割合は、「29 歳以下」では 35.2%、「30～39 歳」で 34.7%、「40～49 歳」で 43.9%、「50～59 歳」で 40.9%、「60～69 歳」で 36.8%である。また、夫の母親の居住距離が 30 分未満の割合は、「29 歳以下」では 42.9%、「30～39 歳」で 40.2%、「40～49 歳」で 45.9%、「50～59 歳」で 39.6%、「60～69 歳」で 43.0%である。すなわち、妻の年齢が「50～59 歳」の場合のみ妻方の母親との居住距離 30 分未満の割合がわずかに大きくなるが、それ以外では夫方の母親との居住距離 30 分未満の割合のほうが大きい。

最後に、近いほうの母親の居住距離であるが、「30 分未満」の割合は、「29 歳以下」では 57.4%、「30～39 歳」で 56.8%、「40～49 歳」で 61.6%、「50～59 歳」で 51.8%、「60～69 歳」で 42.0%である。妻の年齢「40～49 歳」をピークとして、「30 分未満」の別居割合は低下している。

図 2-4 妻の年齢別にみた別居する母親の居住距離 (30 分未満と 30 分以上) (第 6 回調査)



注) 妻の年齢が 70 歳未満であり、いずれの親とも同居していない世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

Ⅲ. 出産・子育てに関わるサポート資源

全国家庭動向調査では、25年前に実施した第1回調査（1993年）から継続して有配偶女性を対象に、妻が誰（どこ）に育児支援を頼むのか、もっとも重要な支援提供者（第1位から第4位まで。項目によっては、第1位から第2位まで）についてたずねている。第6回調査では選択肢の見直しを行い、第5回では27あった選択肢を14に整理した。選択肢削除のために第5回と個別に比較できなくなった項目はあるが、集計項目をまとめて分類し比較することは可能である。ここでは、支援の種類によって選択肢を5つから6つの項目に分類して集計を行う。支援は、(1) 精神的サポート、(2) 世話的支持（長期間にわたるもの）、(3) 世話的支持（短期間で終わるもの、突発的に発生するもの）、(4) 経済的支持、の4種類である。第6回調査における支援の種類別の選択肢と集計項目の対応は表3-1の通りである。以下では、年齢が70歳未満で、子どもがいる有配偶女性を対象として、出産・子育てに関わるサポート資源の状況についてみていく。

表 3-1 支援の種類別、集計項目と選択肢（第6回調査）

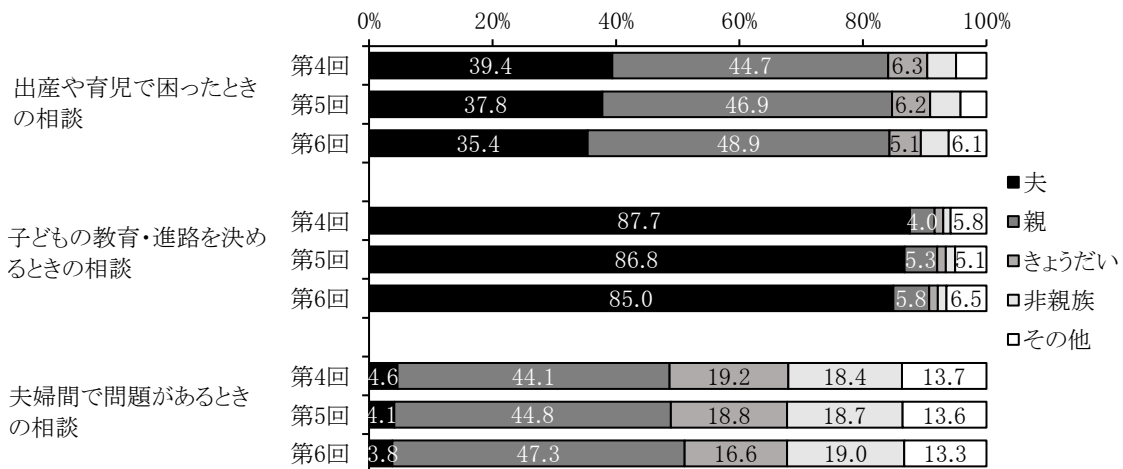
精神的サポート		世話的支持(長期的)		世話的支持(短期的・突発的) 及び経済的支持	
集計項目	選択肢	集計項目	選択肢	集計項目	選択肢
夫	夫	夫	夫	夫	夫
親	あなたの親、夫の親	親	あなたの親、夫の親	親	あなたの親、夫の親
きょうだい	きょうだい(義理を含む)	きょうだい	きょうだい(義理を含む)	きょうだい	きょうだい(義理を含む)
非親族	親戚以外の知り合い・友人	妻	あなた	妻	あなた
その他	あなた その他の親戚 保育所・有料預かり施設など 病院(医師)・保健所(保健師)など 市町村役場・公共機関など 書物やインターネットなど その他 頼る人がいない・いなかった	公共の機関 など	保育所・有料預かり施設など 病院(医師)・保健所(保健師)など 市町村役場・公共機関など 書物やインターネットなど その他	その他	その他の親戚 親戚以外の知り合い・友人 保育所・有料預かり施設など 病院(医師)・保健所(保健師)など 市町村役場・公共機関など 書物やインターネットなど その他 頼る人がいない・いなかった
経験がない		経験がない		経験がない	

注) 精神的サポートに関するサポート資源のうち「あなた」は選択肢から除かれるべきであるが、調査票の形式上取り除くことは困難であるため、集計に際しても他の選択肢と同様の取り扱いとした。

1. 精神的サポート

精神的サポートには、(1) 出産や育児で困ったときの相談、(2) 子どもの教育・進路を決めるときの相談、(3) 夫婦間で問題があるときの相談、が含まれる。精神的サポートに関する結果のうち、もっとも重要な支援提供者をまとめたのが図3-1である。

図 3-1 調査回別にみたもっとも重要なサポート源：精神的



注) 妻の年齢が70歳未満であり、子どもがいる世帯について集計。

図 3-1 をみると、精神的サポートに関しては「子どもの教育・進路を決めるときの相談」を除き、妻は圧倒的に「夫」よりも「親」に支援を求める傾向がみられる。さらに、10年前の第4回調査からの変化をみると、全ての精神的サポートについて、もっとも重要な支援提供者が「夫」である割合は低下傾向にあり、「親」の割合は上昇傾向にある。例えば、「出産や育児で困ったときの相談」について、第6回調査でもっとも重要なサポート源として挙げられたのは「親」であり、半数弱の48.9%に達している。「夫」が35.4%で続くが、「親」が「夫」を13.5ポイント上回っている。10年前の第4回調査では、「親」が44.7%、夫が39.4%であり両者の違いは5.3ポイント程度であった。

「夫婦間で問題があるときの相談」についても、「親」が47.3%でもっとも重要な支援提供者であり、夫は3.8%である。続いて「非親族」(19.0%)、「きょうだい」(16.6%)、「その他」(13.3%)となっており、「非親族」の役割が他の項目に比べて大きいのが特徴である。第4回では「親」に次いで「きょうだい」が2番目に重要な支援提供者であり、それに続くのが「非親族」であった。しかし、第6回では、「きょうだい」と「非親族」の順位が逆転し、「親」に次いで重要な支援提供者は「非親族」、次いで「きょうだい」となった。

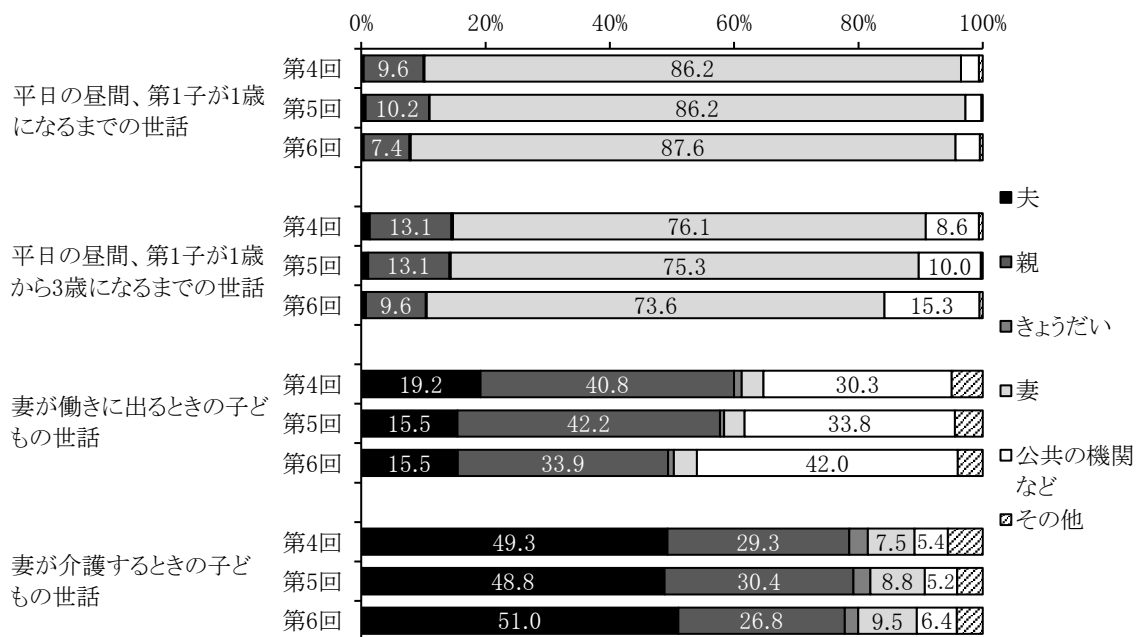
「子どもの教育・進路を決めるときの相談」に関しては、もっとも重要な支援提供者は「夫」で85.0%と高い。「親」がそれに続くが、5.8%にとどまる。

2. 世話的サポート

(1) 長期的な世話

ここでは、比較的長期にわたることが考えられる子どもの世話として「平日の昼間、第1子が1歳になるまでの世話」、「平日の昼間、第1子が1歳から3歳になるまでの世話」、「妻が働きに出るときの子どもの世話」、「妻が介護するときの子どもの世話」の4つを取り上げ、それぞれの世話に対するもっとも重要な支援提供者を図 3-2 に示す。

図 3-2 調査回別にみたもっとも重要なサポート源：世話的（長期的）



注) 妻の年齢が70歳未満であり、子どもがいる世帯について集計。

「平日の昼間、第1子が1歳になるまでの世話」については、「妻」自身の割合が87.6%ときわめて高い。「親」がそれに続くが1割にも満たない。「平日の昼間、第1子が1歳から3歳になるまでの世話」についても「妻」の割合がもっとも高く4分の3弱を占めている。続いて「公共の機関など」(15.3%)、そして「親」(9.6%)となっている。第4回調査からの推移をみると「妻」と「親」は減少傾向にあり、「公共の機関など」が8.6%から15.3%へ上昇している。

もっとも大きな変化がみられたのは「妻が働きに出るときの子どもの世話」で第4回と第6回を比べると、「公共の機関など」が30.3%から42.0%へ大幅な伸びをみせ、「親」の割合が40.8%から33.9%へ低下し、「親」と「公共の機関など」の順位が入れ替わった。

「妻が介護するときの子どもの世話」では、「夫」が51.0%と半数を超えた。続いて「親」が26.8%、「妻」が9.5%となっている。介護に関しては「公共の機関など」は、あまり利用されていない。

(2) 短期的・突発的な世話

短期的・突発的に必要となる世話には、「第2子出産時の第1子の世話」、「妻が病気するときの子どもの世話」、「第1子出産時の妻の身の回りの世話」が含まれる。それぞれの項目に対するもっとも重要な支援提供者を図3-3に示す。

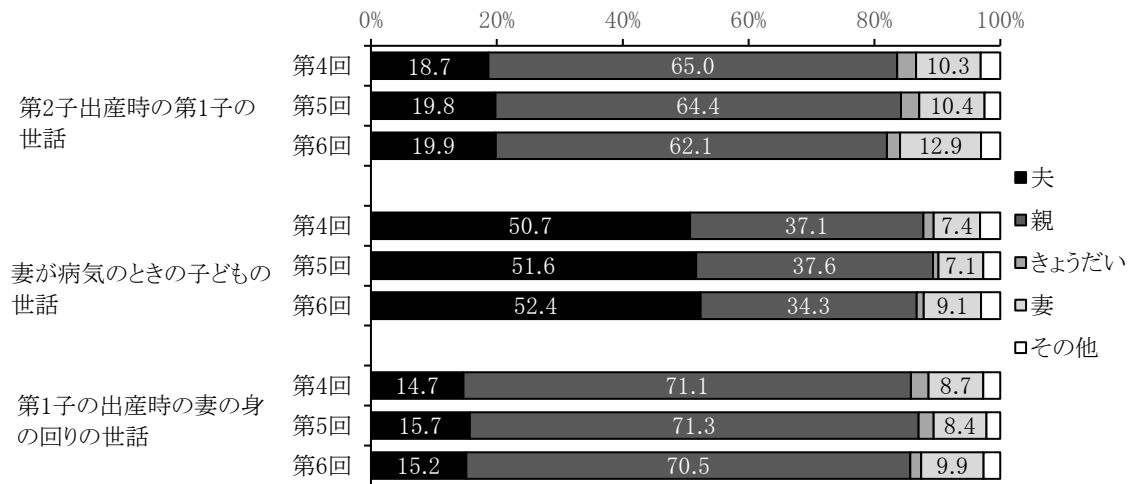
突発的・短期的な世話的支援については、全体的にあまり大きな変化はみられない。

「第2子出産時の第1子の世話」については「親」が62.1%であり、もっとも重要な支援提供者である。続く「夫」は2割弱、そして「妻」(12.9%)となっている。第4回と比べると「親」は減少傾向にある。

「妻が病気のとときの子どもの世話」に関しては、「夫」の重要性が高く 52.4%と半数を超えており、第4回と比べてわずかに上昇傾向にある。「親」は約3割（34.3%）を占めているが、第4回と比べると低下した。

「第1子の出産時の妻の身の回りの世話」については「親」の重要性が高く約7割を占めた。「夫」は 15.2%でそれに続く。

図 3-3 調査回別にみたもっとも重要なサポート源：世話的（短期的・突発的）

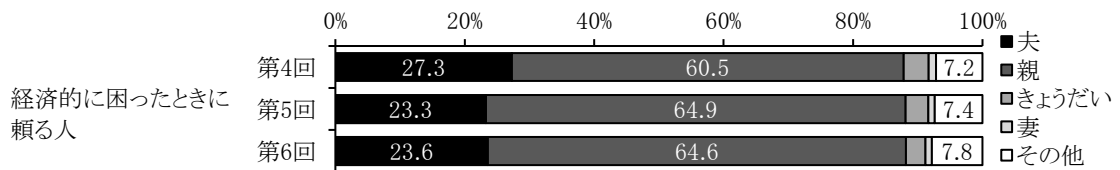


注) 妻の年齢が70歳未満であり、子どもがいる世帯について集計。

3. 経済的サポート

図 3-4 に、経済的に困った時のもっとも重要な支援提供者を示す。「経済的に困った時に頼る人」では「親」が 64.6%ともっとも高く、次いで「夫」の 23.6%であった。経済的な支援についても夫より親が頼りにされていることがうかがえる。また、第4回からの変化を見ると、「親」の割合は上昇しているが、「夫」の割合は減少している。

図 3-4 調査回別にみたもっとも重要なサポート源：経済的



注) 妻の年齢が70歳未満であり、子どもがいる世帯について集計。

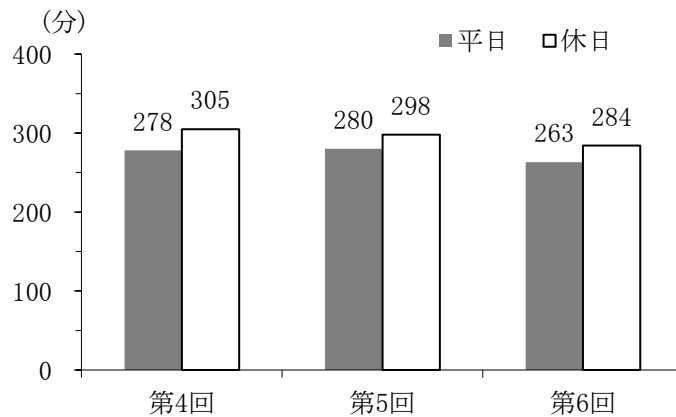
IV. 妻と夫の家事分担と家事遂行

本章では、妻の年齢が60歳未満の世帯を対象として、妻と夫の家事時間、家事分担割合、家事遂行頻度、および夫の家事に対する妻の期待と評価についてみていく。

1. 妻と夫の家事時間

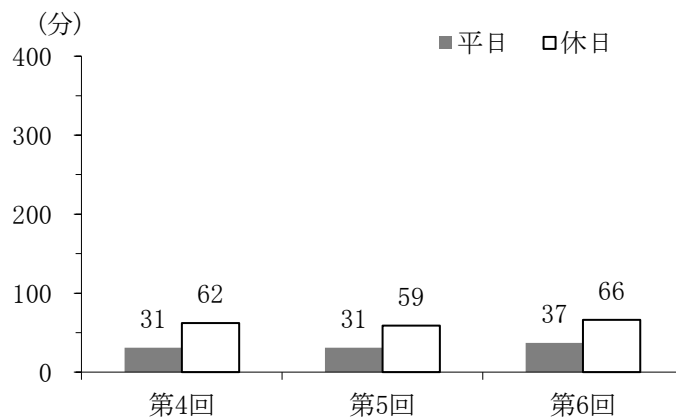
妻の1日の平均家事時間は、第4回、第5回調査では、平日は約280分（4時間40分）、休日は約300分（5時間）であったが、第6回調査では、過去2回の調査に比べ、平日と休日のいずれも約15分減少した（図4-1）。夫の1日の平均家事時間は、第4回、第5回とも、平日は31分、休日は約60分（1時間）と変化がみられなかったが、第6回調査では平日は37分、休日は66分と微増した（図4-2）。

図4-1 調査回別にみた妻の1日の平均家事時間



注) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。

図4-2 調査回別にみた夫の1日の平均家事時間

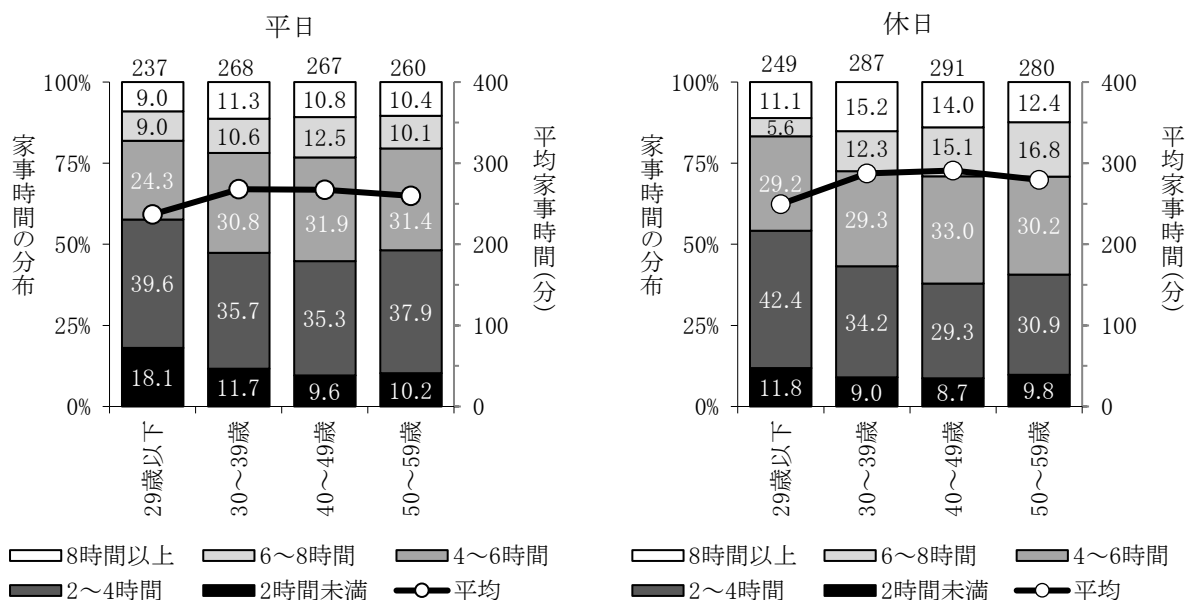


注) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。

第6回調査について、妻の年齢別に家事時間をみると、平日の1日の平均家事時間は妻の年齢が「30～39歳」が最長で268分、最短が「29歳以下」の237分、両者の差は31分であった(図4-3)。平日の家事時間の分布をみると「2～4時間」または「4～6時間」が多く、両者で全体の7割近くを占める。平日の家事時間が6時間を超える割合は「40～49歳」でもっとも多かった。

休日の1日の家事時間については、妻の年齢が「40～49歳」が最長で291分、最短が「29歳以下」の249分で両者の差は42分であった。平日と同様に、1日の家事時間が「2～4時間」または「4～6時間」が多く、両者で全体の6～7割を占めるが、「30～39歳」、「40～49歳」、「50～59歳」の年齢層では、妻の3割近くが6時間以上家事をしている。

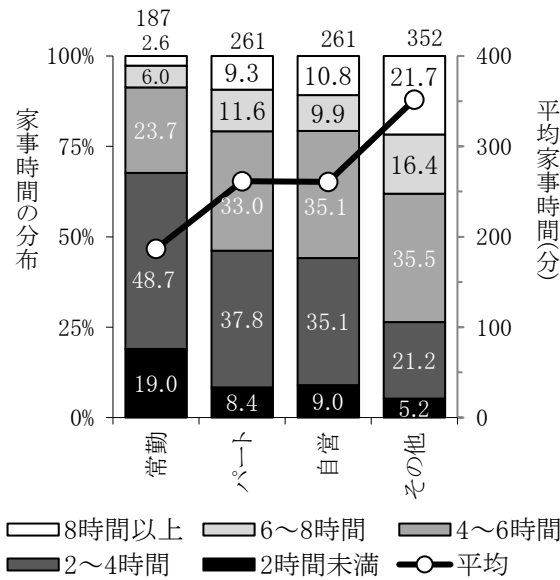
図4-3 妻の年齢別にみた平日と休日における妻の1日の家事時間の分布と平均
(第6回調査)



注1) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。
注2) 棒グラフの上端の数値は1日の平均時間を表す。

妻の従業上の地位別に平日の家事時間をみると(図4-4)、1日の平均家事時間がもっとも短いのは「常勤」の187分、「パート」と「自営」が261分、大部分が専業主婦である「その他」が最長の352分であった。家事時間の分布をみると、「常勤」の場合、「2時間未満」が19.0%、「2～4時間」が48.7%であり、両者をあわせると7割近くになる。それに対して、「その他」の場合、「6～8時間」が16.4%、「8時間以上」が21.7%であり、両者をあわせると4割近くになる。

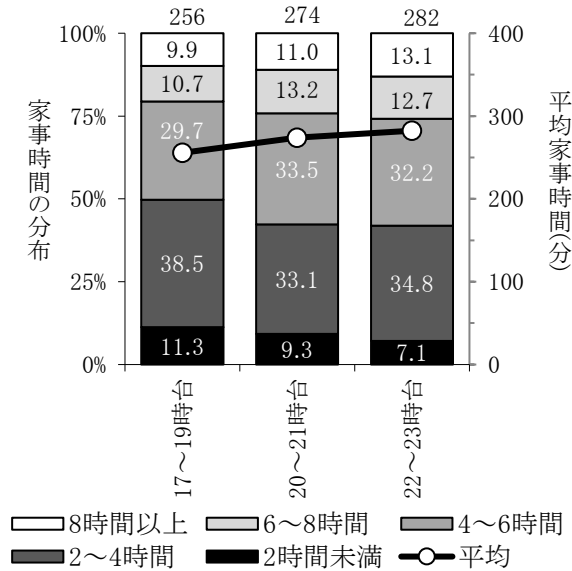
図 4-4 妻の従業上の地位別にみた平日における妻の1日の家事時間の分布と平均
(第6回調査)



注1) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。
 注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。
 注3) 棒グラフの上端の数値は1日の平均時間を表す。

夫の帰宅時間別に妻の平日の家事時間をみると(図4-5)、夫の帰宅時間が遅い世帯ほど妻の1日の平均家事時間は長い。家事時間がもっとも短い「17~19時台」の256分と、もっとも長い「22~23時台」の282分との差は26分である。家事時間の分布をみると、夫の帰宅時間が遅いほど1日の家事時間が「8時間以上」の割合が増すが、帰宅時間が「17-19時台」であっても、妻の約1割は「8時間以上」の家事に従事している。

図 4-5 夫の帰宅時間別にみた平日における妻の1日の家事時間の分布と平均
(第6回調査)

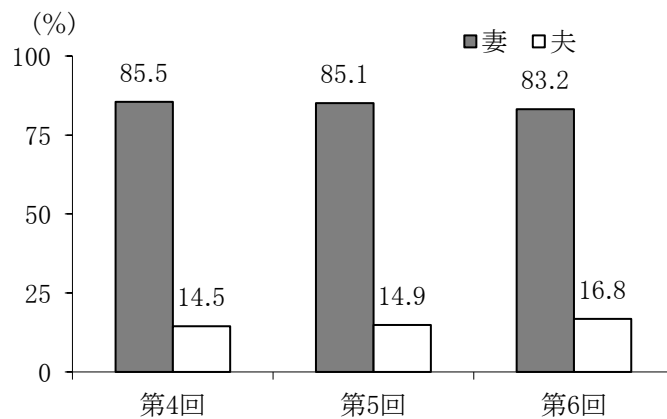


注1) 妻の年齢が60歳未満であり、夫が自宅外で就業する世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。
注2) 棒グラフの上端の数値は1日の平均時間を表す。

2. 妻と夫の家事分担割合

夫と妻が遂行する家事の総量を100としたとき、それぞれが分担する割合について、第4回調査からの平均値をみたものが図4-6である。妻の分担する割合が圧倒的に高く、いずれの調査回でも80%を超える。第4回調査から第6回調査にかけて、妻の分担する割合が低下し、夫の分担する割合が上昇したが、変化は2ポイント程度と限定的である。

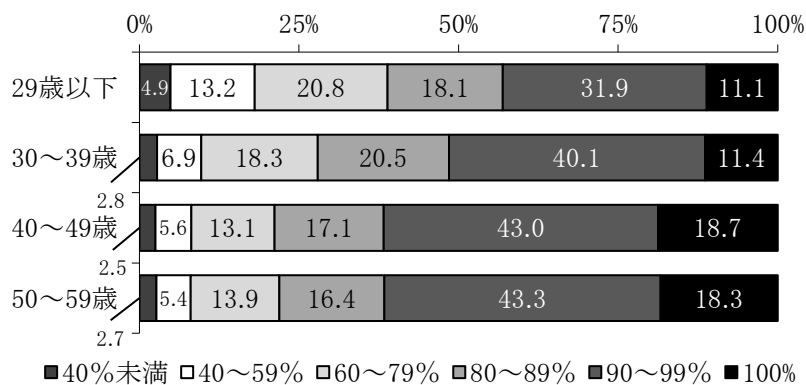
図 4-6 調査回別にみた妻と夫の間での家事分担割合の平均



注1) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。
注2) 図中の数値は夫と妻の家事の合計を100としたときの分担割合を表す。

第6回調査について、妻の年齢別に妻の家事分担割合の分布をみると（図4-7）、妻の分担割合が8割以上となる世帯（図中、「80～89%」、「90～99%」、「100%」の合計）は「29歳以下」から「40～49歳」にかけて高まり、「50～59歳」でやや低下する。これらの合計が78.8%でもっとも多い「40～49歳」の場合、「100%」が18.7%、「90～99%」が43.0%、「80～89%」が17.1%である。一方、これらの合計がもっとも少ない「29歳以下」でも、「100%」が11.1%、「90～99%」が31.9%、「80～89%」が18.1%となっている。

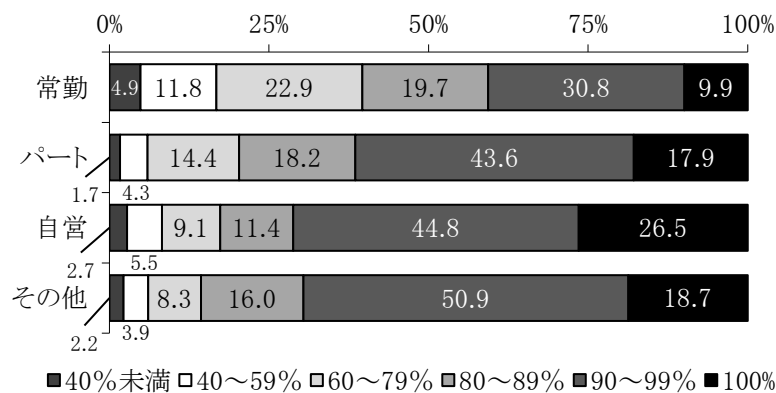
図4-7 妻の年齢別にみた妻の家事分担割合の分布（第6回調査）



注) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

第6回調査について、妻の従業上の地位別に妻の家事分担割合の分布をみると（図4-8）、「常勤」とそれ以外で差がみられる。「常勤」の場合、妻の分担割合は相対的に少なく、妻の分担割合が8割未満となる世帯（図中「40%未満」、「40～59%」、「60～79%」の合計）は39.6%であるが、それでも「100%」が9.9%、「90～99%」が30.8%、「80～89%」が19.7%であり、約6割の妻が家事の80%以上を担っている。専業主婦を含む「その他」の妻においては、85.6%が80%以上の家事を分担している。

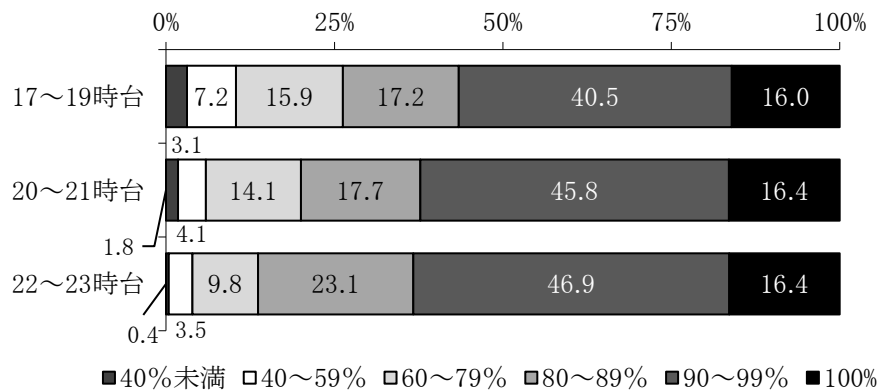
図4-8 妻の従業上の地位別にみた妻の家事分担割合の分布（第6回調査）



注1) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。
 注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

第6回調査について、夫の帰宅時間別に妻の家事分担割合の分布をみると（図4-9）、帰宅時間が遅い世帯ほど妻の分担割合が高い傾向にある。ただし、夫の帰宅時間が「17～19時台」の場合でも、妻の73.7%は分担割合が80%を超えている。また、夫の帰宅時間にかかわらず、約16%の妻は家事を100%担っている。

図4-9 夫の帰宅時間別にみた妻の家事分担割合の分布（第6回調査）



注) 妻の年齢が60歳未満であり、夫が自宅外で就業する世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

3. 妻と夫の家事遂行の実態と変化

(1) 家事の種類別にみた妻と夫の遂行頻度

本調査では、7種類の家事（「ゴミ出し」、「日常の買い物」、「部屋の掃除」、「風呂洗い」、「洗濯」、「炊事」、および「食後の片付け」）について、妻と夫の家事遂行の頻度をたずねている²。家事遂行の頻度については、「毎日・毎回する」、「週3～4回程度する」、「週1～2回程度する」、「月1～2回程度する」、および「まったくしない」の5つから1つを選択する形式となっており、以下では「毎日・毎回する」から「週1～2回程度する」の合計を「週に1～2回以上」と区分した上で、家事遂行の頻度についてみていくことにする。

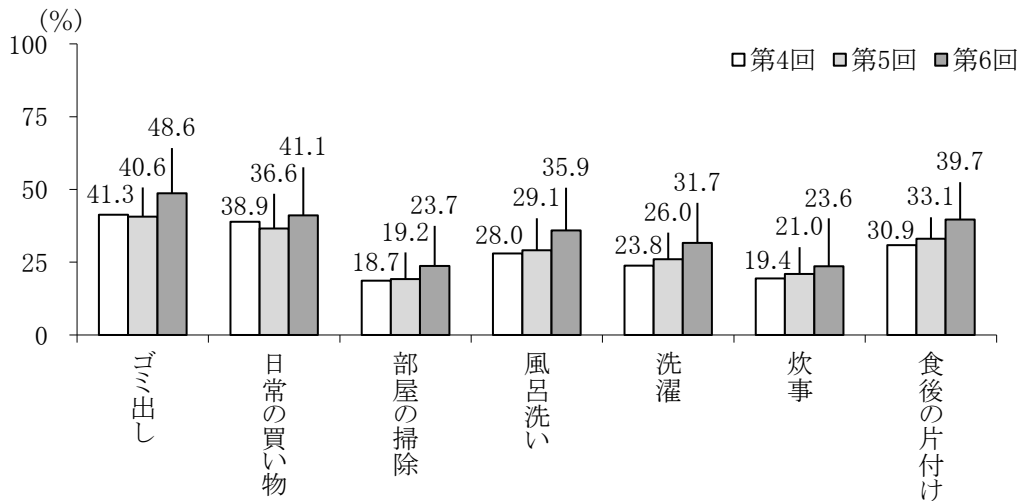
夫の家事遂行の頻度について、家事の種類別に、夫が週に1～2回以上遂行したと答えた妻の割合を示したのが図4-10である。家事の種類によって、週に1～2回以上遂行した夫の割合には差がみられるが、第4回調査以降、週に1～2回以上家事を遂行した夫の割合は上昇傾向にある。夫が週に1～2回以上遂行した割合が高いのは「ゴミ出し」、「日常の買い物」、「食後の片付け」である。これらの家事は、第6回調査では週に1～2回以上遂行した夫が40～50%程度であり、中でも過去の調査に比べて上昇の幅が大きいのは「ゴミ出し」と「食事の後片付け」である。その一方、週に1～2回以上遂行した夫の割合が低いのは「部屋の掃除」の23.7%と、「炊事」の23.6%である。残る「風呂洗い」、「洗濯」は、第6回調査では週に1～2回以上遂行した夫が35.9%と31.7%で、これらも第4回調査からの変化が相対的に大きい。

妻の家事遂行の頻度について、家事の種類別に割合を示したのが図4-11である。妻の家事遂行頻度は第6回調査より調査しているものであるため、過去との比較はできないが、

² 妻の家事遂行頻度については、第6回調査からの新規質問項目である。

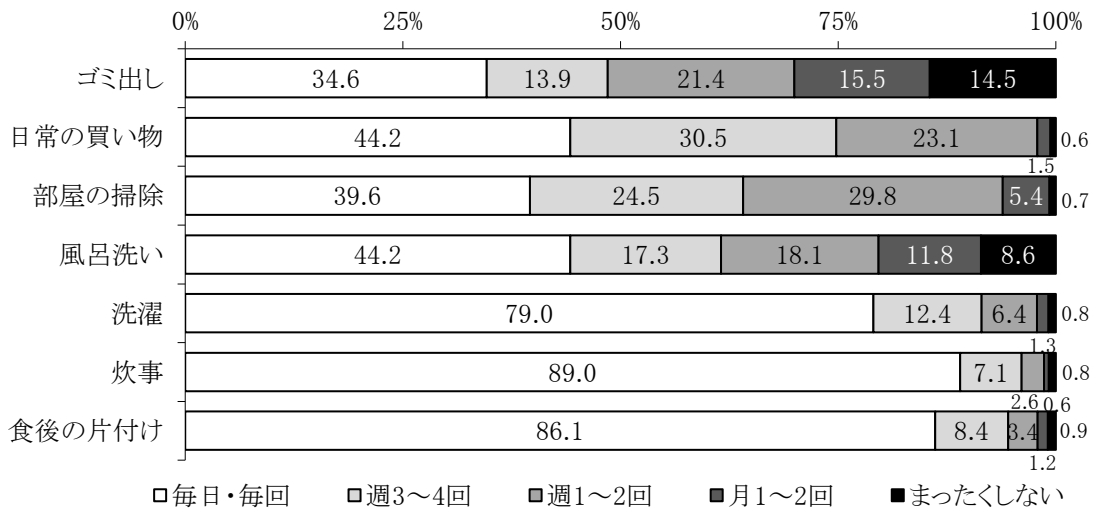
「日常の買い物」、「部屋の掃除」、「洗濯」、「炊事」、「食事の片付け」においては、9割以上の妻が週に1~2回以上遂行している。9割を下回るのは「ゴミ出し」(69.9%)と「風呂洗い」(79.6%)のみとなっている。約8割から9割近くの妻は「洗濯」、「炊事」、「食後の片付け」を「毎日・毎回」を担っている。

図 4-10 調査回別、家事の種類別にみた週1~2回以上家事を遂行した夫の割合



注) 妻の年齢が60歳未満であり、すべての家事の種類について回答している世帯について集計。

図 4-11 家事の種類別にみた妻の家事遂行頻度の割合(第6回調査)

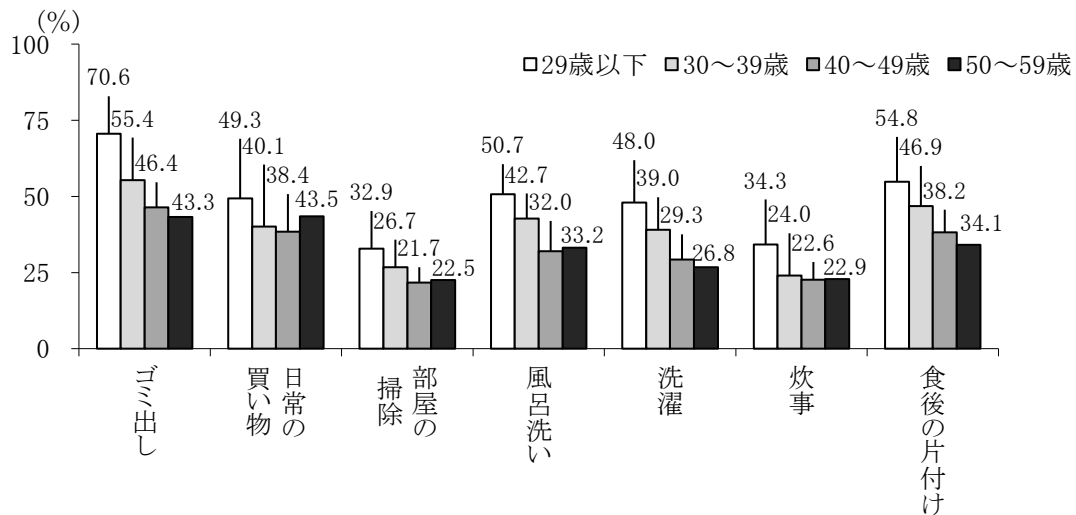


注) 妻の年齢が60歳未満であり、すべての家事の種類について回答している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

第6回調査について、妻の年齢別に家事の種類別の夫の家事遂行の頻度をみると(図4-12)、妻の年齢が若い「29歳以下」で週に1~2回以上遂行した夫の割合は高く、「40~49歳」ないし「50~59歳」で低い。例えば、「食後の片付け」では、週に1~2回以上遂行した夫の割合がもっとも高い「29歳以下」(54.8%)ともっとも低い「50~59歳」

(34.1%)とを比較すると、両者の間におよそ21ポイントの差がみられる。「ゴミ出し」は妻の年齢層別の差がもっとも大きく「29歳以下」(70.6%)と「50～59歳」(43.3%)はおよそ27ポイントの差がある。

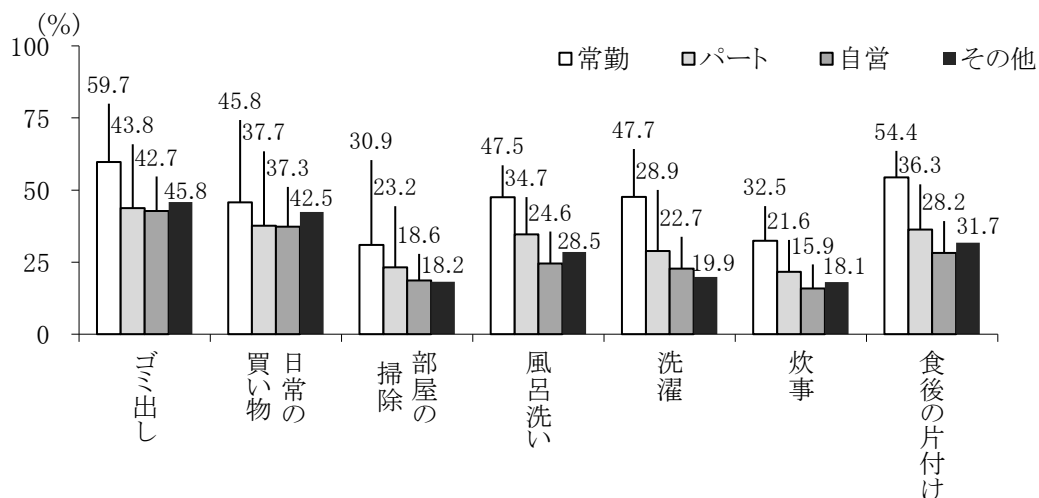
図4-12 妻の年齢別、家事の種類別にみた週1～2回以上家事を遂行した夫の割合
(第6回調査)



注) 妻の年齢が60歳未満であり、すべての家事の種類について回答している世帯について集計。

第6回調査について、妻の従業上の地位別に家事の種類別の夫の家事遂行の頻度をみると(図4-13)、週に1～2回以上遂行した夫の割合は、すべての家事項目において妻が「常勤」である場合にもっとも高い。「風呂洗い」、「洗濯」、「食後の片付け」では妻が「常勤」の場合に比べ、「自営」と「その他」の場合での夫の遂行割合の差がとくに大きい。

図4-13 妻の従業上の地位別、家事の種類別にみた週1～2回以上家事を遂行した夫の割合
(第6回調査)

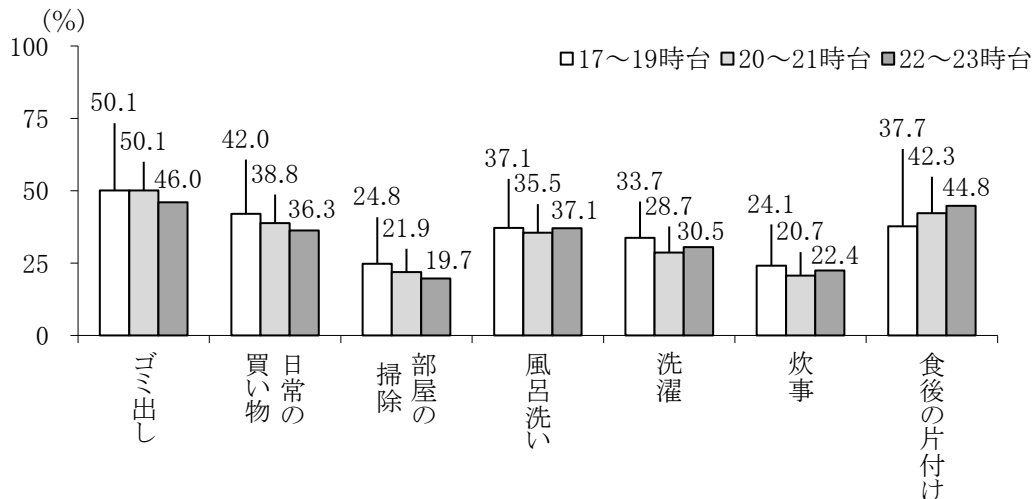


注1) 妻の年齢が60歳未満であり、すべての家事の種類について回答している世帯について集計。

注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

第6回調査について、夫の帰宅時間別に夫の家事遂行の頻度をみると（図4-14）、「ゴミ出し」、「日常の買い物」、「部屋の掃除」では夫の帰宅時間が早い世帯で、夫の家事遂行の頻度は高い。反対に、「食後の片付け」においては、夫の帰宅時間が遅いほうが夫の遂行頻度が高い。

図4-14 夫の帰宅時間別、家事の種類別にみた週1～2回以上家事を遂行した夫の割合（第6回調査）

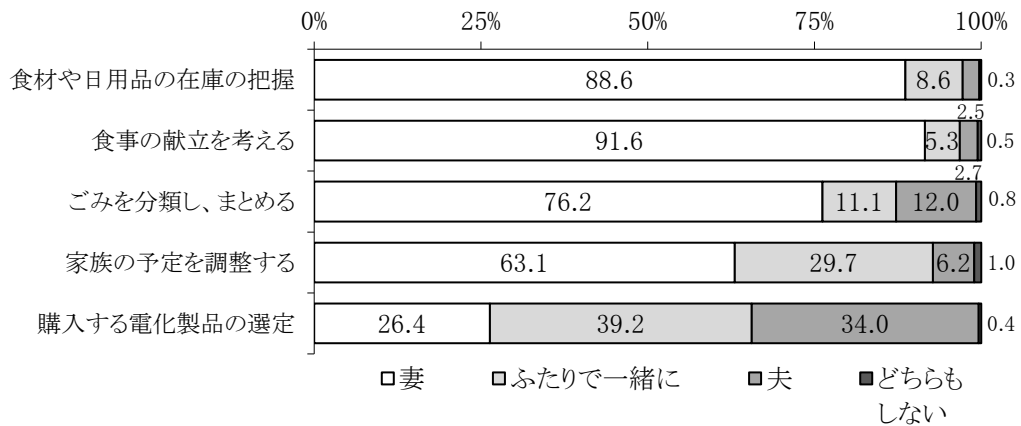


注) 妻の年齢が60歳未満であり、夫が自宅外で就業する世帯のうちすべての家事の種類について回答している世帯について集計。

(2) 夫婦の「見えない家事」の遂行の実態

第6回調査では、先述した家事の種類他に、普段「家事」として語られることの少ない「見えない家事」の遂行について、夫婦の分担の実態を調査している。具体的には5種類の「見えない家事」（「食材や日用品の在庫の把握」、「食事の献立を考える」、「ごみを分類し、まとめる」、「家族の予定を調整する」、および「購入する電化製品の選定」）について6つの選択肢（「妻」、「どちらかというとき妻」、「二人で一緒に」、「どちらかというとき夫」、「夫」、および「どちらもしない」）から1つを選択する形式でたずねている。「見えない家事」5種類の分担を示したのが図4-15であり、ここでは「妻」と「どちらかというとき妻」を「妻」に、「夫」と「どちらかというとき夫」を「夫」にまとめている。「見えない家事」についても妻が担当している割合が高く、とくに「食材や日用品の在庫の把握」と「食事の献立を考える」は約9割の妻が担当している。「購入する電化製品の選定」のみ、「妻」（26.4%）より「夫」（34.0%）が担う割合が高く、「ふたりで一緒に」担当する夫婦も4割近くいる。

図 4-15 夫婦における「見えない家事」の遂行（第6回調査）



注) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

4. 夫の家事に対する妻の期待と評価

(1) 妻の期待

第6回調査における夫の家事に対する妻の期待を、妻の年齢、妻の従業上の地位、夫の帰宅時間別に整理したのが表4-1である。夫の家事に対する妻の期待については、「非常に期待している」、「まあまあ期待している」、「あまり期待していない」、「ほとんど期待していない」、および「もともと期待していない」の5つから1つを選択する形式でたずねており、ここでは「非常に期待している」と「まあまあ期待している」を「期待する」に、「あまり期待していない」と「ほとんど期待していない」と「もともと期待していない」を「期待しない」にまとめた。妻の年齢別にみると、若い年齢層で「期待する」の割合が高い。「期待する」の割合がもっとも高い「29歳以下」の53.0%に対して、「40～49歳」では19.4ポイント低い33.6%である。妻の従業上の地位別にみると、「常勤」の場合に「期待する」の割合が高く、51.0%であったのに対して、「その他」の場合には30.8%と低い。夫の帰宅時間別にみると、夫の帰宅時間が早いほうが「期待する」の割合は高い傾向にある。

表 4-1 夫の家事に対して「期待する」、「期待しない」と回答した妻の割合
(第6回調査)

属性		n	期待する (%)	期待しない (%)
妻の年齢	29歳以下	151	53.0	47.0
	30～39歳	784	42.9	57.1
	40～49歳	1,153	33.6	66.4
	50～59歳	1,159	36.8	63.2
妻の従業上の地位	常勤	812	51.0	49.0
	パート	1,272	33.8	66.2
	自営	228	34.2	65.8
	その他	811	30.8	69.2
夫の帰宅時間	17～19時台	1,336	40.2	59.8
	20～21時台	805	33.4	66.6
	22～23時台	268	31.7	68.3

注1) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。夫の帰宅時間に関しては、夫が自宅外で仕事をしている場合に限って集計。

注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

注3) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

(2) 妻の評価

第6回調査における夫の家事に対する妻の評価を、妻の年齢、妻の従業上の地位、夫の帰宅時間別に整理したのが表4-2である。夫の家事に対する妻の評価については、「非常に満足」、「まあまあ満足」、「やや不満」、および「非常に不満」の4つから1つを選択する形式でたずねており、ここでは「非常に満足」と「まあまあ満足」を「満足」に、「非常に不満」と「やや不満」を「不満」にまとめた。妻の年齢別にみると、若い年齢層で「満足」と評価する傾向にあり、「29歳以下」で65.8%、「30～39歳」で57.4%となるのに対して、「40～49歳」では50.5%にとどまっている。妻の従業上の地位別にみると、「常勤」で「満足」と評価する割合が61.2%と高い一方で、「パート」、「自営」、「その他」ではそれぞれ48.8%、54.7%、53.5%と低い。夫の帰宅時間別にみると、帰宅時間の早いほうが「満足」と評価する割合がやや高く、「17～19時台」においては55.2%が満足としている。

表4-2 夫の家事に対して「満足」、「不満」と回答した妻の割合（第6回調査）

属性	n	満足(%)	不満(%)	
妻の年齢	29歳以下	149	65.8	34.2
	30～39歳	770	57.4	42.6
	40～49歳	1,141	50.5	49.5
	50～59歳	1,125	53.2	46.8
妻の従業上の地位	常勤	799	61.2	38.8
	パート	1,253	48.8	51.2
	自営	225	54.7	45.3
	その他	790	53.5	46.5
夫の帰宅時間	17～19時台	1,309	55.2	44.8
	20～21時台	801	52.9	47.1
	22～23時台	267	50.9	49.1

注1) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。夫の帰宅時間に関しては、夫が自宅外で仕事をしている場合に限って集計。

注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

注3) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

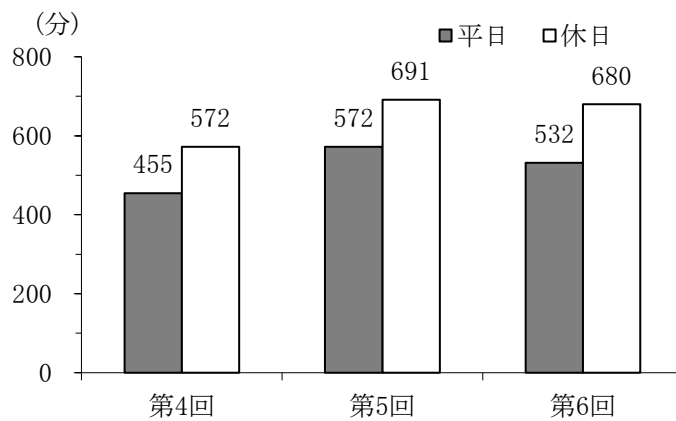
V. 妻と夫の育児分担と育児遂行

本章では、妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもも同居している世帯を主な対象として、妻と夫の育児時間、育児分担割合、育児遂行頻度、および夫の育児に対する妻の期待と評価についてみていく。

1. 妻と夫の育児時間

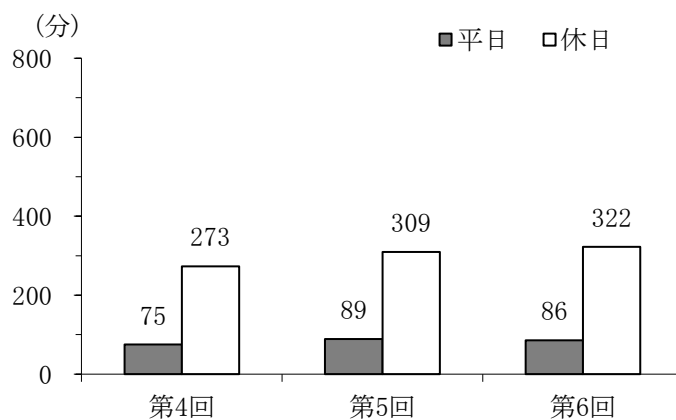
第6回調査における妻の1日の平均育児時間をみると(図5-1)、平日は約530分(8時間50分)、休日はそれより2時間30分長い約680分(11時間20分)となり、第5回調査からやや低下している。一方で、夫の1日の平均育児時間は、平日は約90分(1時間30分)、休日はそれより3時間50分長い約320分(5時間20分)となり、第4回調査以降、休日の育児時間のみ上昇する結果となっている(図5-2)。

図5-1 調査回別にみた妻の1日の平均育児時間



注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもも同居している世帯について集計。

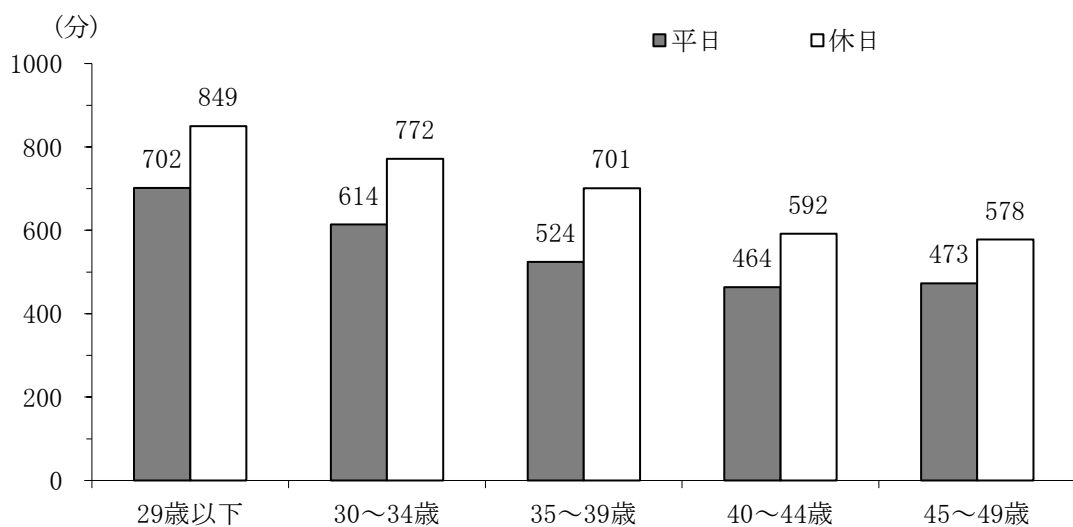
図5-2 調査回別にみた夫の1日の平均育児時間



注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもも同居している世帯について集計。

第6回調査について、妻の年齢別に妻の1日の平均育児時間をみると（図5-3）、平日、休日ともに、高い年齢階級で妻の1日の平均育児時間は低い傾向がみられる。平日の1日の平均育児時間は「29歳以下」で702分、「45～49歳」で473分となり、両者の差は229分であった。同様に、休日の1日の平均育児時間は「29歳以下」で849分、「45～49歳」で578分となり、両者の差は271分であった。

図5-3 妻の年齢別にみた平日と休日における妻の1日の平均育児時間（第6回調査）



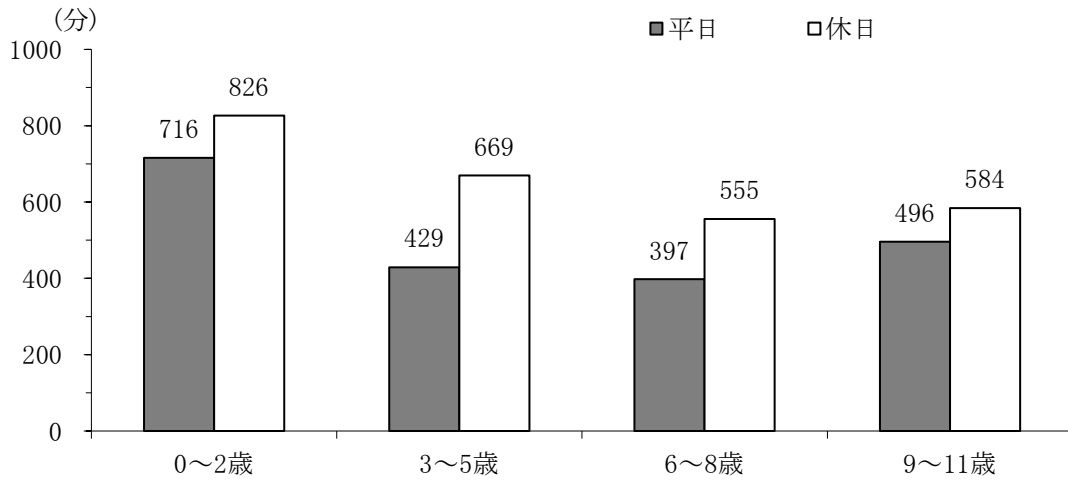
注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。

最年少同居子の年齢別に妻の1日の平均育児時間をみると（図5-4）、平日、休日ともに最年少同居子年齢が「0～2歳」で妻の1日の平均育児時間はもっとも長く、「6～8歳」でもっとも短くなっている。平日の1日の平均育児時間は「0～2歳」で716分、「6～8歳」で397分となり、両者の差は319分であった。同様に、休日の1日の平均育児時間は「0～2歳」で826分、「6～8歳」で555分となり、両者の差は271分であった。

妻の従業上の地位別に妻の1日の平均育児時間をみると（図5-5）、平日の1日の平均育児時間がもっとも短いのは「常勤」の378分、もっとも長いのは「その他」の737分であった³。休日の1日の平均育児時間は「常勤」と「パート」が640分前後であるのに対して、「その他」では732分であった。

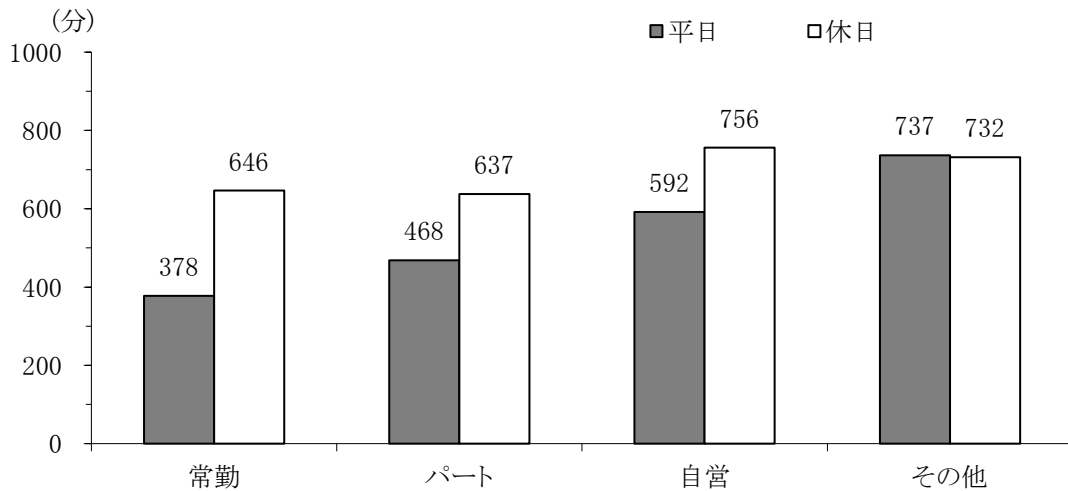
³ 妻の従業上の地位が「その他」と回答した者の多くは、妻が仕事をしていない専業主婦となっている。

図5-4 最年少同居子の年齢別にみた平日と休日における妻の1日の平均育児
(第6回調査)



注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子とも同居している世帯について集計。

図5-5 妻の従業上の地位別にみた平日と休日における妻の1日の平均育児時間
(第6回調査)

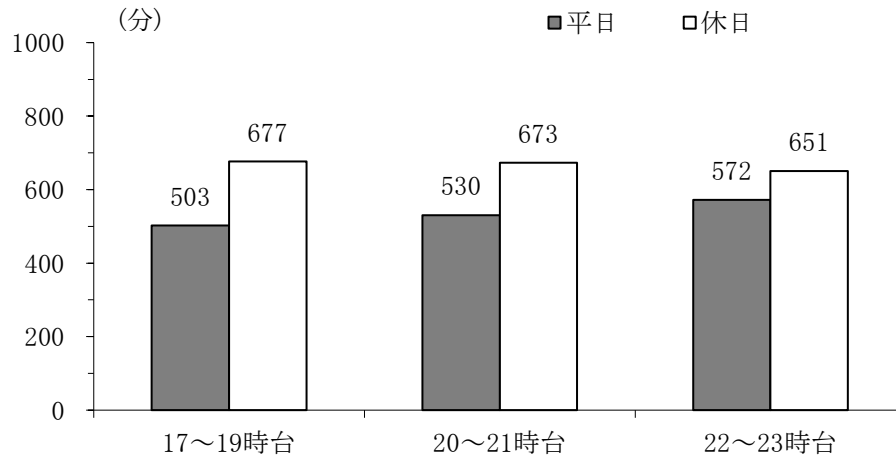


注1) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子とも同居している世帯について集計。

注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

夫の帰宅時間別に妻の1日の平均育児時間をみると(図5-6)、平日では夫の帰宅時間が遅い世帯で妻の1日の平均育児時間が長い傾向となっており、平日では「17～19時台」で503分、「22～23時台」で572分となり、両者の差は69分となっている。休日では、夫の帰宅時間と妻の平均育児時間のあいだに明確な関係はみられず、「17～19時台」で677分、「22～23時台」で651分となっている。

図 5-6 夫の帰宅時間別にみた平日と休日における妻の1日の平均育児時間
(第6回調査)

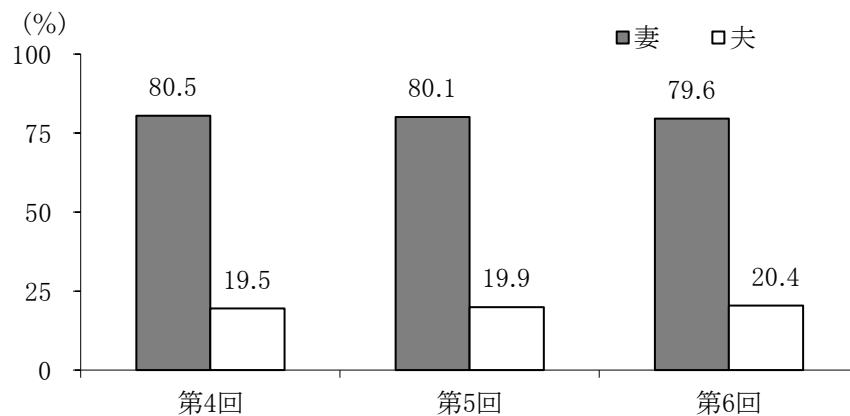


注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。

2. 妻と夫の育児分担割合

夫と妻が遂行する育児の総量を100としたとき、それぞれが分担する割合について、第4回調査からの平均値をみたものが図5-7である。第4回調査以降、妻と夫の育児分担割合は妻が8割前後、夫が2割前後でほぼ横ばいで推移しており、妻の分担割合が夫を圧倒的に上回っている。

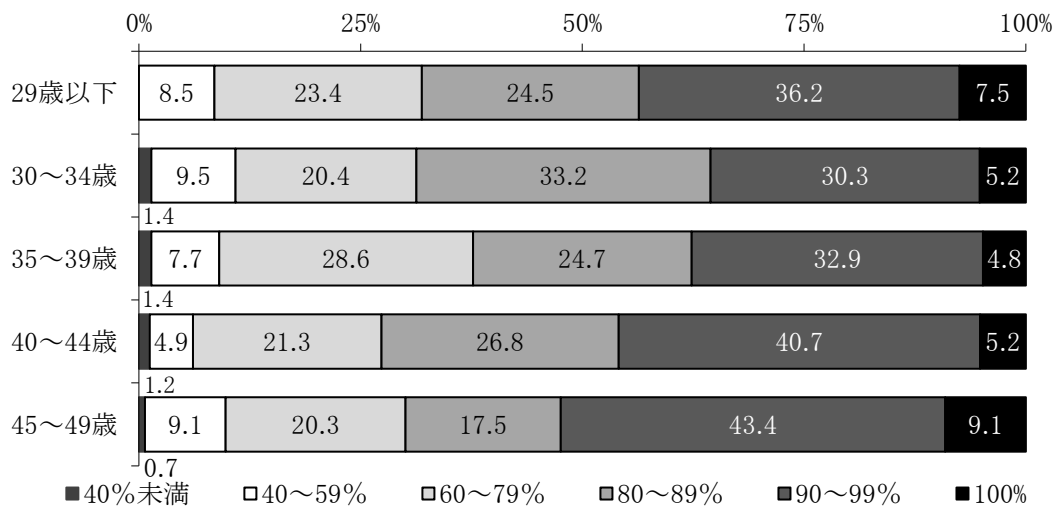
図 5-7 調査回別にみた妻と夫の間での育児分担割合の平均



注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

第6回調査について、妻の年齢別に妻の育児分担割合の分布をみると(図5-8)、妻の育児分担割合が9割以上となる世帯の割合(図中「90～99%」と「100%」の合計、以下同じ)は、妻の年齢が「30～34歳」で35.5%ともっとも低く、年齢階級が高いほどこの値は高くなり、「45～49歳」で52.5%ともっとも高くなる。

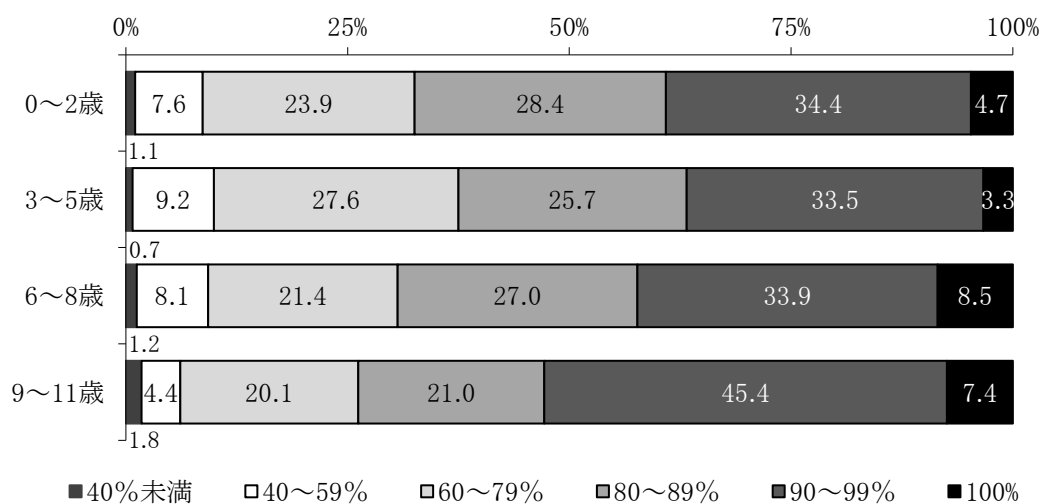
図 5-8 妻の年齢別にみた妻の育児分担割合の分布（第6回調査）



注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子とも同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

最年少同居子の年齢別に妻の育児分担割合の分布をみると（図 5-9）、妻の育児分担割合が9割以上となる世帯の割合は、最年少同居子の年齢が「3～5歳」で36.8%と最も低く、最年少同居子の年齢が高い世帯ほどこの値は高くなり、「9～11歳」で52.8%と最も高くなる。

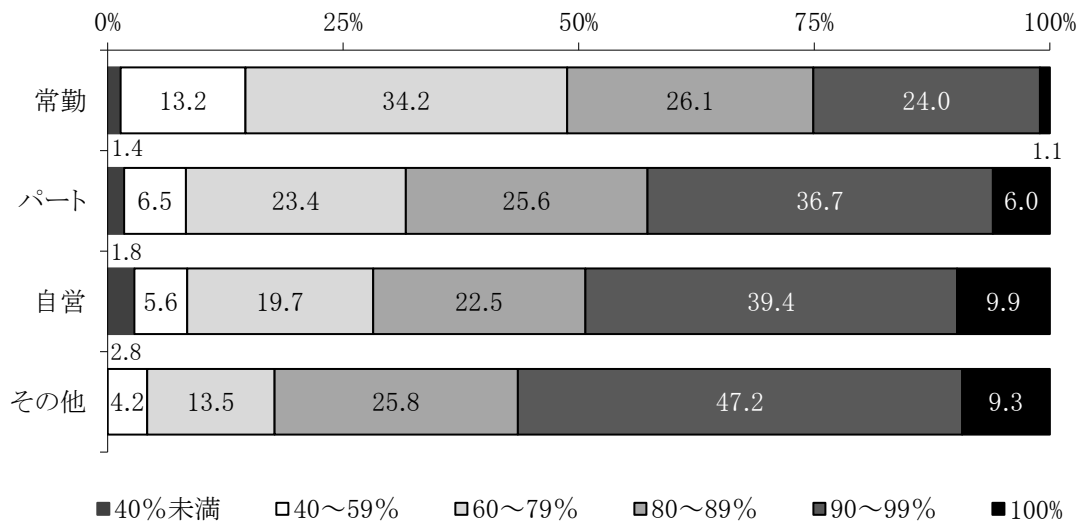
図 5-9 最年少同居子の年齢別にみた妻の育児分担割合の分布（第6回調査）



注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子とも同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

妻の従業上の地位別に妻の育児分担割合の分布をみると（図 5-10）、妻の育児分担割合が9割以上となる世帯の割合は、妻の従業上の地位が「常勤」の場合で25.1%と最も低く、「その他」の場合で56.5%と最も高くなっている。

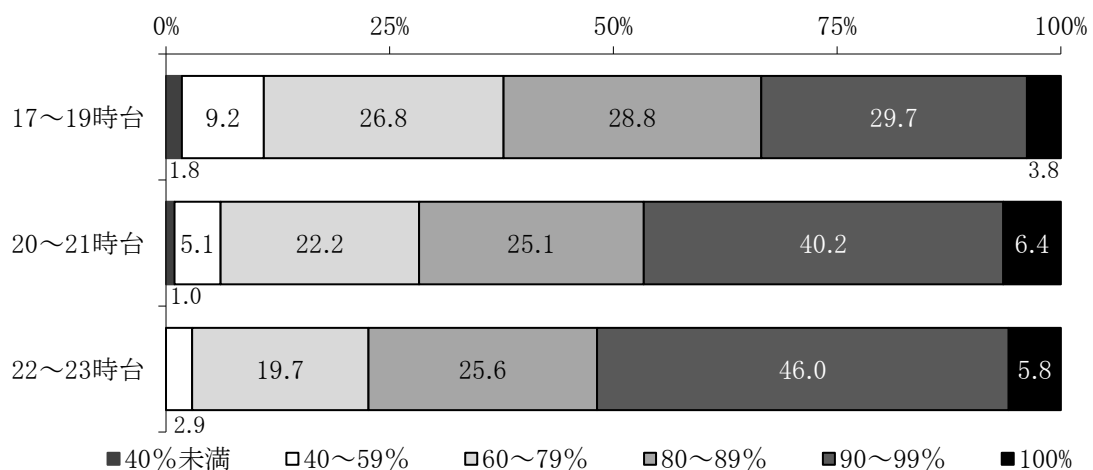
図 5-10 妻の従業上の地位別にみた妻の育児分担割合の分布（第6回調査）



注1) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子とも同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。
 注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

夫の帰宅時間別に妻の育児分担割合の分布をみると（図5-11）、妻の育児分担割合が9割以上となる世帯の割合は、夫の帰宅時間が早いグループほど低くなり、夫の帰宅時間が「17～19時台」の場合で33.5%であるのに対して、「22～23時台」の場合は51.8%となる。

図 5-11 夫の帰宅時間別にみた妻の育児分担割合の分布（第6回調査）



注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子とも同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

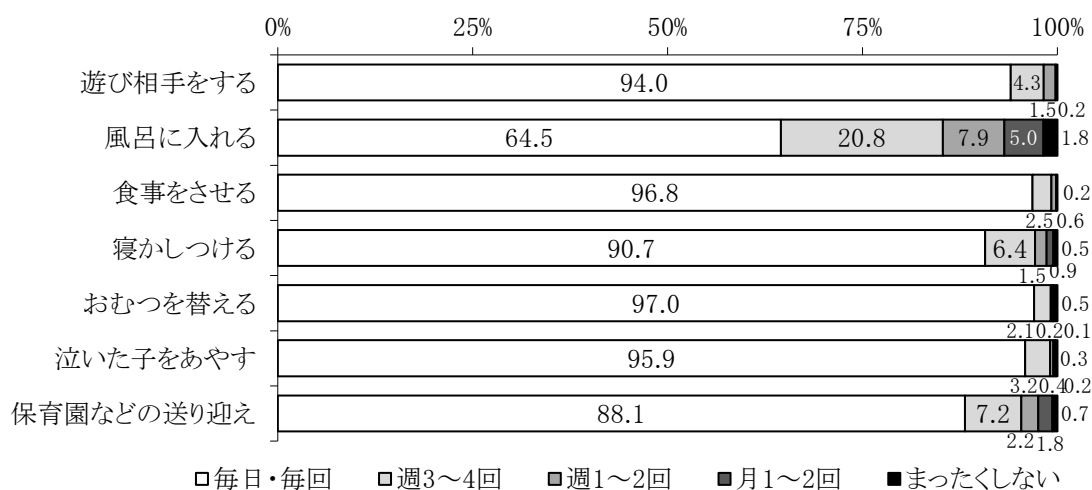
3. 妻と夫の育児遂行の実態と変化

本調査では、7種類の育児（「遊び相手をする」、「風呂に入れる」、「食事をさせる」、「寝かしつける」、「おむつを替える」、「泣いた子をあやす」、および「保育園などの送り迎え」）

について、妻と夫の家事遂行の頻度をたずねている⁴。育児遂行の頻度については、「毎日・毎回する」、「週3～4回程度する」、「週1～2回程度する」、「月1～2回程度する」、および「まったくしない」の5つから1つを選択する形式となっている⁵。

子どもが3歳までの育児に対する妻の遂行頻度を、育児の種類別に示したのが図5-12である。ここでは7種類の育児について全て回答した世帯を対象に集計を行っている⁶。「毎日・毎回する」と回答した妻の割合は多くの項目で9割を超えており、9割を下回るのは「保育園などの送り迎え」（88.1%）と「風呂に入れる」（64.5%）のみとなっている。

図5-12 育児の種類別にみた妻の育児遂行頻度の割合（第6回調査）



注) 妻の年齢が50歳未満であり、子どもがいる世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図5-13は、第4回調査から第6回調査にかけての、子どもが3歳までの育児に対する夫の遂行頻度を育児の種類別に示している。ここでは「毎日・毎回する」から「週1～2回程度する」の合計を「週1～2回以上」と区分した上で、夫の育児遂行頻度が「週1～2回以上」と回答した世帯の割合の推移をみている。育児の種類によって、「週1～2回以上」遂行した世帯の割合には差がみられるが、第4回調査以降、「寝かしつける」では夫の育児遂行頻度が「週1～2回以上」と回答した世帯の割合が低下しているのに対して、「おむつを替える」や「保育園などの送り迎え」では「週1～2回以上」と回答した世帯の割合が上昇している。「週1～2回以上」と回答した世帯の割合が高いのは「遊び相手をする」と「風呂に入れる」で、第6回調査ではいずれも70%を超える。これに続くのが「泣いた子をあやす」や「おむつを替える」、「食事をさせる」で、第6回調査ではいずれも「週1～2回以上」夫が遂行したと回答した世帯の割合が60%程度となる。これに対して、夫の遂行頻度が「週1

⁴ 妻の育児遂行頻度については、第6回調査からの質問項目である。

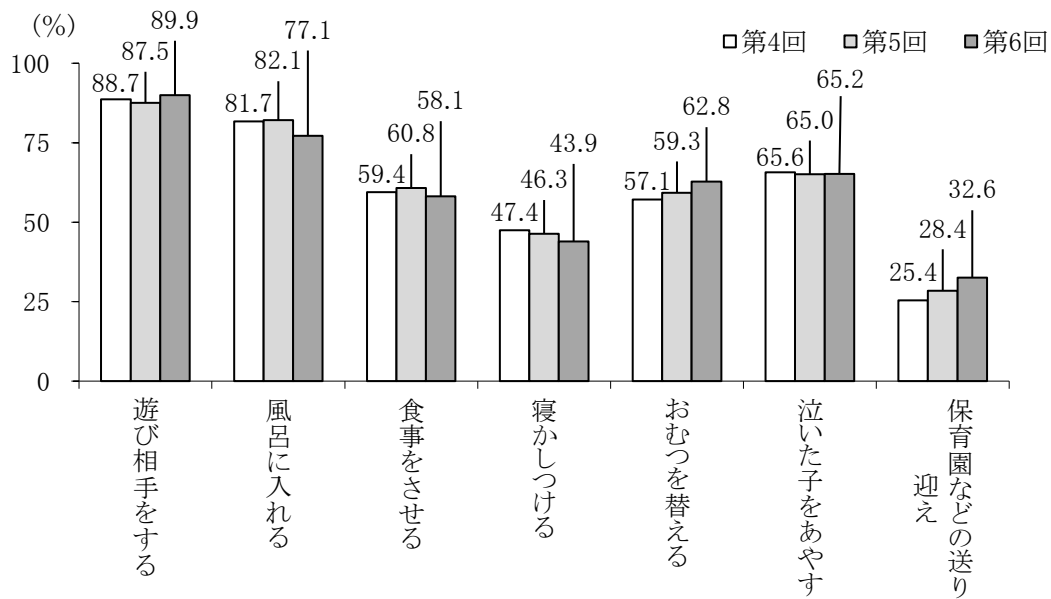
⁵ 「保育園などの送り迎え」については、「毎日・毎回する」、「週3～4回程度する」、「週1～2回程度する」、「月1～2回程度する」、「まったくしない」、および「利用していない」の6つから1つを選ぶ形式となっている。

⁶ 「保育園などの送り迎え」については「利用していない」と回答した世帯を除外して集計している。

～2回以上」と回答した世帯の割合が低いのは「寝かしつける」や「保育園などの送り迎え」であり、それぞれ第6回調査では43.9%、32.6%であった。

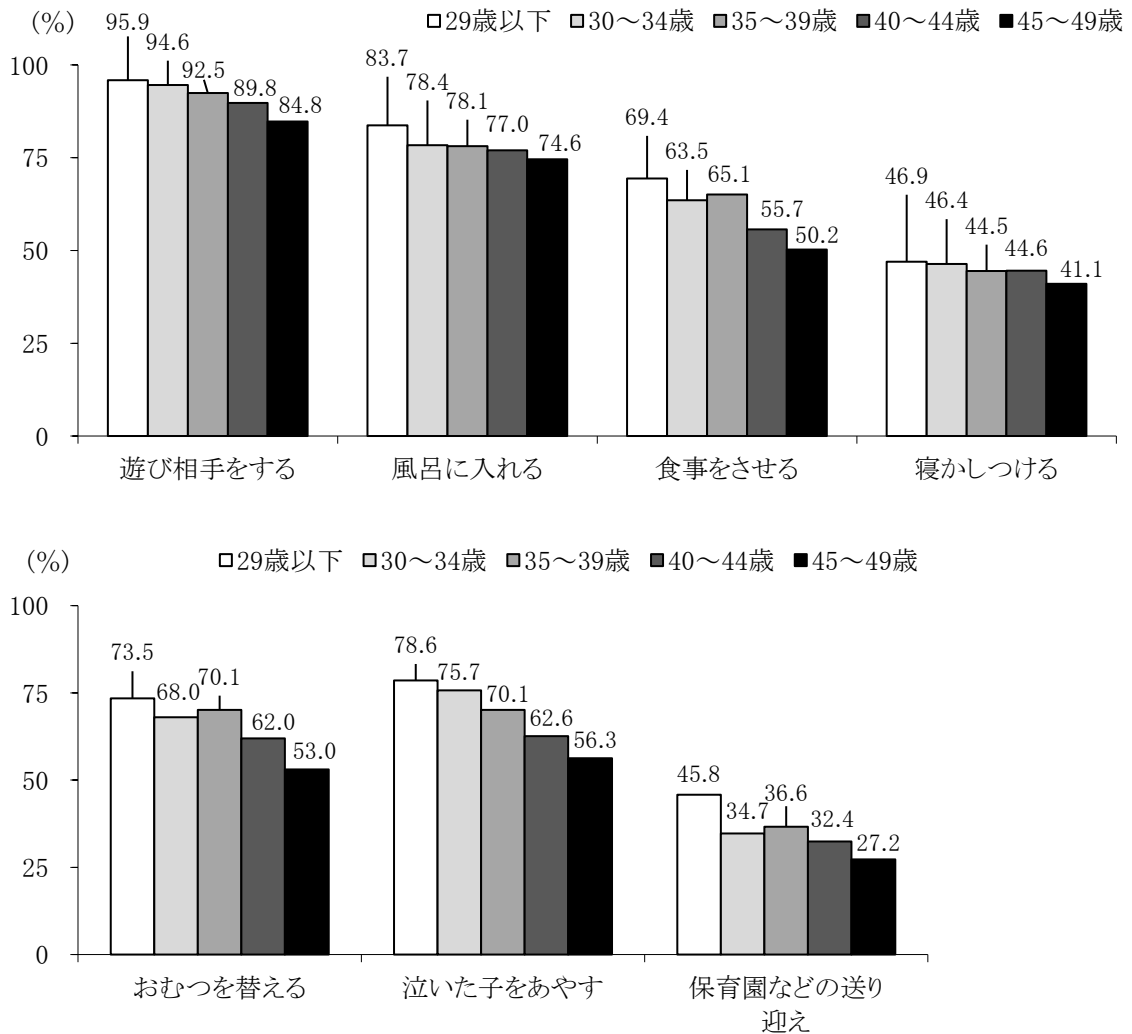
第6回調査について、妻の年齢別に育児の種類別の夫の育児遂行の頻度をみると（図5-14）、おおむね妻の年齢が低い階級で夫の遂行頻度が「週1～2回以上」と回答した世帯の割合が高くなっている。とくに、「食事をさせる」、「おむつを替える」、「泣いた子をあやす」および「保育園などの送り迎え」においては、妻の年齢が「29歳以下」の場合に「45～49歳」の場合と比べて夫の育児遂行頻度が「週1～2回以上」と回答した世帯の割合が20ポイント程度高くなっている。

図5-13 調査回別、育児の種類別にみた週1～2回以上育児を遂行した夫の割合



注) 妻の年齢が50歳未満であり、子どもがいる世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。

図 5-14 妻の年齢別、育児の種類別にみた週 1～2 回以上育児を遂行した夫の割合
(第 6 回調査)



注) 妻の年齢が 50 歳未満であり、子どもがいる世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。

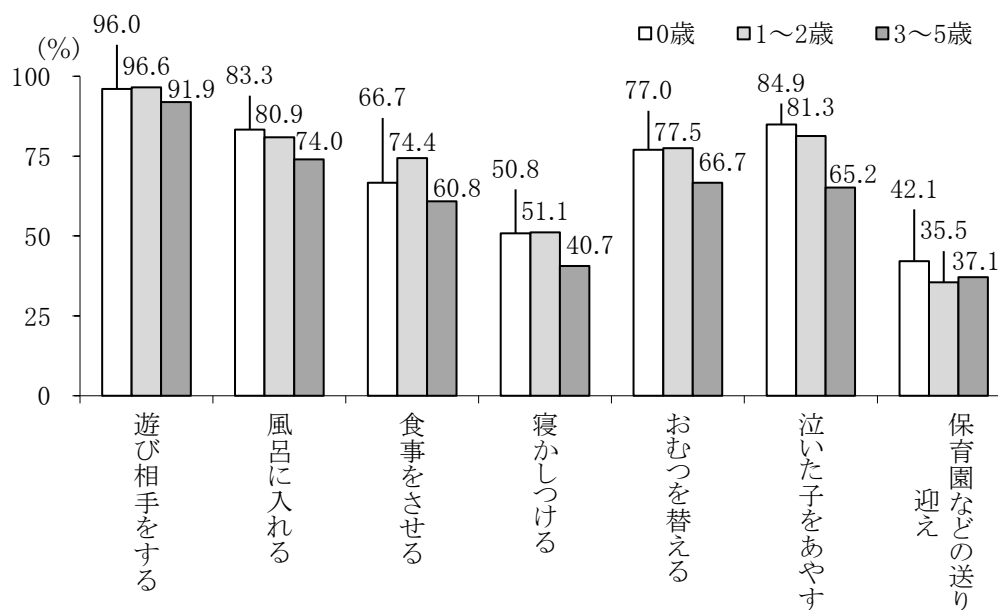
ここに示した育児の種類別の夫の遂行頻度は子どもが 3 歳までの育児に関するものである。そこで、妻や夫の現在の属性と 3 歳までの育児を行っていた当時の状況との類似性が比較的高いと想定される 6 歳未満の子どもと同居している世帯に限定し、第 6 回調査について、最年少同居子の年齢、妻の従業上の地位、および夫の帰宅時間と夫の育児遂行の頻度との関係を見ていこう。最年少同居子の年齢別にみると、ほぼ全ての項目で最年少同居子の年齢が「3～5 歳」の場合に夫の育児遂行頻度が「週 1～2 回以上」と回答した世帯の割合がもっとも低くなっており、最年少同居子の年齢が「0 歳」や「1～2 歳」の場合と比べて、夫の育児遂行頻度が低くなっている (図 5-15)。

妻の従業上の地位別にみると、夫の育児遂行頻度を「週 1～2 回以上」と回答した世帯の割合は妻の従業上の地位が「常勤」の場合に高くなっている (図 5-16)。とくに、「保育園な

どの送り迎え」や「食事をさせる」では、妻の従業上の地位が「常勤」の場合と「その他」の場合での差が大きくなっており、両者の差は「保育園などの送り迎え」で26.0ポイント、「食事をさせる」で16.2ポイントとなっている。

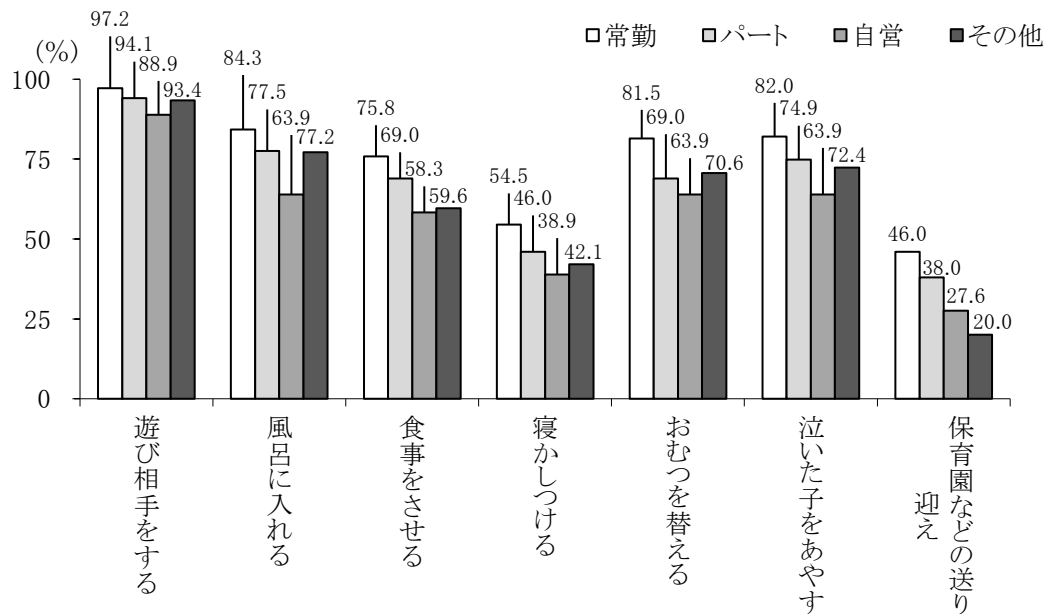
夫の帰宅時間別にみると、夫の帰宅時間が遅い世帯で夫の育児遂行頻度を「週1～2回以上」と回答した世帯の割合は低い傾向がみられる（図5-17）。とくに、「食事をさせる」、「寝かしつける」および「泣いた子をあやす」では、夫の帰宅時間が「17～19時台」の場合と「22時～23時台」の場合での差が10ポイントを上回っている。

図5-15 最年少同居子の年齢別、育児の種類別にみた週1～2回以上育児を遂行した夫の割合（第6回調査）



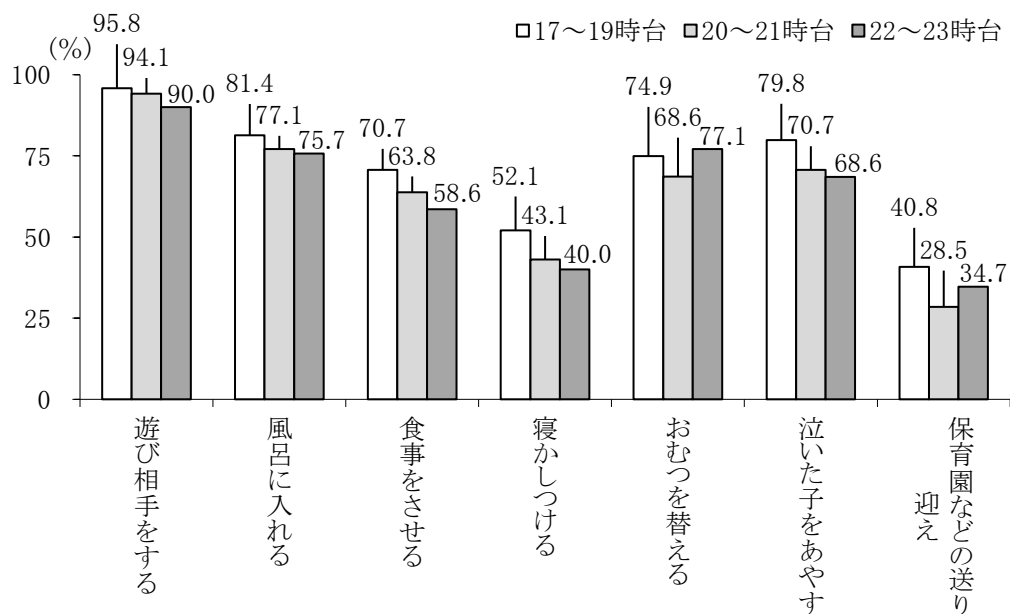
注) 妻の年齢が50歳未満であり、6歳未満の子とも同居している世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。

図 5-16 妻の従業上の地位別、育児の種類別にみた週 1～2 回以上育児を遂行した夫の割合
(第 6 回調査)



注 1) 妻の年齢が 50 歳未満であり、6 歳未満の子とも同居している世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。
注 2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

図 5-17 夫の帰宅時間別、育児の種類別にみた週 1～2 回以上育児を遂行した夫の割合
(第 6 回調査)



注) 妻の年齢が 50 歳未満であり、6 歳未満の子とも同居している世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。

4. 夫の育児に対する妻の期待と評価

(1) 妻の期待

妻の年齢が50歳未満であり、18歳未満の子どもと同居している世帯を対象として、第6回調査における夫の育児に対する妻の期待を、妻の年齢、最年少同居子の年齢、妻の従業上の地位、夫の帰宅時間別に整理したのが表5-1である⁷。夫の育児に対する妻の期待については、「非常に期待している」、「まあまあ期待している」、「あまり期待していない」、「ほとんど期待していない」、および「もともと期待していない」の5つから1つを選択する形式でたずねており、ここでは「非常に期待している」と「まあまあ期待している」を「期待する」に、「あまり期待していない」、「ほとんど期待していない」および「もともと期待していない」を「期待しない」にまとめた。

夫の育児に対する妻の期待について、「期待する」と回答した世帯の割合は53.6%となっており、「期待する」が「期待しない」をやや上回っている。妻の年齢別にみると、「期待する」と回答した世帯の割合はおおむね妻の年齢が高い階級で低い傾向にある。最年少同居子の年齢別にみると、最年少同居子の年齢が高いグループで「期待する」と回答した世帯の割合は低く、「0歳」では「期待する」と回答した割合が70%を上回るのに対して、「12～17歳」では42.9%となる。妻の従業上地位別にみると、「常勤」の場合に「期待する」と回答した世帯の割合が62.8%でもっとも高くなっている。夫の帰宅時間別にみると、夫の帰宅時

表5-1 夫の育児に対して「期待する」、「期待しない」と回答した妻の割合（第6回調査）

属性	n	期待する (%)	期待しない (%)
全体	1,566	53.6	46.4
妻の年齢	29歳以下	93	60.2
	30～34歳	219	61.6
	35～39歳	398	59.6
	40～44歳	458	51.5
	45～49歳	398	44.0
最年少同居子	0歳	126	71.4
	1～2歳	251	64.9
	3～5歳	290	60.7
	6～11歳	514	47.7
	12～17歳	385	42.9
妻の従業上の地位	常勤	395	62.8
	パート	613	50.6
	自営	98	44.9
	その他	401	49.9
夫の帰宅時間	17～19時台	625	58.2
	20～21時台	429	50.8
	22～23時台	175	46.9

注1) 妻の年齢が50歳未満であり、18歳未満の子どもと同居している世帯について集計。夫の帰宅時間に関しては、夫が自宅外で仕事をしている場合に限って集計。

注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事をもたないいわゆる専業主婦である。

注3) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

⁷ 妻の従業上の地位との関係については、夫が自宅外で就業している場合に限って集計。

間が遅い世帯で「期待する」と回答した世帯の割合は低く、夫の帰宅時間時間が「17～19時台」の場合に「期待する」と回答した世帯の割合が58.2%であるのに対して、「22～23時台」では46.9%となっている。

(2) 妻の評価

妻の年齢が50歳未満であり、18歳未満の子どもと同居している世帯を対象として、第6回調査における夫の育児に対する妻の評価を、妻の年齢、最年少同居子の年齢、妻の従業上の地位、夫の帰宅時間別に整理したのが表5-2である⁸。夫の育児に対する妻の評価については、「非常に満足」、「まあまあ満足」、「やや不満」、および「非常に不満」の4つから1つを選択する形式でたずねており、ここでは「非常に満足」と「まあまあ満足」を「満足」に、「非常に不満」と「やや不満」を「不満」にまとめた。

夫の育児に対する妻の評価について、「満足」と回答した妻の割合は57.1%となっており、「満足」が「不満」を上回っている。妻の年齢別にみると、「満足」と回答した世帯の割合は妻の年齢が高い階級で低く、妻の年齢が「29歳以下」の場合で67.4%であるのに対して、「45～49歳」では49.6%となっている。最年少同居子の年齢別にみると、最年少同居子の年齢が高いグループで「満足」と回答した世帯の割合は低く、「0歳」では「満足」と回答した割合が70%を上回るのに対して、「12～17歳」では52.3%となる。妻の従業上の地位別にみると、「満足」と回答した世帯の割合は「常勤」でもっとも高く、「その他」でもっと

表5-2 夫の育児に対して「満足」、「不満」と回答した妻の割合（第6回調査）

属性	n	満足 (%)	不満 (%)
全体	1,521	57.1	42.9
妻の年齢	29歳以下	89	67.4
	30～34歳	216	63.4
	35～39歳	379	60.4
	40～44歳	446	55.8
	45～49歳	391	49.6
最年少同居子	0歳	124	70.2
	1～2歳	242	64.5
	3～5歳	279	56.3
	6～11歳	499	54.5
	12～17歳	377	52.3
妻の従業上の地位	常勤	387	66.9
	パート	592	53.0
	自営	97	53.6
	その他	391	52.7
夫の帰宅時間	17～19時台	606	64.5
	20～21時台	421	58.9
	22～23時台	173	42.8

注1) 妻の年齢が50歳未満であり、18歳未満の子どもと同居している世帯について集計。夫の帰宅時間に関しては、夫が自宅外で仕事をしている場合に限って集計。

注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事をもたないいわゆる専業主婦である。

注3) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

⁸ 妻の従業上の地位との関係については、夫が自宅外で就業している場合に限って集計。

も低くなっており、両者の差は14.2ポイントとなっている。夫の帰宅時間との関係を見ると、夫の帰宅時間が早い「17～19時台」で「満足」の割合が64.5%と高く、「22～23時台」では42.8%と低い結果となっている。

VI. 妻と夫のコミュニケーション

1. 妻と夫の共通行動の頻度

妻と夫の共通行動について、第6回調査では、これまでの6項目に加え、「夫婦だけで出かける」、「夫婦間のスキンシップ」、および「夫婦間の性交渉」の3項目を追加した。設問は、それぞれの項目について、「よくある」、「ときどきある」、「あまりない」、および「まったくない」の4つの選択肢から1つを選択する形式である。本章において、「ある」という場合は「よくある」と「ときどきある」を、「ない」という場合は「あまりない」と「まったくない」を合計したものである。ここでの集計対象は、有効回答のうち、これら9項目すべてに回答した5,174名分である。

妻と夫の共通行動の有無を表6-1に示した。第6回調査において、夫婦が一緒に行う行動として「ある」の割合がもっとも高いのは「夕食を一緒にする」(89.9%)で、以下、「その日の帰宅時間や週の予定などを話す」(77.9%)、「買い物に行く」(72.6%)、「心配事や悩み事を相談する」(68.1%)、「休日の過ごし方について話し合う」(65.1%)、「夫婦だけで出かける」(57.5%)、「旅行(日帰りを含む)に出かける」(53.3%)と続き、9項目のうち7項目では半数以上の夫婦が行動をとともにしている。また、これら7項目のうち、第6回調査で追加された「夫婦だけで出かける」を除く6項目の順位は、第4回調査以降同じである。第6回調査で追加された他の2項目については、「夫婦間のスキンシップ」が「ある」と回答した者は41.1%、「夫婦間の性交渉」については24.3%という結果となった。

第4回調査から継続してたずねている6つの項目について第4回調査と比較すると、「ある」の割合がもっとも高い「夕食を一緒にする」では大きな変化はみられないが、「旅行(日帰りを含む)に出かける」は約3ポイント高く、それ以外の4項目では約3~6ポイント低くなっている。

表6-1 調査回別にみた妻と夫の共通行動の割合(%)

項目	第4回		第5回		第6回	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない
夕食を一緒にする	89.6	10.4	88.7	11.3	89.9	10.1
買い物に行く	76.5	23.5	73.5	26.5	72.6	27.4
旅行(日帰りを含む)に出かける	49.9	50.1	51.6	48.4	53.3	46.7
その日の帰宅時間や週の予定などを話す	81.0	19.0	76.9	23.1	77.9	22.1
休日の過ごし方について話し合う	69.0	31.0	63.5	36.5	65.1	34.9
心配事や悩み事を相談する	73.8	26.2	69.3	30.7	68.1	31.9
夫婦だけで出かける	-	-	-	-	57.5	42.5
夫婦間のスキンシップ	-	-	-	-	41.1	58.9
夫婦間の性交渉	-	-	-	-	24.3	75.7
n	6,149		5,740		5,174	

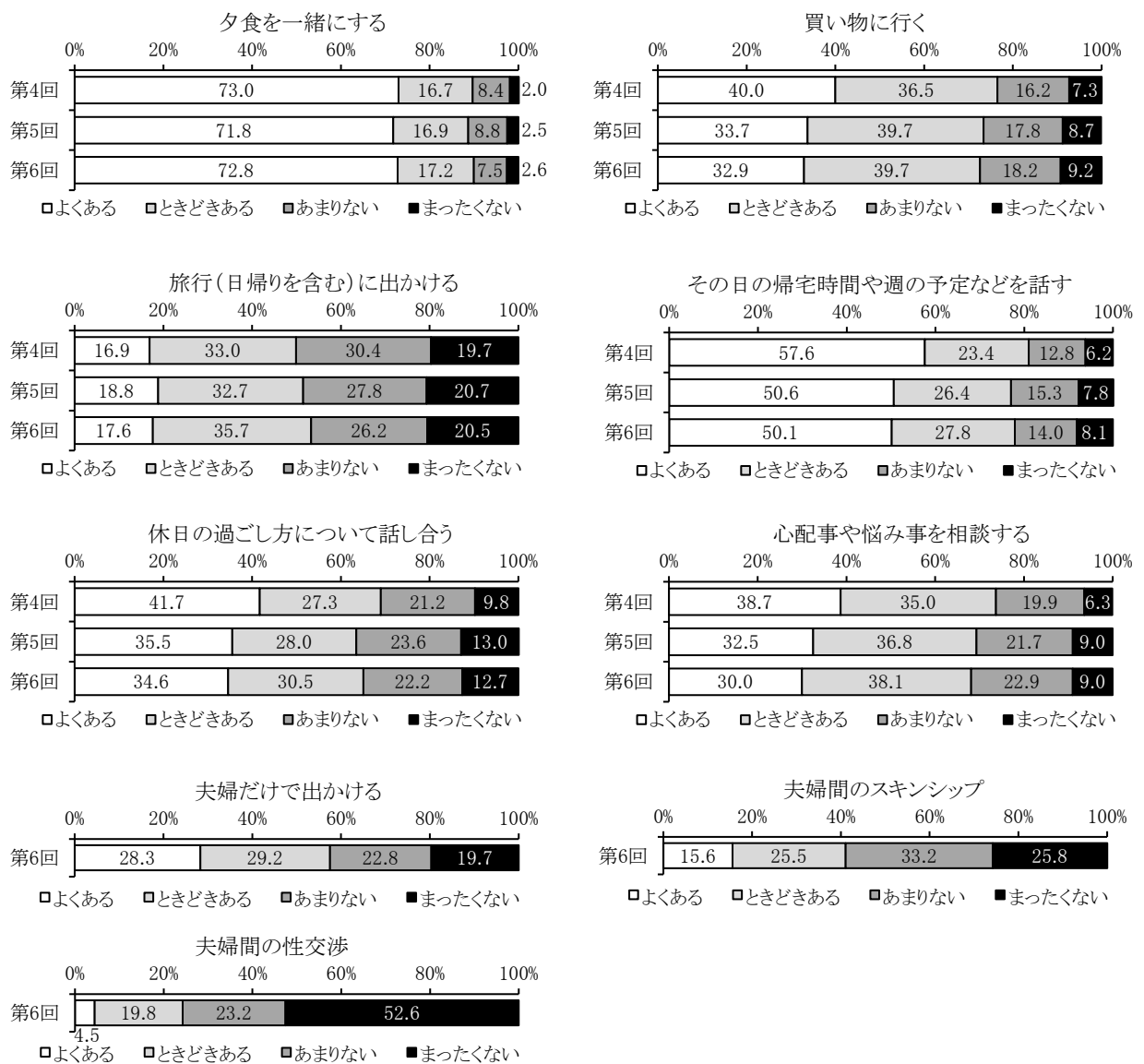
注1) すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) 「夫婦で出かける」「夫婦間のスキンシップ」「夫婦間の性交渉」は第6回からの項目である。

もう少し詳しくみると、約9割の対象者が「ある」と答えた「夕食を一緒にする」は、そのうち「よくある」の割合も72.8%と最も高い(図6-1)。また、「その日の帰宅時間や週の予定などを話す」や「休日の過ごし方について話し合う」も「よくある」が「ときど

きある」にくらべて優勢である。他方、「買い物に行く」、「旅行（日帰りを含む）に出かける」、「心配事や悩み事を相談する」、「夫婦間の性交渉」、および「夫婦間のスキンシップ」は「よくある」よりも「ときどきある」の割合が大きい。「夫婦だけで出かける」については、4つの選択肢の割合が「よくある」の28.3%から「まったくない」の19.7%まで4等分に近い分布となっている。一方、「まったくない」の割合をみると、「夫婦間の性交渉」(52.6%)、「夫婦間のスキンシップ」(25.8%)と夫婦間の身体的接触に関するもので大きく、次いで「旅行（日帰りを含む）に出かける」(20.5%)、「夫婦だけで出かける」(19.7%)といった夫婦での余暇的な外出が大きな値を示した。

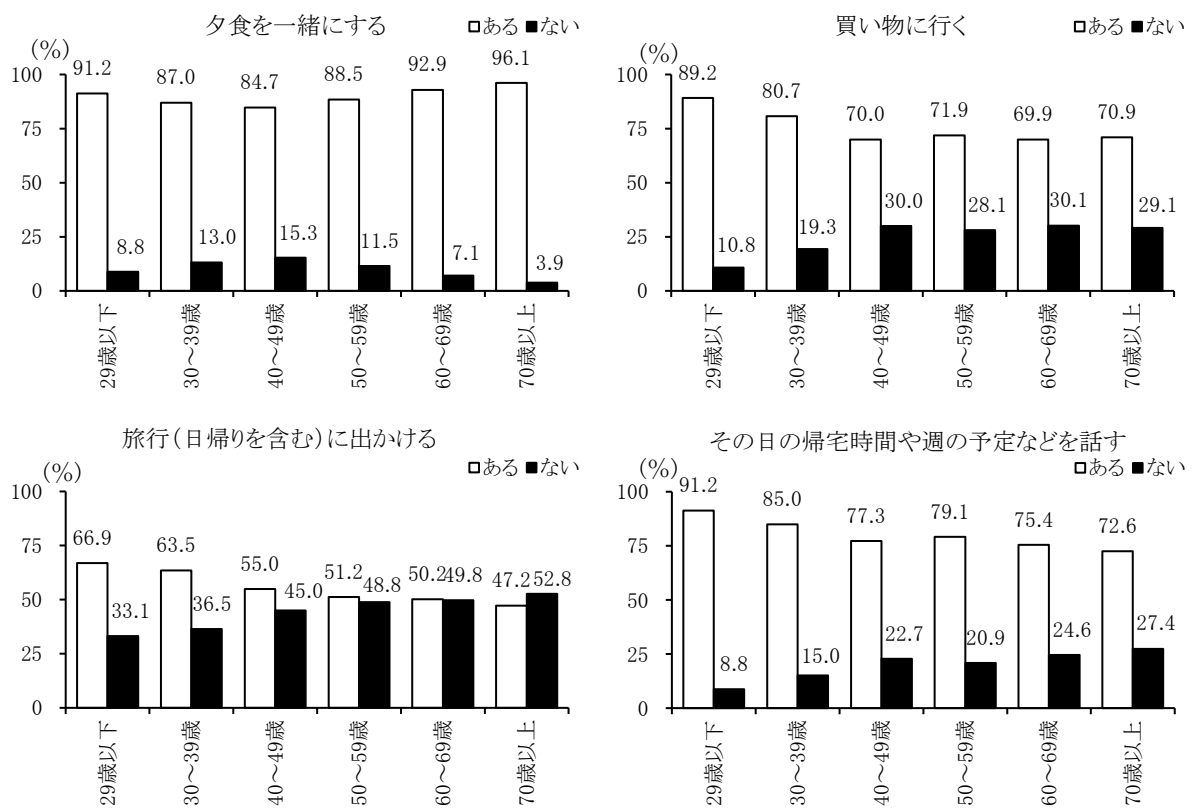
図 6-1 調査回別にみた妻と夫の共通行動の頻度分布

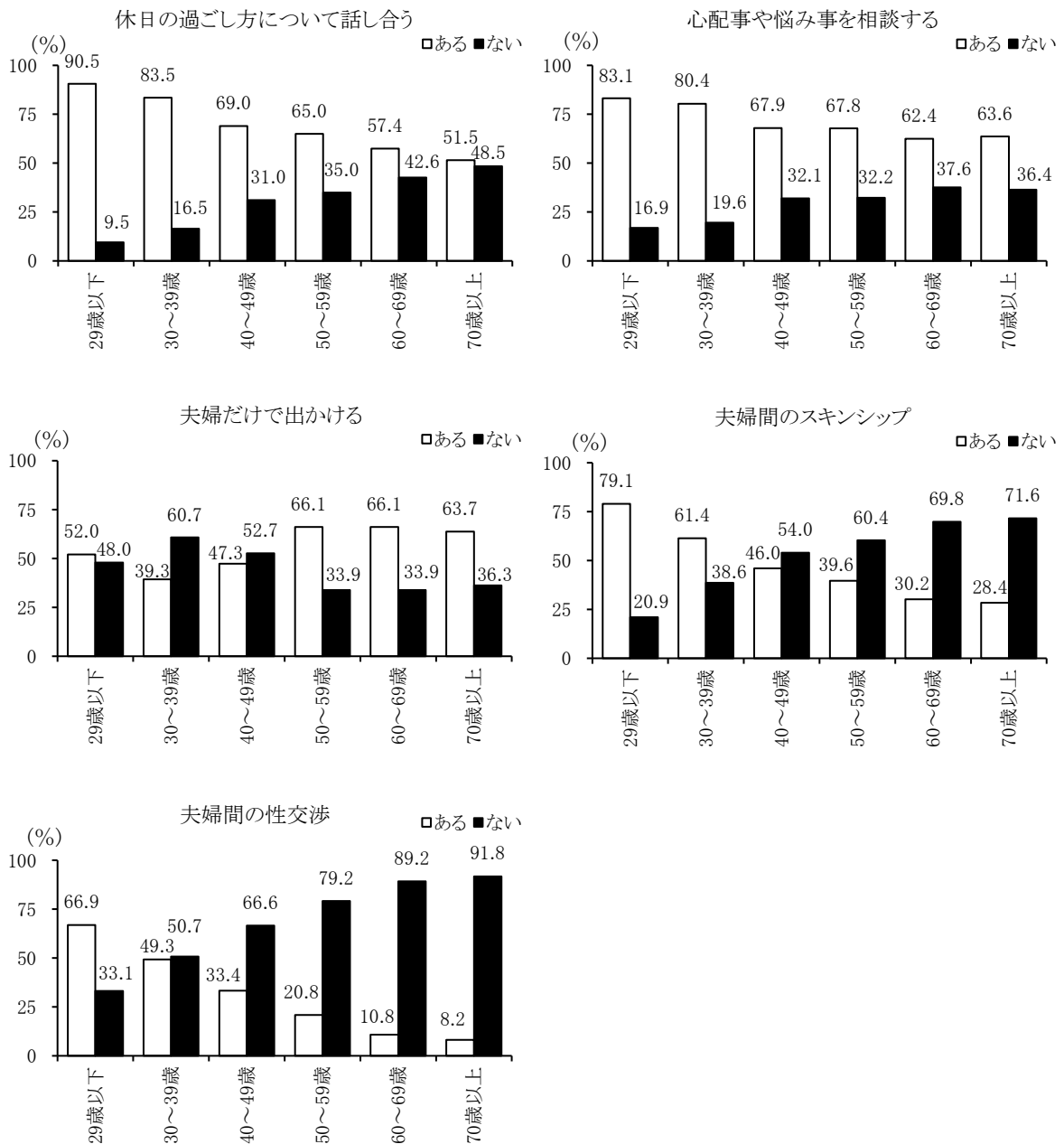


注 1) すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。
 注 2) 「夫婦だけで出かける」「夫婦間のスキンシップ」「夫婦間の性交渉」は第6回からの項目である。

さらに、こうした妻と夫の共通行動の有無を妻の年齢別にみたのが図6-2である。妻の年齢と「ある」と回答した世帯の割合との関係に着目すると、おおむね3つのパターンがみられる。まず、「旅行（日帰りを含む）に出かける」、「休日の過ごし方について話し合う」、「夫婦間のスキンシップ」、および「夫婦間の性交渉」にみられる、高い年齢層で「ある」の割合が低いパターンである。第2のパターンは、「ある」の割合が「40～49歳」まで低下し、その後大きな変化のないもので、「買い物に行く」、「その日の帰宅時間や週の予定などを話す」、および「心配事や悩み事を相談する」にみられる。第3に、「29歳以下」から「30～39歳」あるいは「40～49歳」にかけて「ある」の割合が低下した後、年齢が高いほど「ある」の割合も高くなる傾向のみられるパターンである。これには「夕食を一緒にする」と「夫婦だけで出かける」が該当する。また、「旅行（日帰りを含む）に出かける」では「70歳以上」で、「夫婦だけで出かける」では「30～39歳」と「40～49歳」で、「夫婦間のスキンシップ」では「40～49歳」以降、そして「夫婦間の性交渉」では「30～39歳」以降で「ない」の割合が「ある」の割合を上回っている。とくに「夫婦だけで出かける」については、「ない」の割合は「30～39歳」で60.7%ともっとも大きくなるが、「40～49歳」では「ある」の割合と「ない」の割合の差は5ポイント程度となり、「50～59歳」以降では「ある」の割合が3分の2程度を占め、再び「ない」を上回る。これらの結果からは、子育て期には夫婦だけでの外出はしにくく、子どもの成長とともにまた夫婦だけで外出する機会ができていくといった家庭の姿の一端がうかがえる。ただし、これらの数字は横断的な断面であるうえ、子どもの有無との関連も考慮していない点については留意が必要である。

図6-2 妻の年齢別にみた妻と夫の共通行動の有無の割合（第6回調査）





注) すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

2. 妻と夫の共通行動の満足度

第6回調査では、妻と夫の共通行動について、頻度に加えて新たに妻の満足度をたずねている。回答の形式は「非常に満足」、「まあまあ満足」、「やや不満」、および「非常に不満」の4つから1つを選択する形式である。

なお、図表中、「満足」という場合は「非常に満足」と「まあまあ満足」を、「不満」という場合は「やや不満」と「非常に不満」を合計したものである。以下、前述の頻度と同様に、有効回答のうち9項目すべてに回答した4,792名分を集計の対象として、夫婦の共通行動に対する妻の満足度の状況についてみていく。

夫婦の共通行動に対する妻の満足度を表 6-2 にまとめた。9 項目のうち、「満足」の割合がもっとも大きいのは「夕食を一緒にする」(91.0%)であった。以下、「満足」の割合の大きな順には、「買い物に行く」(87.2%)、「その日の帰宅時間や週の予定などを話す」(86.1%)、「夫婦間のスキンシップ」(83.3%)、「夫婦間の性交渉」(82.6%)、「休日の過ごし方について話し合う」(81.4%)、「夫婦だけで出かける」(81.4%)、「心配事や悩み事を相談する」(79.6%)、「旅行(日帰りを含む)に出かける」(75.3%)で、いずれも75%以上と高い値を示している。また、「夫婦間のスキンシップ」と「夫婦間の性交渉」も8割以上が「満足」としており、これらの項目については、頻度は低いものの妻の満足度は高い結果となっている。頻度と満足度は必ずしも同じ方向に連動しているわけではない。

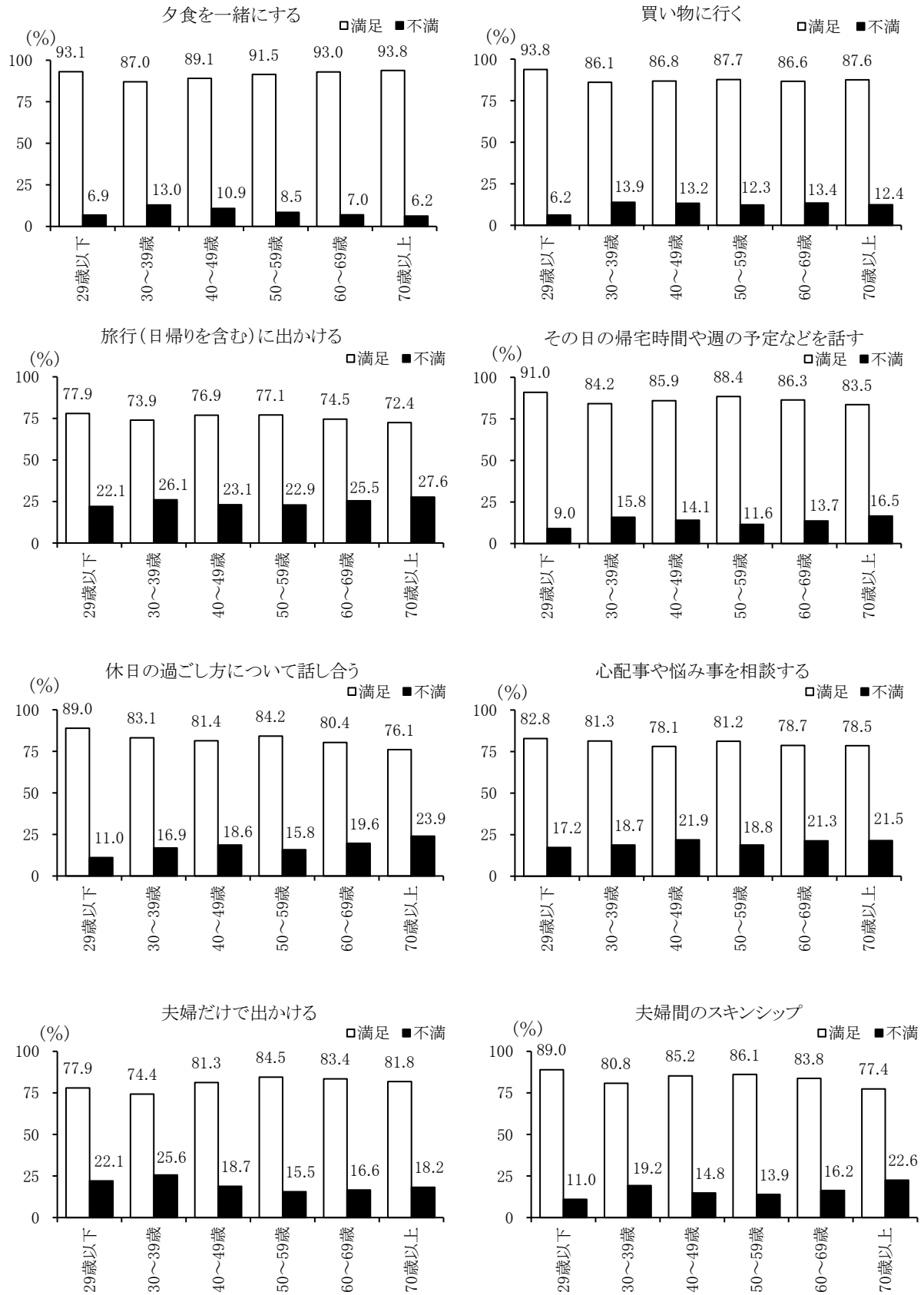
表 6-2 妻と夫の共通行動の満足度の分布 (第6回調査)

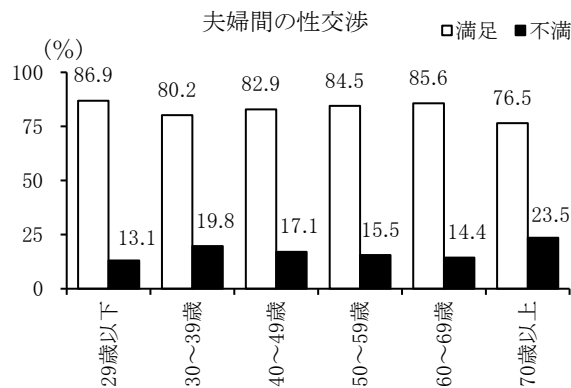
項目	満足	不満	(再掲)			
			非常に満足	まあまあ満足	やや不満	非常に不満
夕食を一緒にする	91.0	9.0	34.3	56.7	6.6	2.3
買い物に行く	87.2	12.8	27.3	59.9	10.3	2.5
旅行(日帰りを含む)に出かける	75.3	24.7	23.4	51.9	18.6	6.1
その日の帰宅時間や週の予定などを話す	86.1	13.9	27.1	58.9	10.2	3.7
休日の過ごし方について話し合う	81.4	18.6	24.0	57.4	14.5	4.1
心配事や悩み事を相談する	79.6	20.4	22.6	56.9	15.2	5.2
夫婦だけで出かける	81.4	18.6	24.0	57.4	14.1	4.5
夫婦間のスキンシップ	83.3	16.7	23.7	59.6	12.7	4.0
夫婦間の性交渉	82.6	17.4	25.1	57.5	11.9	5.5
n	4,792					

注) すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

さらに、夫婦の共通行動に対する妻の満足度を妻の年齢別にみたものが図 6-3 である。「29歳以下」は該当する回答者数がやや少ない(n=145)が、9項目のうち「夕食を一緒にする」「夫婦だけで出かける」以外の7項目ではこの年齢層で「満足」の割合がもっとも高い。これら7項目では、おおむね、「50～59歳」あるいは「60～69歳」に第二のピークがみられるが、「買い物に行く」では「29歳以下」以外の年齢階級間の差は最大で1.1ポイントと小さい。また、「夕食を一緒にする」で「満足」の割合がもっとも高いのは「70歳以上」で、「30～39歳」以降では年齢が高いほど満足度も高い。「夫婦だけで出かける」については、満足度がもっとも高いのは「50～59歳」、次いで「60～69歳」で、「29歳以下」「30～39歳」といった若い年齢層での満足度が低い。

図 6-3 妻の年齢別にみた妻と夫の共通行動の満足度の割合（第6回調査）





注) すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

3. 妻と夫の意思決定

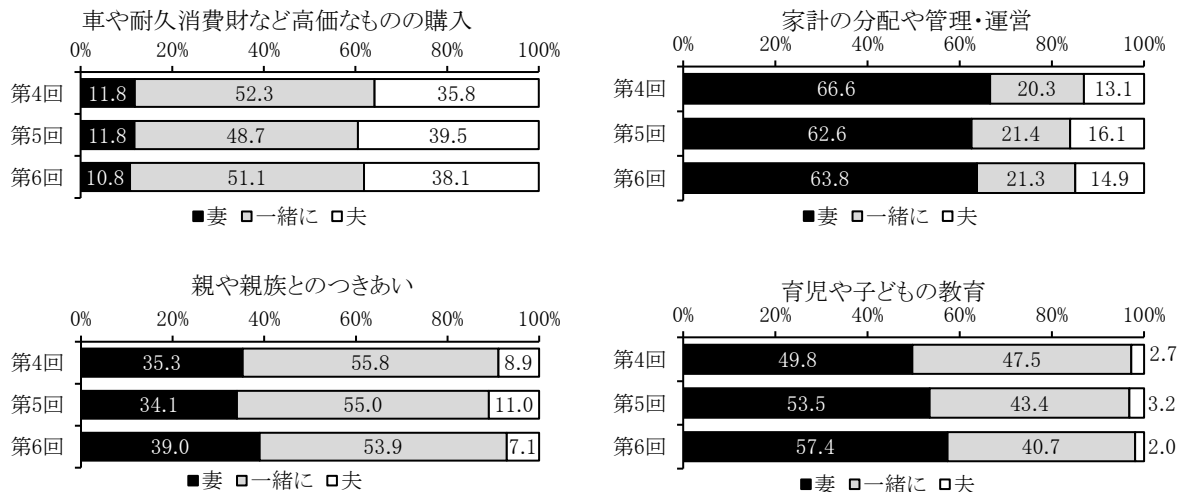
本調査では、これまで、夫婦の裁量権の有り様について、「車や耐久消費財など高価なものの購入」、「家計の分配や管理・運営」、「親や親族とのつきあい」、および「育児や子どもの教育」という4つの場面についてたずねてきた。設問は、それぞれの場面において、夫婦の意思決定を5つの選択肢（「妻」、「どちらかというとき妻」、「ふたりで一緒に」、「どちらかというとき夫」、および「夫」）から1つ選ぶ形式である。ここでは「妻」と「どちらかというとき妻」を「妻」、「どちらかというとき夫」と「夫」を「夫」にまとめている。また、「ふたりで一緒に」は「一緒に」と表記する。なお、ここでの集計対象は、「車や耐久消費財など高価なものの購入」、「家計の分配や管理・運営」、および「親や親族とのつきあい」に関する集計はこれら3項目のすべてに回答した5,502名分とし、「育児や子どもの教育」に関する集計は、回答者を子どものいる者に限定した上で、この項目を含めた4項目すべてに回答した4,818名分とした。

図6-4は、項目ごとに夫婦の裁量権をまとめたものである。第6回調査においては、妻が意思決定をする割合（「妻」の割合）が大きいほうから「家計の分配や管理・運営」（63.8%）、「育児や子どもの教育」（57.4%）で、これらは半数以上の夫婦で妻が意思決定の中心となっている。ただし、「育児や子どもの教育」では「妻」に次ぐ意思決定者は「一緒に」（40.7%）で、「夫」の割合は2.0%と小さいのに対して、「家計の分配や管理・運営」では「妻」に次ぐ「一緒に」が21.3%で、「夫」の割合も14.9%を占めている。他方、「親や親族とのつきあい」は「妻」の割合は39.0%で、もっとも多いケースは「一緒に」（53.9%）である。また、「車や耐久消費財など高価なものの購入」も「一緒に」の割合がもっとも大きい（51.1%）が、それに次ぐ意思決定者は「夫」（38.1%）で、夫が意思決定者となる割合が4項目のうちでもっとも大きい。依然として、「車や耐久消費財など高価なものの購入」に関わる意思決定では夫の果たす役割が大きい、それ以外の「家計の分配や管理・運営」、「親や親族とのつきあい」、および「育児や子どもの教育」ではいずれも妻が判断を下す場合が多いといえる。

図6-4では第4回調査からの分布を示しているが、これをみると、「妻」の割合は「親や親族とのつきあい」や「育児や子どもの教育」で拡大している一方、「車や耐久消費財など高価なものの購入」や「家計の分配や管理・運営」といった家庭の経済に関する場面での妻

の役割には大きな変化はみられない。

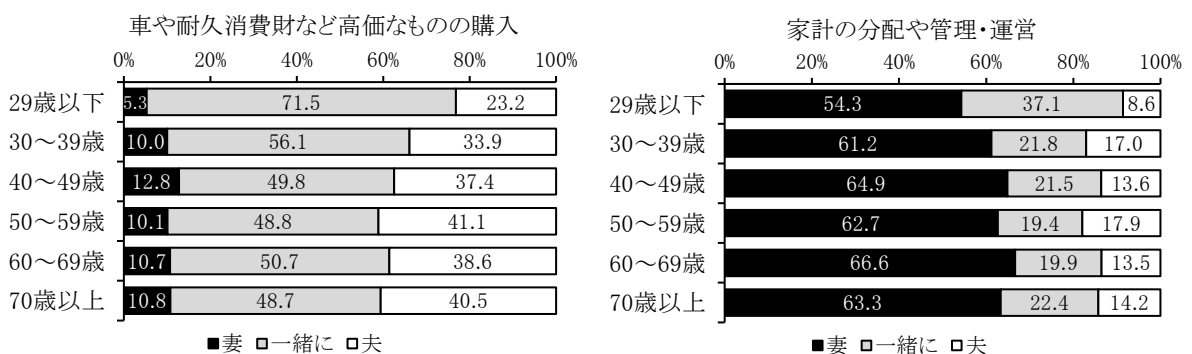
図 6-4 調査回別にみた妻と夫の間での主たる意思決定者の分布

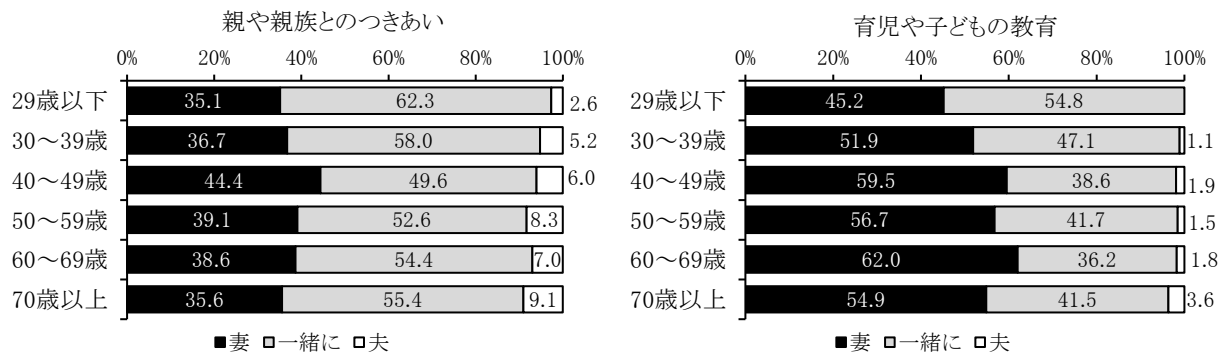


注) 「車や耐久消費財など高価なものの購入」「家計の分配や管理・運営」「親や親族とのつきあい」は当該3項目すべてに回答した者について集計。「育児や子どもの教育」はすべての項目について回答した者(子どものいる者)について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

夫婦の裁量権の分布を年齢別にみると(図 6-5)、妻の裁量権の大きい「家計の分配や管理・運営」、「親や親族とのつきあい」、および「育児や子どもの教育」の3項目では、「40～49歳」から「60～69歳」にかけて「妻」の割合がより高い傾向がみられる。夫の裁量権の大きい「車や耐久消費財など高価なものの購入」においては、「夫」の割合は若年層よりも高年層で高く、もっともその割合の高い「50～59歳」(41.1%)では「29歳以下」における割合より17.9ポイント高い。また、「29歳以下」は該当する回答者数がやや少ない(前3項目ではn=151、「育児や子どもの教育」ではn=104)ので結果の解釈には注意を要するが、いずれの項目でも「一緒に」の割合がもっとも大きく、とくに「車や耐久消費財など高価なものの購入」と「家計の分配や管理・運営」でその傾向が目立つ。

図 6-5 妻の年齢別にみた妻と夫の間での主たる意思決定者の分布(第6回調査)





注) 「車や耐久消費財など高価なものの購入」「家計の分配や管理・運営」「親や親族とのつきあい」は当該3項目すべてに回答した者について集計。「育児や子どもの教育」はすべての項目について回答した者(子どものいる者)について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

4. 妻に対する夫の情緒的支援

本調査では、第5回調査(2013年)から、妻と夫の関係性をより多角的にとらえるため、夫が妻の情緒的な部分をどのように理解したりサポートしたりしているかを把握する設問を設けている。具体的な項目は「あなたの心配事や悩み事を聞いてくれる」、「あなたの能力や努力を高く評価してくれる」、「あなたに助言やアドバイスをしてくれる」、「あなたの気持ちをよく理解している」、「あなたへの感謝の気持ちを示してくれる」、および「あなたに関心がない」の6項目である。回答者は、それぞれの項目について、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、および「あてはまらない」のいずれかを選択する。ここでは、簡便のため、「あてはまる」と「ややあてはまる」を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」を「あてはまらない」にまとめて示している。なお、ここで集計の対象とするのは、6項目すべてに答えた者(n=5,441)である。

妻に対する夫の情緒的支援の6項目について、「あてはまる」と「あてはまらない」に二分して割合を示したものが表6-3である。妻が夫の情緒的サポートをもっとも感じている項目は「あなたの心配事や悩み事を聞いてくれる」(70.4%)で、以下「あなたの気持ちをよく理解している」(55.4%)まで、5項目で「あてはまる」の割合は5割を超えている。前回との比較では、「あてはまる」の割合は「あなたの気持ちをよく理解している」で前回よりもやや低く、それ以外の4項目ではいずれも前回はやや上回った。「あなたの心配事や悩み事を聞いてくれる」や「あなたに助言やアドバイスをしてくれる」といった、妻からの問いかけに答えるような形のもの、あるいは「あなたの能力や努力を高く評価してくれる」という行為や成果を評価するものについては「あてはまる」の割合がより高く、「あなたの気持ちをよく理解している」や「あなたへの感謝の気持ちを示してくれる」といった、より精神的なもの、夫からの働きかけによるようなものについてはやや低いという傾向は前回と同様である。「あなたに関心がない」については、72.4%が「あてはまらない」、すなわち夫は自分に関心をもっていると感じているという結果となり、他の5項目と比べても肯定的評価がもっとも高い。

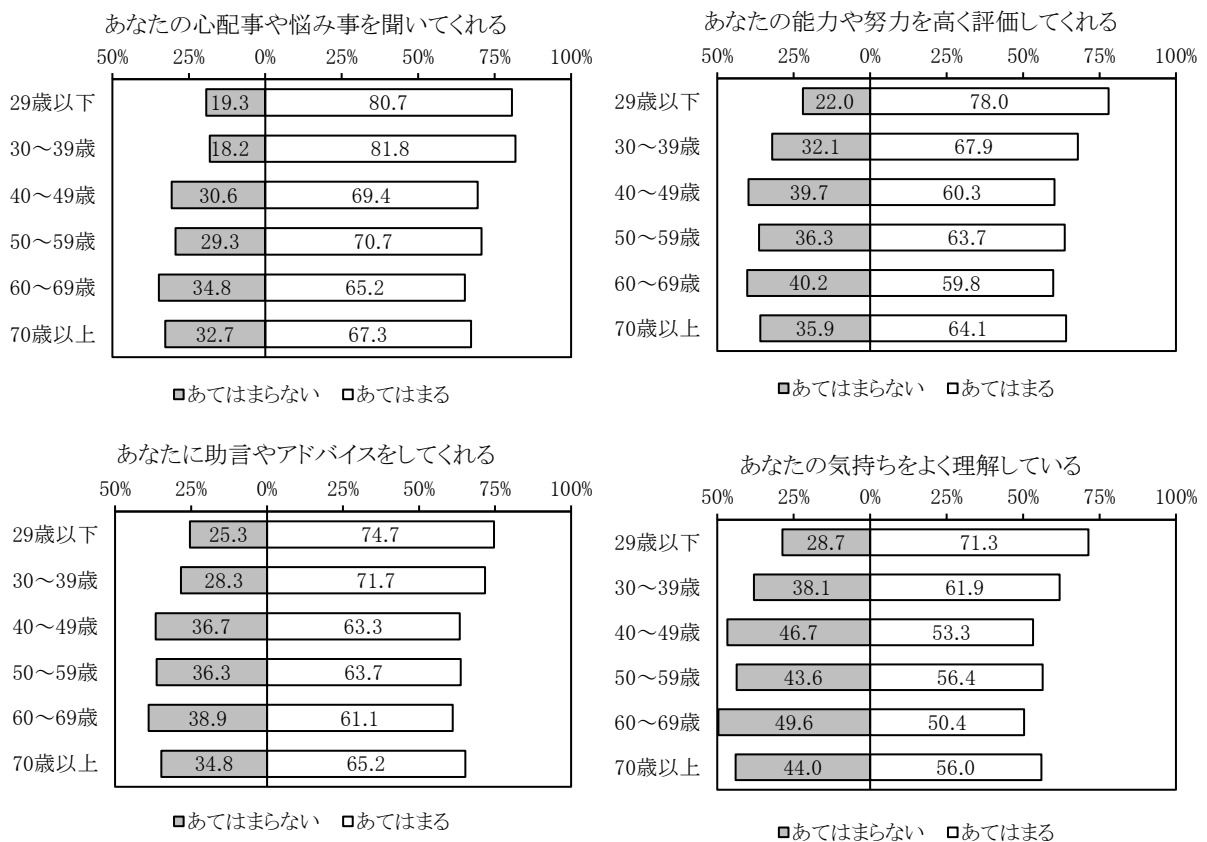
表 6-3 調査回別にみた妻に対する夫の情緒的支援のあてはまり度合い

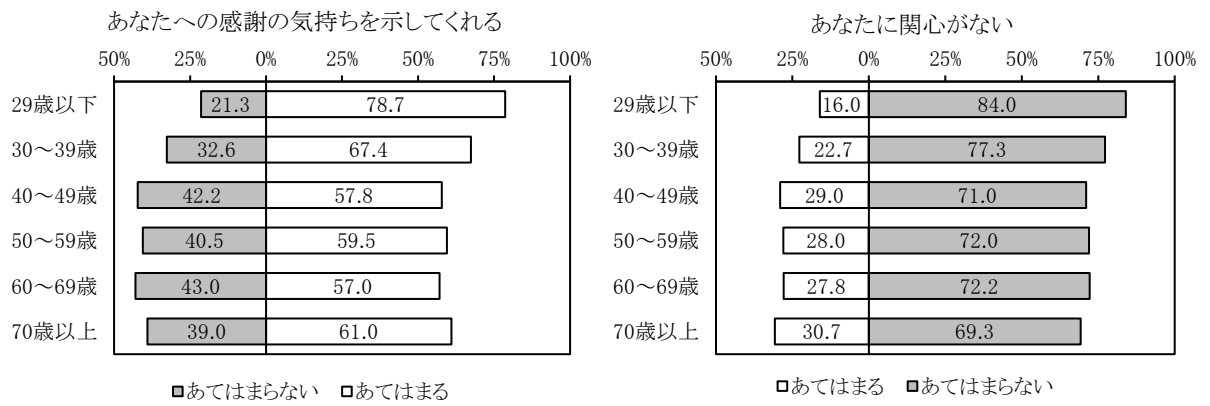
項目	第5回		第6回	
	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない
あなたの心配事や悩み事を聞いてくれる	69.7	30.3	70.4	29.6
あなたの能力や努力を高く評価してくれる	59.0	41.0	63.1	36.9
あなたに助言やアドバイスをしてくれる	62.8	37.2	64.7	35.3
あなたの気持ちをよく理解している	56.3	43.7	55.4	44.6
あなたへの感謝の気持ちを示してくれる	58.3	41.7	60.5	39.5
あなたに関心がない	25.9	74.1	27.6	72.4
n	5,821		5,441	

注) すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

妻に対する夫の情緒的支援を年齢別にまとめたものを図 6-6 に示す。この図では、「あなたに関心がない」については「あてはまる」と「あてはまらない」の向きを逆にして表示した。全体として、「29歳以下」および「30～39歳」で「あてはまる」（「あなたに関心がない」では「あてはまらない」）の割合が高く、「40～49歳」以降ではやや低い水準となるが年齢階級間にあまり大きな差がみられない。これは、先述の夫婦の共通行動において、「心配事や悩み事を相談する」などで「ある」と答えた者の割合にみられた傾向と共通である。

図 6-6 妻の年齢別にみた妻に対する夫の情緒的支援のあてはまり度合い（第6回調査）





注) すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

VII. 家族に関する妻の意識

1. 全体像

この調査では家族や子どもに関する様々な考え方への賛否を「まったく賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「まったく反対」から1つ選択する形式でたずねている。「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」を「賛成」、「どちらかといえば反対」と「まったく反対」を「反対」にまとめ、そのうち「賛成」の割合を「賛成割合」とする。

家族や子どもに関する様々な考え方に対する妻の賛否を、賛成割合として示したのが表7-1である。第6回調査での賛成割合は、「夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ」と「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」が8割台、「子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい」が7割台、「家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ」と「夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ」が6割台、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」と「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」が5割台である。賛成割合が5割未満の項目をみると、「年老いた親の介護は家族が担うべきだ」が4割台、「結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ」、「年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ」が3割台、「夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる」と「高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ」が2割台である。

表7-1 調査回別にみた家族に関する考え方の各項目への賛成割合

	賛成割合		
	第4回	第5回	第6回
夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ	81.3%	86.9%	86.4%
夫も家事や育児を平等に分担すべきだ	82.4%	80.5%	83.7%
子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい	86.7%	77.3%	71.2%
家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ	77.8%	71.6%	64.5%
夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ	67.8%	67.0%	62.2%
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	75.2%	67.2%	56.4%
夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい	42.8%	41.5%	50.5%
年老いた親の介護は家族が担うべきだ	63.3%	56.7%	45.2%
結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ	47.7%	44.9%	38.1%
年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ	50.8%	44.6%	34.3%
夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる	35.8%	32.1%	24.7%
高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ	27.1%	28.1%	23.3%

注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。

注2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

第6回調査では同性カップルや同性カップルが子どもを持つことに対する考えもたずねた。これらの考え方についての妻の賛否を賛成割合として示したのが表7-2である。賛成割合は、高い順から、「男性どうしや、女性どうしのカップルにも、なんらかの法的保障が認められるべきだ」(75.1%)、「男性どうしや、女性どうしのカップルで暮らす、という生き方があってもよい」(71.9%)、「男性どうしや、女性どうしの結婚(同性婚)を法律で認めるべきだ」(69.5%)、「同性どうしのカップルも、男女のカップルと同じように、子どもを育

てる能力がある」(69.4%)、「男性どうしや、女性どうしのカップルが養親や里親になってもよい」(66.7%)、「女性どうしのカップルも、生殖補助医療を用いて、子どもを持てるようにすべきだ」(48.1%)である。

表 7-2 同性カップルについての考え方の各項目への賛成割合 (第6回調査)

	賛成割合
男性どうしや、女性どうしのカップルにも、なんらかの法的保障が認められるべきだ	75.1%
男性どうしや、女性どうしのカップルで暮らす、という生き方があってもよい	71.9%
男性どうしや、女性どうしの結婚(同性婚)を法律で認めるべきだ	69.5%
同性どうしのカップルも、男女のカップルと同じように、子どもを育てる能力がある	69.4%
男性どうしや、女性どうしのカップルが養親や里親になってもよい	66.7%
女性どうしのカップルも、生殖補助医療を用いて、子どもを持てるようにすべきだ	48.1%

注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。

注2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

以下、これらの項目を、性別役割についての考え方、夫婦のあり方についての考え方、老親への援助についての考え方、同性カップルについての考え方に分け、順にみていく。

2. 性別役割についての考え方

(1) 全体の傾向

本調査では性別役割についての考え方を、夫婦の役割分担や母親の役割、夫・父親の役割、子育ての方針でとらえている。

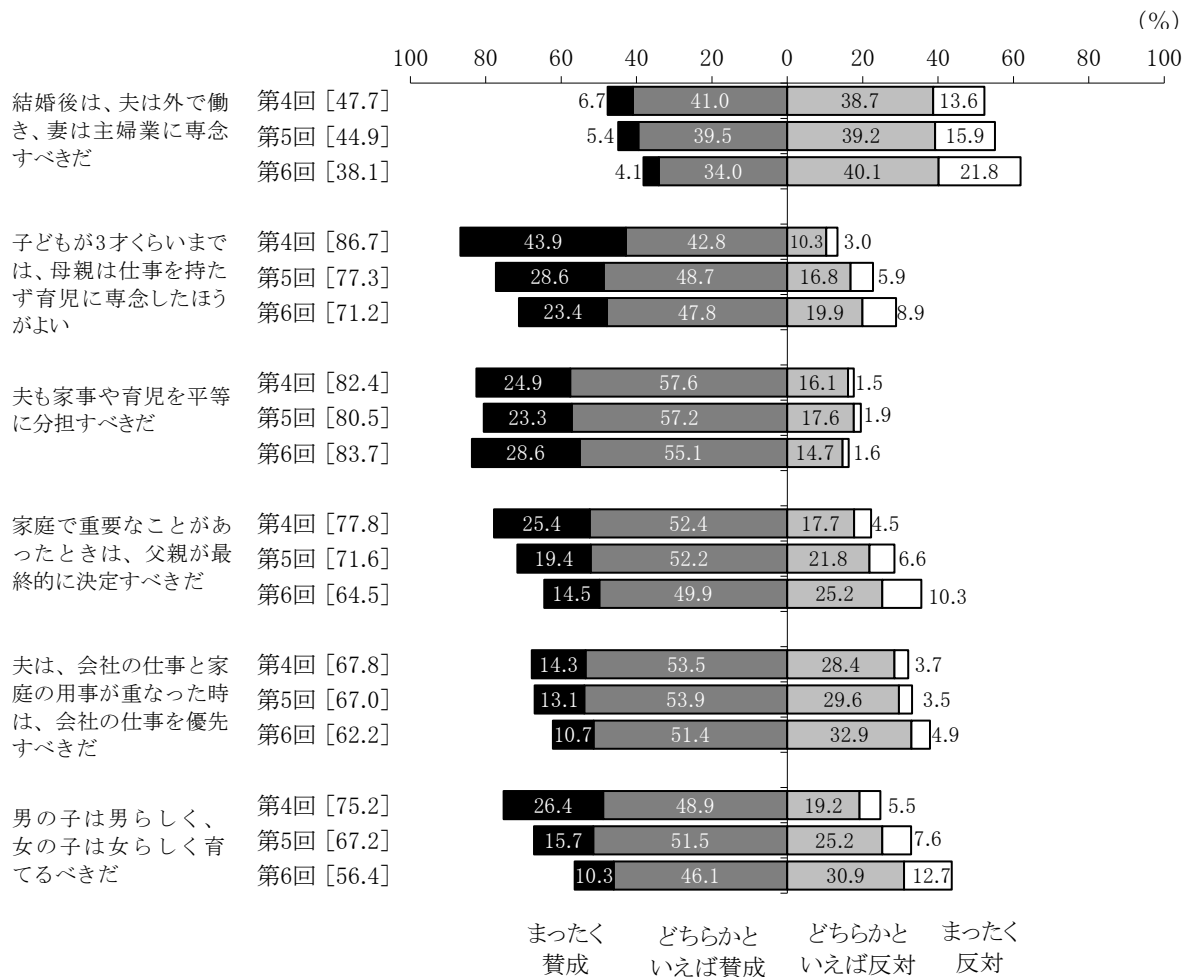
夫婦の役割分担に対する考え方をみると(図7-1)、「結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ」への賛成割合は第4回調査では半数未満(47.7%)で、それ以降10ポイント程度低下し、第6回調査では38.1%である。

母親の役割についての考え方である「子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい」への賛成割合も低下傾向にあり、第4回調査では86.7%、第5回調査では77.3%、第6回調査では71.2%である。

夫・父親の役割についての考え方である「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」への賛成割合は、第4回調査(82.4%)から8割台で推移しており、第6回調査では83.7%である。「家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ」への賛成割合は第4回から低下傾向にあり、第4回では77.8%、第5回調査では71.6%、第6回調査では64.5%である。「夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ」への賛成割合は、第4回調査(67.8%)と第5回調査(67.0%)の間では変化がなく、第6回調査でわずかに低下し、62.2%である。

子どもの育て方の考えを示す「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」への賛成割合は低下傾向にあり、第4回調査では75.2%、第5回調査では67.2%、第6回調査では56.4%である。

図 7-1 調査回別にみた性別役割についての考え方の各項目への賛否の分布



注 1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。
 注 2) [] 内の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた「賛成割合」であるが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

(2) 妻の年齢別にみた傾向

第 6 回調査における性別役割についての考え方を妻の年齢別に示すと (図 7-2)、おおむね年齢の高い妻のほうが、従来的な考えを支持する割合が高い傾向がみられる。

夫婦の役割分担についての「結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ」では、60 代までは賛成割合が 29.0% (「30~39 歳」) から 40.7% (「60~69 歳」) の間であるのに対して、「70 歳以上」では半数を超えた 57.5%である。

母親の役割についての「子どもが 3 才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい」への賛成割合は、おおむね年齢が上であるほど高く、もっとも低い「30~39 歳」(53.2%) ともっとも高い「70 歳以上」(85.9%) の間には 32.7 ポイントの差がある。

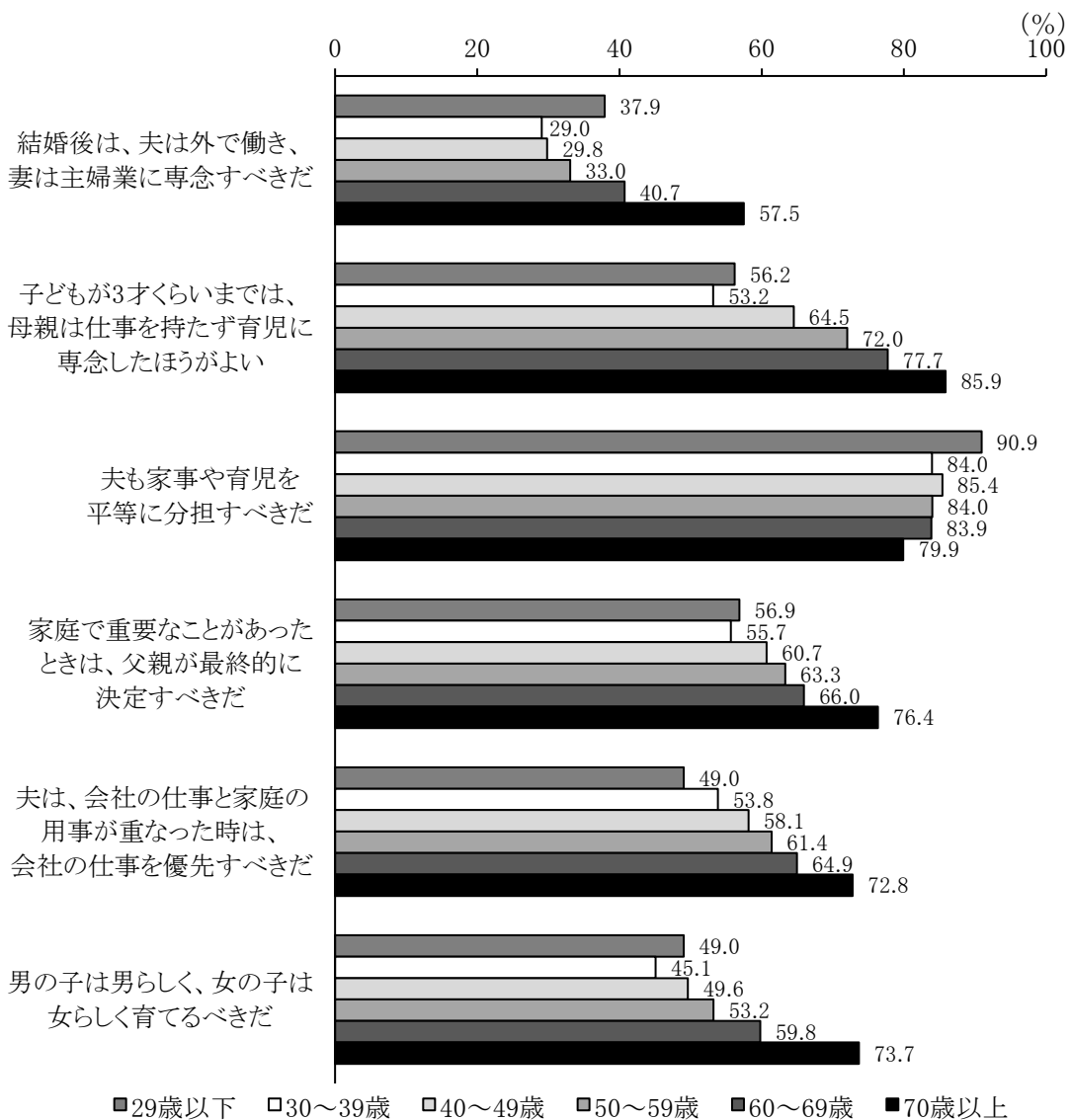
夫・父親の役割についての「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」への賛成割合は、年齢による違いが比較的小さく、「29 歳以下」では 90.9%であるが、「30~39 歳」以上では、いずれの年齢層でも賛成割合がほぼ 8 割台である。「家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ」への賛成割合は、「29 歳以下」と「30~39 歳」では 50%台、

「40～49歳」、「50～59歳」、「60～69歳」では60%台、「70歳以上」は70%台である。「夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ」への賛成割合は年齢が上であるほど高い傾向があり、「29歳以下」では半数未満の49.0%であるが、「70歳以上」では72.8%で、その差は23.8ポイントである。

子どもの育て方についての考え方の「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」への賛成割合も年齢が上であるほど高い傾向があり、「40～49歳」までは半数未満、「50～59歳」と「60～69歳」では50%台、「70歳以上」では70%台である。

(3) 妻の従業上の地位別にみた傾向

図7-2 妻の年齢別にみた性別役割についての各項目への賛成割合（第6回調査）



注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。
 注2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

図 7-3 は、第 6 回調査の性別役割についての考え方を妻の従業上の地位別に示したものである。従来の性別役割についての考え方を支持する割合は、総じて「常勤」でもっとも低く、「パート」がそれに続く。それに対して、「自営」および専業主婦が大多数である「その他」では、性別役割についての従来の考え方を支持する割合が相対的に高い。この傾向は、とくに夫婦の役割分担や母親の役割についての考え方で顕著である。

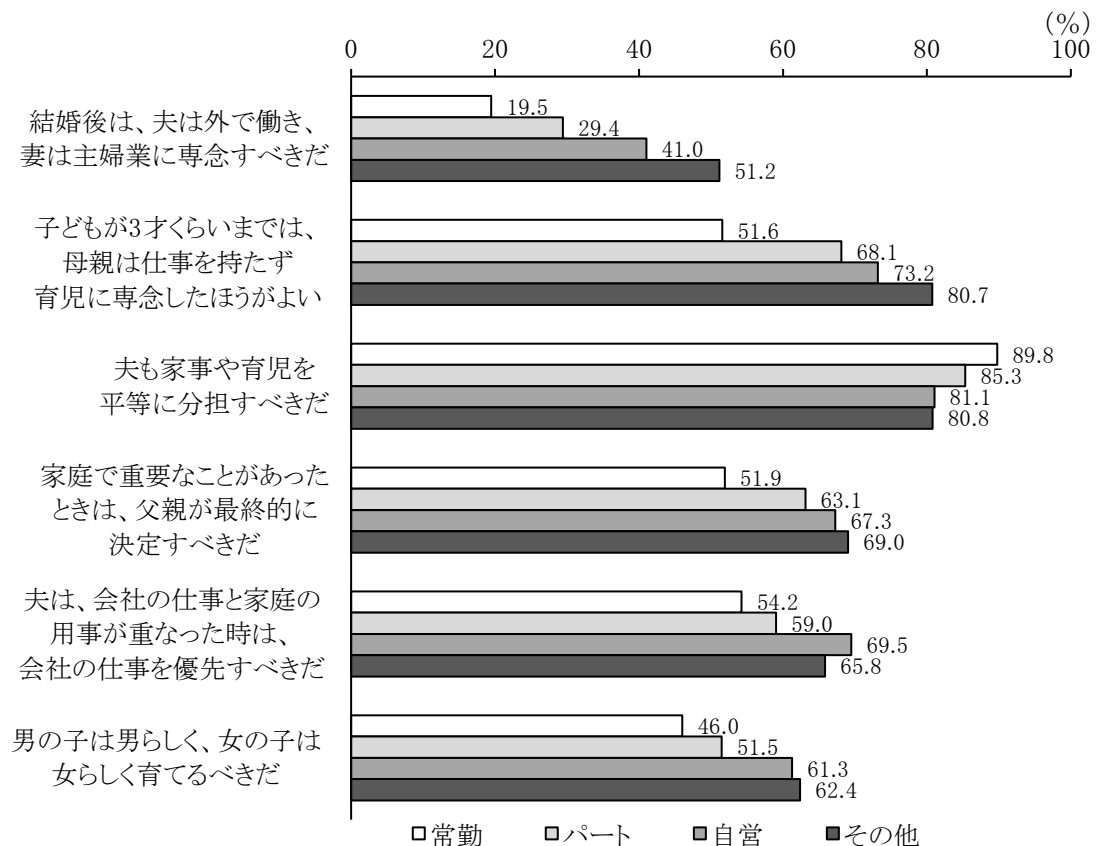
夫婦の役割分担についての「結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ」への賛成割合は、「常勤」では 19.5%であるのに対して、「パート」では 29.4%、「自営」では 41.0%、「その他」では 51.2%で、「常勤」と「その他」の差は約 30 ポイント (31.7) である。

母親の役割に関する「子どもが 3 才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい」でも妻の働き方による違いが顕著にみられ、賛成割合はもっとも低い「常勤」では 51.6%、次いで「パート」の 68.1%、「自営」の 73.2%、「その他」の 80.7%である。「常勤」と「その他」の賛成割合の差は約 30 ポイント (29.1) である。

夫・父親の役割についての考え方のうち、「夫も家事や育児を平等に分担すべきだ」という意見への賛成は従来の性別役割を支持しないことを意味するが、賛成割合は、「常勤」ではほぼ 9 割の 89.8%、「パート」では 85.3%、「自営」と「その他」はそれぞれ 81.1%と 80.8%である。「家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ」への賛成割合は、もっとも低い「常勤」の 51.9%に対して、「パート」では 63.1%、「自営」では 67.3%、「その他」では 69.0%である。「夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ」への賛成割合についても、「常勤」でもっとも低く 54.2%、次いで「パート」の 59.0%であるのに対して、「その他」では 65.8%、また、「自営」ではほぼ 7 割の 69.5%である。

子どもの育て方についての「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ」への賛成割合は「常勤」で 5 割未満の 46.0%、「パート」で 51.5%、「自営」で 61.3%、「その他」では 62.4%である。

図 7-3 妻の従業上の地位別にみた性別役割についての各項目への賛成割合
(第6回調査)



注1) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。
 注2) 項目ごとに不詳を除外して集計した。
 注3) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

3. 夫婦のあり方についての考え方

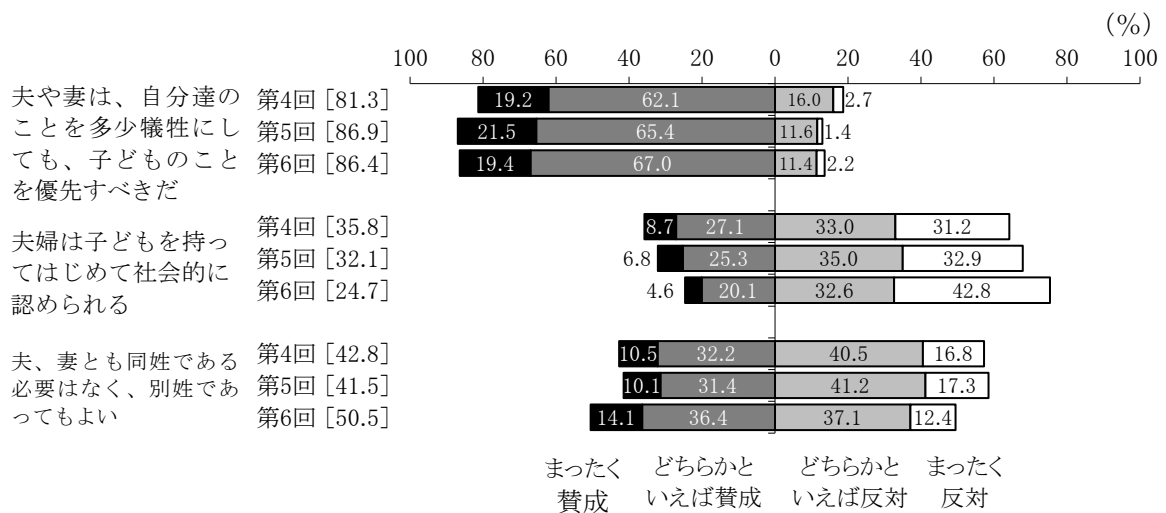
(1) 全体の傾向

夫婦のあり方についての考え方には、親役割や子ども、姓に関するものが含まれる(図7-4)。親役割についての考え方である「夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ」への賛成割合は、第4回調査で8割を超えており、その後も8割台で推移し、第6回調査では86.4%である。

子どもを持つことについての考え方である、「夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認められる」への賛成割合は、第4回調査では35.8%、第5回調査では32.1%でほぼ横ばいであったが、その後低下し、第6回調査では24.7%である。

夫婦の姓についての「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」への賛成割合は、第4回調査では42.8%、第5回調査では41.5%とともに4割台であったが、第6回調査では50.5%と半数を超えた。

図 7-4 調査回別にみた夫婦のあり方についての考え方の各項目への賛否の分布



注 1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。
 注 2) [] 内の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえ賛成」をあわせた「賛成割合」であるが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえ賛成」の合計値と一致しない場合がある。

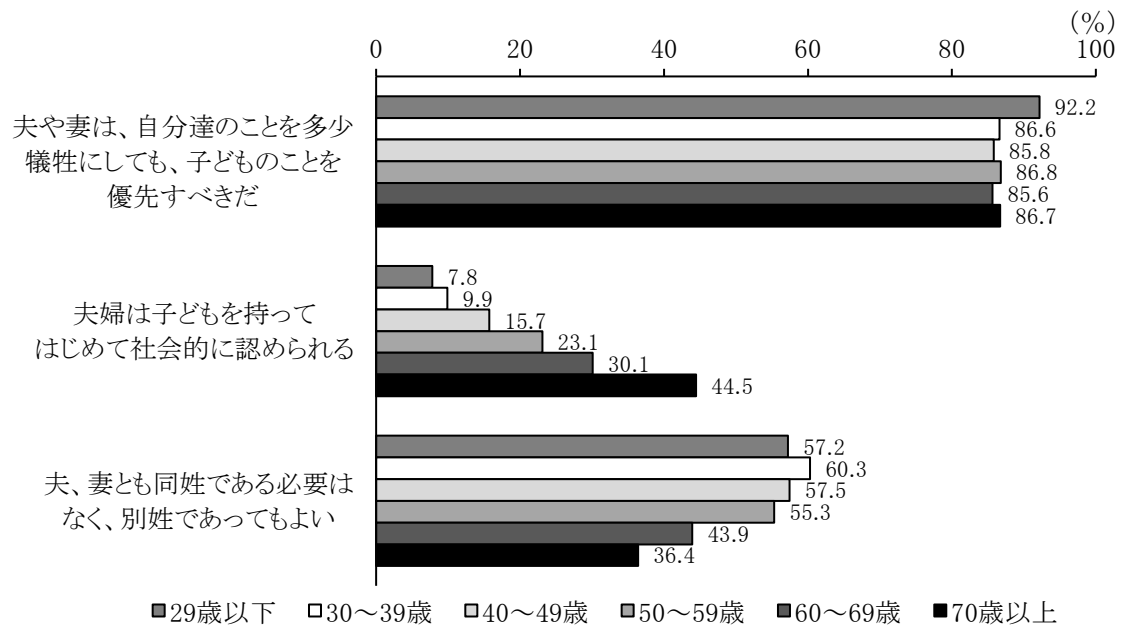
(2) 妻の年齢別にみた傾向

第 6 回調査における夫婦のあり方についての考え方を妻の年齢別に示すと (図 7-5)、親役割についての「夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ」への賛成割合は「29 歳以下」では 9 割台の 92.2%であり、「30～39 歳」以上では年齢による差はほとんどみられず、85～86%で推移している。

子どもを持つことについての考え方である「夫婦は子どもを持つてはじめて社会的に認められる」への賛成割合は年齢が上であるほど高く、「29 歳以下」では 7.8%、「70 歳以上」では 44.5%で、その差は 36.7 ポイントである。

夫婦の姓に関する「夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい」への賛成割合は「60～69 歳」と「70 歳以上」で低く、それぞれ 43.9%と 36.4%であるが、「29 歳以下」、「40～49 歳」、「50～59 歳」では 5 割台、「30～39 歳」では 6 割 (60.3%) である。

図 7-5 妻の年齢別にみた夫婦のあり方についての考え方の各項目への賛成割合
(第6回調査)



注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。

注2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

4. 老親への援助についての考え方

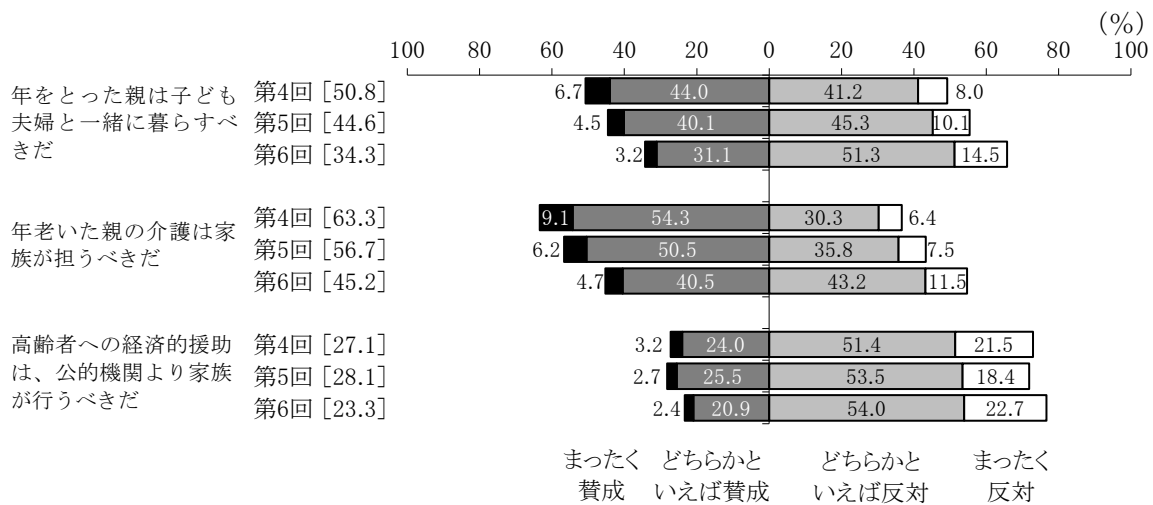
(1) 全体の傾向

老親が子と同居すること、および親の介護についての考え方は、従来のなものから変化する傾向が続いている（図7-6）。老親への援助に関する考え方は、いずれも賛成側の回答が従来の考え方を表す。老親の子との同居についての考え方である「年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ」への賛成割合は低下傾向にあり、第4回調査では50.8%、第5回調査では44.6%、第6回調査では34.3%である。

親の介護の担い手についてたずねた「年老いた親の介護は家族が担うべきだ」への賛成割合も低下傾向にあり、第4回調査では63.3%、第5回調査では56.7%、第6回調査では11.5ポイント低下し45.2%である。

高齢者の経済支援についての考え方を示す「高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ」への賛成割合は、第4回調査と第5回調査ではほとんど変化がみられず、それぞれ27.1%、28.1%であったが、第6回調査ではわずかな低下がみられ、23.3%である。

図 7-6 調査回別にみた老親への援助についての考え方の各項目への賛否の分布



注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) [] 内の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえ賛成」をあわせた「賛成割合」であるが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえ賛成」の合計値と一致しない場合がある。

(2) 妻の年齢別にみた傾向

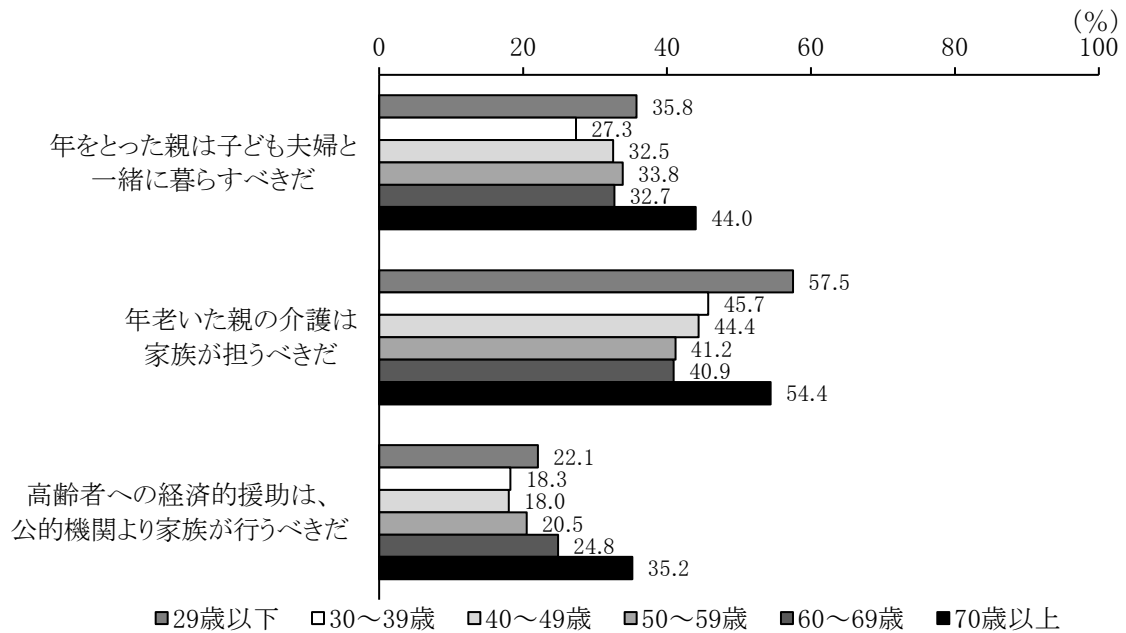
第6回調査における老親への援助についての考え方を妻の年齢別に示すと(図7-7)、3項目すべてにおいて、家族が担い手になるという考えを支持する割合は「70歳以上」で高い傾向がある。

老親が子と同居することについてたずねた「年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ」への賛成割合は「70歳以上」でもっとも高く、44.0%である。「60～69歳」以下では年齢による違いが比較的小さく、もっとも低い「30～39歳」で27.3%、「29歳以下」、「40～49歳」、「50～59歳」、「60～69歳」では3割台である。

親の介護についての「年老いた親の介護は家族が担うべきだ」への賛成割合は、「29歳以下」と「70歳以上」では5割台、「30～39歳」、「40～49歳」、「50～59歳」、「60～69歳」では4割台である。

高齢者の経済支援についての「高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ」への賛成割合は、「70歳以上」が35.2%でもっとも高く、次に高い「60～69歳」の24.8%とは10ポイント以上(10.4)の差がある。同割合は「29歳以下」から「50～59歳」では20%前後である。

図 7-7 妻の年齢別にみた老親への援助についての考え方の各項目への賛成割合
(第6回調査)



注 1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。

注 2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

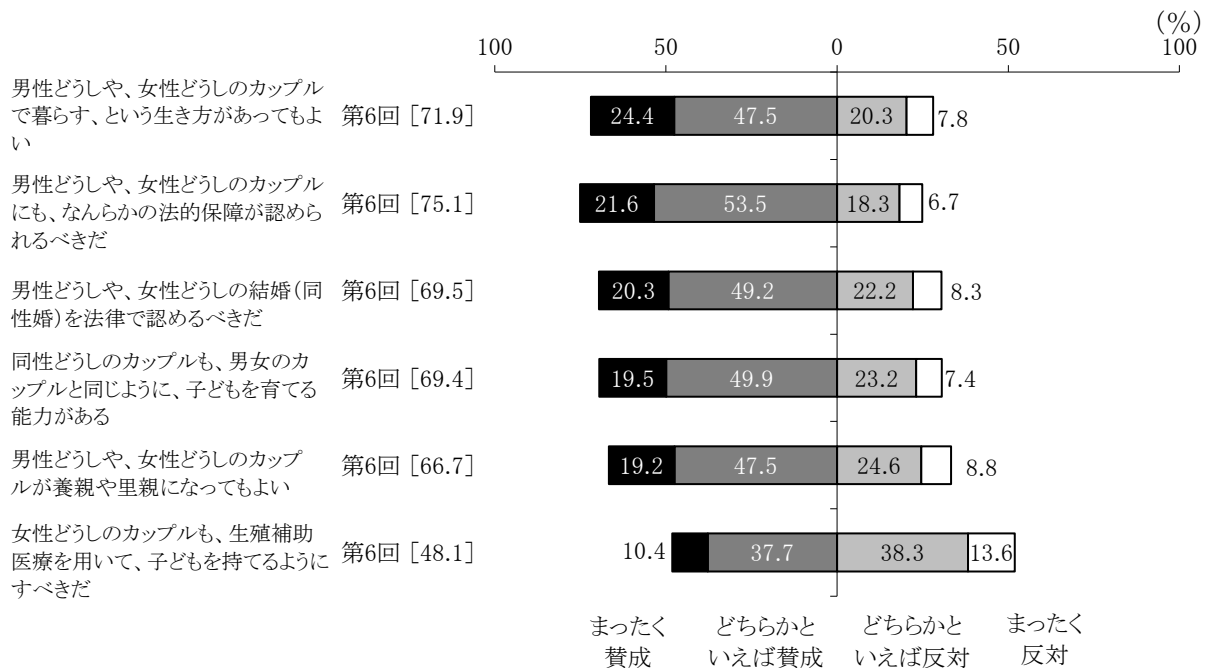
5. 同性カップルについての考え方

(1) 全体の傾向

同性カップルや同性カップルが子どもを持つことについての考え方への賛成割合を示したのが図 7-8 である。同性カップルについては、その生き方、法的保障、法律婚についての考えをたずねている。これらの 3 項目中、賛成割合がもっとも高いのは「男性どうしや、女性どうしのカップルにも、なんらかの法的保障が認められるべきだ」で 4 人中 3 人 (75.1%)、次いで「男性どうしや、女性どうしのカップルで暮らす、という生き方があってもよい」の 71.9% である。「男性どうしや、女性どうしの結婚 (同性婚) を法律で認めるべきだ」への賛成割合も、ほぼ 7 割の 69.5% である。

同性カップルが子どもを持つことに関しては、子育ての能力、養親・里親になる、生殖補助医療の利用についてたずねた。同性カップルの子育ての能力についての考え方である「同性どうしのカップルも、男女のカップルと同じように、子どもを育てる能力がある」への賛成割合はほぼ 7 割の 69.4%、また、「男性どうしや、女性どうしのカップルが養親や里親になってもよい」への賛成割合も 6 割台の 66.7% である。生殖補助医療を使うことについての考え方である「女性どうしのカップルも、生殖補助医療を用いて、子どもを持てるようにすべきだ」の賛成割合は、他の項目と比べて低く、半数未満の 48.1% である。

図 7-8 同性カップルについての考え方の各項目への賛否の分布（第6回調査）



注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) [] 内の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた「賛成割合」であるが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

(2) 妻の年齢別にみた傾向

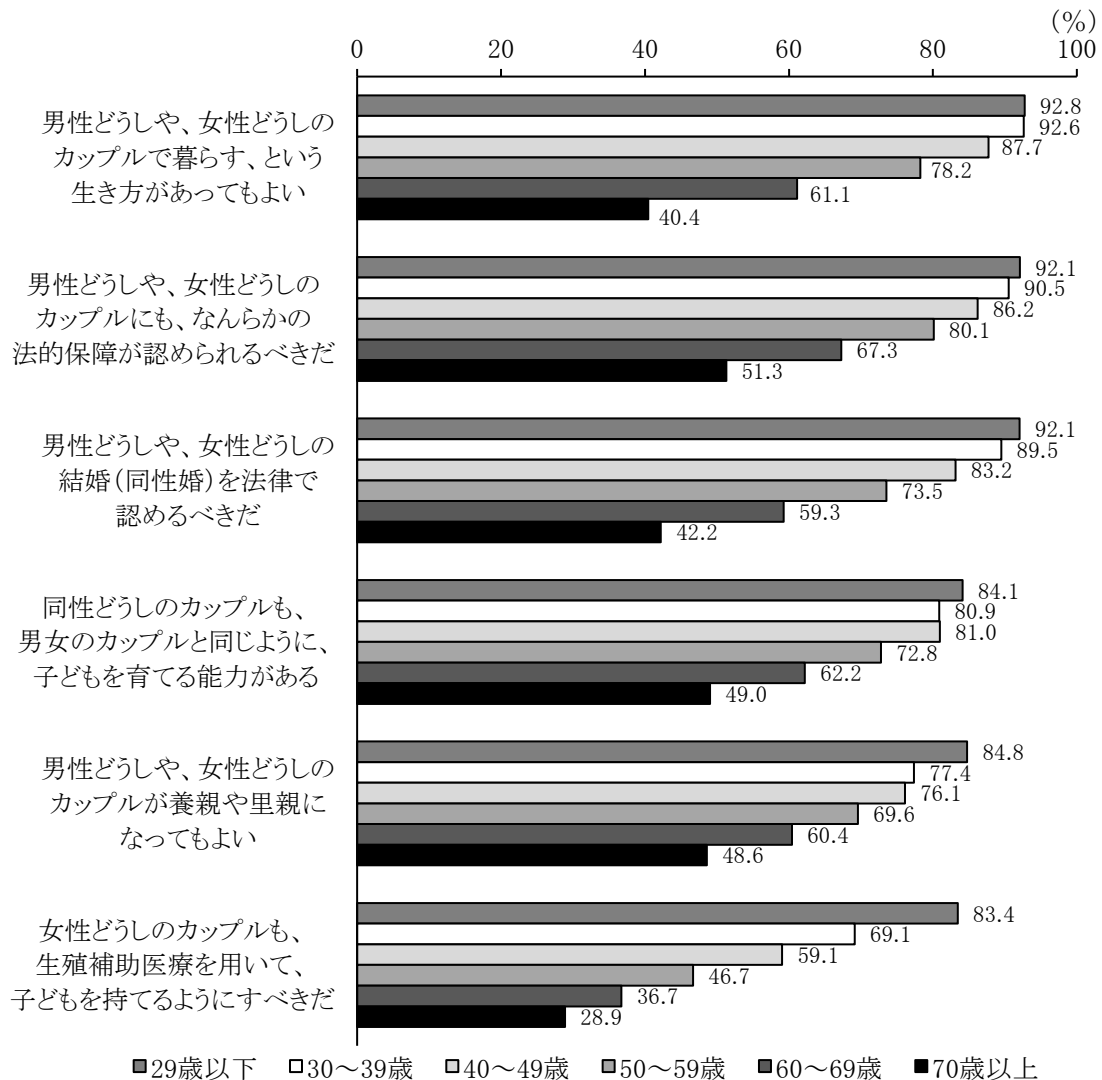
同性カップルについての考え方を妻の年齢別に示したのが図 7-9 である。どの項目についても、年齢が低いほうが同性カップルという生き方や法的保障を認めることに賛成する傾向がある。「29歳以下」、「30～39歳」、「40～49歳」の間の差は比較的小さいが、「50～59歳」と「60～69歳」、「60～69歳」と「70歳以上」の間の差は大きい。

「男性どうしや、女性どうしのカップルで暮らす、という生き方があってもよい」への賛成割合は、「29歳以下」と「30～39歳」で90%を超え、それぞれ92.8%と92.6%である。同割合は「40～49歳」でも87.7%である。「50～59歳」では「40～49歳」より約9.5ポイント低い78.2%、60代では17.1ポイント低い61.1%、「70歳以上」ではさらに20.7ポイント低い40.4%である。

「男性どうしや、女性どうしのカップルにも、なんらかの法的保障が認められるべきだ」でも同様の傾向がみられる。「29歳以下」と「30～39歳」では90%を超え、それぞれ92.1%と90.5%である。「40～49歳」では86.2%、「50～59歳」では80.1%で8割台である。「60～69歳」では「50～59歳」より12.8ポイント低い67.3%、「70歳以上」ではさらに16.0ポイント低い51.3%である。

同性間の結婚についての考え方である「男性どうしや、女性どうしの結婚(同性婚)を法律で認めるべきだ」への賛成割合は、「29歳以下」で92.1%、「30～39歳」で9割に近い89.5%、「40～49歳」で83.2%、「50～59歳」では9.7ポイント低い73.5%、「60～69歳」ではさらに14.2ポイント低い59.3%、「70歳以上」では17.1ポイント低い42.2%である。

図 7-9 妻の年齢別にみた同性カップルについての各項目への賛成割合（第6回調査）



注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。

注2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

同性カップルの子育てについての考え方も、年齢の若いほうが、同性カップルが子どもを持つことや育てることに賛成する割合が高い傾向がみられる。同性カップルの子育て能力についての考え方である「同性どうしのカップルも、男女のカップルと同じように、子どもを育てる能力がある」への賛成割合は「29歳以下」で84.1%、「30～39歳」と「40～49歳」ではそれぞれ80.9%、81.0%で8割台である。同賛成割合は「50～59歳」で72.8%、「60～69歳」では「50～59歳」より10.6ポイント低い62.2%、「70歳以上」ではさらに13.2ポイント低い49.0%である。養親や里親になることへの考えをたずねた「男性どうしや、女性どうしのカップルが養親や里親になってもよい」への賛成割合は、「29歳以下」で84.8%、「30～39歳」と「40～49歳」では7割台で、それぞれ77.4%と76.1%、「50～59歳」では69.6%、「60～69歳」では60.4%、「70歳以上」では「60～69歳」より11.8ポイント低い48.6%である。生殖補助医療を用いて子どもを持つことについての考え方で

ある「女性どうしのカップルも、生殖補助医療を用いて、子どもを持てるようにすべきだ」への賛成割合は、「29歳以下」では8割台の83.4%、「30～39歳」では69.1%、「40～49歳」では10.0ポイント低い59.1%、「50～59歳」では46.7%、「60～69歳」では36.7%、「70歳以上」では3割未満（28.9%）である。

参考資料

とくに記載のない場合、下記の数値の単位は%である。

図2-1 調査回別にみた4人の親のうち誰かとの同居割合とどちらかの母親との同居割合

調査回	n	どちらかの母親と同居	n	4人の親のうち誰かと同居
第4回	4,248	23.8	4,238	26.6
第5回	3,926	28.5	3,917	31.5
第6回	3,417	17.6	3,350	19.8

注)妻の年齢が70歳未満の世帯について集計。

図2-2 調査回別にみた夫と妻のそれぞれの親との同居割合

調査回	n	妻の父親と同居	n	妻の母親と同居	n	夫の父親と同居	n	夫の母親と同居
第4回	2,733	5.6	3,891	7.8	2,268	16.6	3,410	20.7
第5回	2,451	7.7	3,540	8.6	2,080	22.6	3,127	26.0
第6回	2,169	3.8	3,146	5.9	1,857	10.8	2,739	13.6

注)妻の年齢が70歳未満の世帯について集計。

図2-3 調査回別にみた別居する親との居住距離(60分未満と60分以上)

親	調査回	n	居住距離	
			60分未満	60分以上
近いほうの母親	第4回	3,039	69.8	30.2
	第5回	2,620	69.8	30.2
	第6回	2,625	70.8	29.2
妻の父親	第4回	1,970	56.1	43.9
	第5回	1,616	57.2	42.8
	第6回	1,661	56.8	43.2
妻の母親	第4回	2,700	57.5	42.5
	第5回	2,317	58.6	41.4
	第6回	2,303	57.8	42.3
夫の父親	第4回	1,697	60.3	39.7
	第5回	1,420	58.9	41.1
	第6回	1,459	57.6	42.4
夫の母親	第4回	2,360	60.0	40.0
	第5回	2,012	57.3	42.7
	第6回	2,051	58.2	41.8

注)妻の年齢が70歳未満であり、いずれの親とも同居していない世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図2-4 妻の年齢別にみた別居する母親の居住距離(30分未満と30分以上)(第6回調査)

親	妻の年齢	n	居住距離	
			30分未満	30分以上
近いほうの母親	29歳以下	108	57.4	42.6
	30～39歳	569	56.8	43.2
	40～49歳	838	61.6	38.4
	50～59歳	705	51.8	48.2
	60～69歳	405	42.0	58.0
妻の母親	29歳以下	105	35.2	64.8
	30～39歳	551	34.7	65.3
	40～49歳	763	43.9	56.1
	50～59歳	582	40.9	59.1
	60～69歳	302	36.8	63.2
夫の母親	29歳以下	105	42.9	57.1
	30～39歳	537	40.2	59.8
	40～49歳	740	45.9	54.1
	50～59歳	490	39.6	60.4
	60～69歳	179	43.0	57.0

注)妻の年齢が70歳未満であり、いずれの親とも同居していない世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図3-1 調査回別にみたもつとも重要なサポート源:精神的

項目	調査回	n	支援提供者				
			夫	親	きょうだい	非親族	その他
出産や育児で困ったときの相談	第4回	4,955	39.4	44.7	6.3	4.7	4.9
	第5回	4,314	37.8	46.9	6.2	4.9	4.2
	第6回	3,952	35.4	48.9	5.1	4.5	6.1
子どもの教育・進路を決めるときの相談	第4回	4,726	87.7	4.0	1.4	1.2	5.8
	第5回	4,157	86.8	5.3	1.4	1.5	5.1
	第6回	3,771	85.0	5.8	1.4	1.4	6.5
夫婦間で問題があるときの相談	第4回	3,861	4.6	44.1	19.2	18.4	13.7
	第5回	3,230	4.1	44.8	18.8	18.7	13.6
	第6回	3,126	3.8	47.3	16.6	19.0	13.3

注)妻の年齢が70歳未満であり、子どもがいる世帯について集計。

図3-2 調査回別にみたもつとも重要なサポート源：世話的(長期的)

項目	調査回	n	支援提供者					
			夫	親	きょうだい	妻	公共の機関 など	その他
平日の昼間、第1子が1歳になるまでの世話	第4回	5,000	0.4	9.6	0.2	86.2	2.9	0.6
	第5回	4,438	0.7	10.2	0.1	86.2	2.6	0.2
	第6回	4,011	0.4	7.4	0.2	87.6	3.9	0.5
平日の昼間、第1子が1歳から3歳になるまでの世話	第4回	4,920	1.4	13.1	0.3	76.1	8.6	0.6
	第5回	4,374	1.1	13.1	0.2	75.3	10.0	0.3
	第6回	3,963	0.8	9.6	0.2	73.6	15.3	0.5
妻が働きに出るときの子どもの世話	第4回	3,412	19.2	40.8	1.2	3.5	30.3	5.0
	第5回	2,917	15.5	42.2	0.7	3.3	33.8	4.5
	第6回	2,988	15.5	33.9	0.9	3.7	42.0	4.0
妻が介護するときの子どもの世話	第4回	3,320	49.3	29.3	3.0	7.5	5.4	5.6
	第5回	2,493	48.8	30.4	2.7	8.8	5.2	4.1
	第6回	2,727	51.0	26.8	2.1	9.5	6.4	4.2

注)妻の年齢が70歳未満であり、子どもがいる世帯について集計。

図3-3 調査回別にみたもつとも重要なサポート源：世話的(短期的・突発的)

項目	調査回	n	支援提供者				
			夫	親	きょうだい	妻	その他
第2子出産時の第1子の世話	第4回	4,141	18.7	65.0	3.0	10.3	3.1
	第5回	3,636	19.8	64.4	2.9	10.4	2.5
	第6回	3,250	19.9	62.1	2.1	12.9	3.1
妻が病気のときの子どもの世話	第4回	4,663	50.7	37.1	1.6	7.4	3.2
	第5回	4,028	51.6	37.6	0.9	7.1	2.7
	第6回	3,796	52.4	34.3	1.2	9.1	3.1
第1子出産時の妻の身の回りの世話	第4回	4,941	14.7	71.1	2.8	8.7	2.7
	第5回	4,385	15.7	71.3	2.4	8.4	2.2
	第6回	3,995	15.2	70.5	1.7	9.9	2.7

注)妻の年齢が70歳未満であり、子どもがいる世帯について集計。

図3-4 調査回別にみたもつとも重要なサポート源：経済的

項目	調査回	n	支援提供者				
			夫	親	きょうだい	妻	その他
経済的に困ったときに頼る人	第4回	3,847	27.3	60.5	3.9	1.1	7.2
	第5回	3,054	23.3	64.9	3.5	1.0	7.4
	第6回	2,958	23.6	64.6	3.0	1.0	7.8

注)妻の年齢が70歳未満であり、子どもがいる世帯について集計。

図4-1 調査回別にみた妻の1日の平均家事時間

平日/休日	第4回		第5回		第6回	
	n	時間(分)	n	時間(分)	n	時間(分)
平日	4,254	278	3,703	280	3,153	263
休日	4,100	305	3,703	298	3,153	284

注)妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。

図4-2 調査回別にみた夫の1日の平均家事時間

平日/休日	第4回		第5回		第6回	
	n	時間(分)	n	時間(分)	n	時間(分)
平日	3,994	31	3,703	31	3,153	37
休日	3,900	62	3,703	59	3,153	66

注)妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。

図4-3 妻の年齢別にみた平日と休日における妻の1日の家事時間の分布と平均(第6回調査)

平日/休日	妻の年齢	n	家事時間の分布(%)					平均家事時間(分)
			2時間未満	2~4時間	4~6時間	6~8時間	8時間以上	
平日	29歳以下	144	18.1	39.6	24.3	9.0	9.0	237
	30~39歳	764	11.7	35.7	30.8	10.6	11.3	268
	40~49歳	1,131	9.6	35.3	31.9	12.5	10.8	267
	50~59歳	1,114	10.2	37.9	31.4	10.1	10.4	260
休日	29歳以下	144	11.8	42.4	29.2	5.6	11.1	249
	30~39歳	764	9.0	34.2	29.3	12.3	15.2	287
	40~49歳	1,131	8.7	29.3	33.0	15.1	14.0	291
	50~59歳	1,114	9.8	30.9	30.2	16.8	12.4	280

注)妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図4-4 妻の従業上の地位別にみた平日における妻の1日の家事時間の分布と平均(第6回調査)

妻の従業上の地位	n	家事時間の分布(%)					平均家事時間(分)
		2時間未満	2～4時間	4～6時間	6～8時間	8時間以上	
常勤	797	19.0	48.7	23.7	6.0	2.6	187
パート	1,228	8.4	37.8	33.0	11.6	9.3	261
自営	222	9.0	35.1	35.1	9.9	10.8	261
その他	783	5.2	21.2	35.5	16.4	21.7	352

注1) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

図4-5 夫の帰宅時間別にみた平日における妻の1日の家事時間の分布と平均(第6回調査)

夫の帰宅時間	n	家事時間の分布(%)					平均家事時間(分)
		2時間未満	2～4時間	4～6時間	6～8時間	8時間以上	
17～19時台	1,302	11.3	38.5	29.7	10.7	9.9	256
20～21時台	789	9.3	33.1	33.5	13.2	11.0	274
22～23時台	267	7.1	34.8	32.2	12.7	13.1	282

注) 妻の年齢が60歳未満であり、夫が自宅外で就業する世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図4-6 調査回別にみた妻と夫の間での家事分担割合の平均

調査回	n	妻	夫
第4回	4,268	85.5	14.5
第5回	3,612	85.1	14.9
第6回	3,094	83.2	16.8

注) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図4-7 妻の年齢別にみた妻の家事分担割合の分布(第6回調査)

妻の年齢	n	40%未満	40～59%	60～79%	80～89%	90～99%	100%
29歳以下	144	4.9	13.2	20.8	18.1	31.9	11.1
30～39歳	755	2.8	6.9	18.3	20.5	40.1	11.4
40～49歳	1,110	2.5	5.6	13.1	17.1	43.0	18.7
50～59歳	1,085	2.7	5.4	13.9	16.4	43.3	18.3

注) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図4-8 妻の従業上の地位別にみた妻の家事分担割合の分布(第6回調査)

妻の従業上の地位	n	40%未満	40～59%	60～79%	80～89%	90～99%	100%
常勤	777	4.9	11.8	22.9	19.7	30.8	9.9
パート	1,210	1.7	4.3	14.4	18.2	43.6	17.9
自営	219	2.7	5.5	9.1	11.4	44.8	26.5
その他	774	2.2	3.9	8.3	16.0	50.9	18.7

注1) 妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

図4-9 夫の帰宅時間別にみた妻の家事分担割合の分布(第6回調査)

夫の帰宅時間	n	40%未満	40～59%	60～79%	80～89%	90～99%	100%
17～19時台	1,273	3.1	7.2	15.9	17.2	40.5	16.0
20～21時台	779	1.8	4.1	14.1	17.7	45.8	16.4
22～23時台	256	0.4	3.5	9.8	23.1	46.9	16.4

注) 妻の年齢が60歳未満であり、夫が自宅外で就業する世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図4-10 調査回別、家事の種類別にみた週1～2回以上家事を遂行した夫の割合

家事の種類	第4回	第5回	第6回
ゴミ出し	41.3	40.6	48.6
日常の買い物	38.9	36.6	41.1
部屋の掃除	18.7	19.2	23.7
風呂洗い	28.0	29.1	35.9
洗濯	23.8	26.0	31.7
炊事	19.4	21.0	23.6
食後の片付け	30.9	33.1	39.7
n	4,386	3,708	3,109

注) 妻の年齢が60歳未満であり、すべての家事の種類について回答している世帯について集計。

図4-11 家事の種類別にみた妻の家事遂行頻度の割合(第6回調査)

	ゴミ出し	日常の 買い物	部屋の 掃除	風呂洗い	洗濯	炊事	食後の 片付け
n	3,115	3,115	3,115	3,115	3,115	3,115	3,115
毎日・毎回	34.6	44.2	39.6	44.2	79.0	89.0	86.1
週3～4回	13.9	30.5	24.5	17.3	12.4	7.1	8.4
週1～2回	21.4	23.1	29.8	18.1	6.4	2.6	3.4
月1～2回	15.5	1.5	5.4	11.8	1.3	0.6	1.2
まったくしない	14.5	0.6	0.7	8.6	0.8	0.8	0.9

注)妻の年齢が60歳未満であり、すべての家事の種類について回答している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図4-12 妻の年齢別、家事の種類別にみた週1～2回以上家事を遂行した夫の割合(第6回調査)

妻の年齢	n	ゴミ出し	日常の 買い物	部屋の 掃除	風呂洗い	洗濯	炊事	食後の 片付け
29歳以下	146	70.6	49.3	32.9	50.7	48.0	34.3	54.8
30～39歳	764	55.4	40.1	26.7	42.7	39.0	24.0	46.9
40～49歳	1,111	46.4	38.4	21.7	32.0	29.3	22.6	38.2
50～59歳	1,088	43.3	43.5	22.5	33.2	26.8	22.9	34.1

注)妻の年齢が60歳未満であり、すべての家事の種類について回答している世帯について集計。

図4-13 妻の従業上の地位別、家事の種類別にみた週1～2回以上家事を遂行した夫の割合(第6回調査)

妻の従業上の地位	n	ゴミ出し	日常の 買い物	部屋の 掃除	風呂洗い	洗濯	炊事	食後の 片付け
常勤	789	59.7	45.8	30.9	47.5	47.7	32.5	54.4
パート	1,206	43.8	37.7	23.2	34.7	28.9	21.6	36.3
自営	220	42.7	37.3	18.6	24.6	22.7	15.9	28.2
その他	775	45.8	42.5	18.2	28.5	19.9	18.1	31.7

注1)妻の年齢が60歳未満であり、すべての家事の種類について回答している世帯について集計。

注2)「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

図4-14 夫の帰宅時間別、家事の種類別にみた週1～2回以上家事を遂行した夫の割合(第6回調査)

夫の帰宅時間	n	ゴミ出し	日常の 買い物	部屋の 掃除	風呂洗い	洗濯	炊事	食後の 片付け
17～19時台	1,293	50.1	42.0	24.8	37.1	33.7	24.1	37.7
20～21時台	778	50.1	38.8	21.9	35.5	28.7	20.7	42.3
22～23時台	259	46.0	36.3	19.7	37.1	30.5	22.4	44.8

注)妻の年齢が60歳未満であり、夫が自宅外で就業する世帯のうちすべての家事の種類について回答している世帯について集計。

図4-15 夫婦における「見えない家事」の遂行(第6回調査)

項目	n	妻	ふたりで 一緒に	夫	どちらも しない
食材や日用品の在庫の把握	3,230	88.6	8.6	2.5	0.3
食事の献立を考える	3,233	91.6	5.3	2.7	0.5
ごみを分類し、まとめる	3,231	76.2	11.1	12.0	0.8
家族の予定を調整する	3,218	63.1	29.7	6.2	1.0
購入する電化製品の選定	3,232	26.4	39.2	34.0	0.4

注)妻の年齢が60歳未満の世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図5-1 調査回別にみた妻の1日の平均育児時間

平日/休日	第4回		第5回		第6回	
	n	時間(分)	n	時間(分)	n	時間(分)
平日	1,528	455	1,322	572	1,153	532
休日	1,504	572	1,322	691	1,153	680

注)妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子とも同居している世帯について集計。

図5-2 調査回別にみた夫の1日の平均育児時間

平日/休日	第4回		第5回		第6回	
	n	時間(分)	n	時間(分)	n	時間(分)
平日	1,516	75	1,322	89	1,153	86
休日	1,499	273	1,322	309	1,153	322

注)妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子とも同居している世帯について集計。

図5-3 妻の年齢別にみた平日と休日における妻の1日の平均育児時間(第6回調査)

平日/休日	平日		休日	
	n	平均育児時間(分)	n	平均育児時間(分)
29歳以下	95	702	95	849
30～34歳	216	614	216	772
35～39歳	364	524	364	701
40～44歳	335	464	335	592
45～49歳	143	473	143	578

注)妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。

図5-4 最年少同居子の年齢別にみた平日と休日における妻の1日の平均育児時間(第6回調査)

平日/休日	平日		休日	
	n	平均育児時間(分)	n	平均育児時間(分)
0～2歳	387	716	387	826
3～5歳	279	429	279	669
6～8歳	255	397	255	555
9～11歳	232	496	232	584

注)妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。

図5-5 妻の職業上の地位別にみた平日と休日における妻の1日の平均育児時間(第6回調査)

平日/休日	平日		休日	
	n	平均育児時間(分)	n	平均育児時間(分)
常勤	293	378	293	646
パート	410	468	410	637
自営	71	592	71	756
その他	336	737	336	732

注1)妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。

注2)「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

図5-6 夫の帰宅時間別にみた平日と休日における妻の1日の平均育児時間(第6回調査)

平日/休日	平日		休日	
	n	平均育児時間(分)	n	平均育児時間(分)
17～19時台	462	503	462	677
20～21時台	318	530	318	673
22～23時台	138	572	138	651

注)妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。

図5-7 調査回別にみた妻と夫の間での育児分担割合の平均

調査回	n	妻	夫
第4回	1,604	80.5	19.5
第5回	1,338	80.1	19.9
第6回	1,130	79.6	20.4

注)妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図5-8 妻の年齢別にみた妻の育児分担割合の分布(第6回調査)

妻の年齢	n	40%未満	40～59%	60～79%	80～89%	90～99%	100%
29歳以下	94	0.0	8.5	23.4	24.5	36.2	7.5
30～34歳	211	1.4	9.5	20.4	33.2	30.3	5.2
35～39歳	353	1.4	7.7	28.6	24.7	32.9	4.8
40～44歳	329	1.2	4.9	21.3	26.8	40.7	5.2
45～49歳	143	0.7	9.1	20.3	17.5	43.4	9.1

注)妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図5-9 最年少同居子の年齢別にみた妻の育児分担割合の分布(第6回調査)

最年少同居子の年齢	n	40%未満	40～59%	60～79%	80～89%	90～99%	100%
0～2歳	381	1.1	7.6	23.9	28.4	34.4	4.7
3～5歳	272	0.7	9.2	27.6	25.7	33.5	3.3
6～8歳	248	1.2	8.1	21.4	27.0	33.9	8.5
9～11歳	229	1.8	4.4	20.1	21.0	45.4	7.4

注)妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図5-10 妻の従業上の地位別にみた妻の育児分担割合の分布(第6回調査)

妻の従業上の地位	n	40%未満	40~59%	60~79%	80~89%	90~99%	100%
常勤	287	1.4	13.2	34.2	26.1	24.0	1.1
パート	398	1.8	6.5	23.4	25.6	36.7	6.0
自営	71	2.8	5.6	19.7	22.5	39.4	9.9
その他	333	0.0	4.2	13.5	25.8	47.2	9.3

注1) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

図5-11 夫の帰宅時間別にみた妻の育児分担割合の分布(第6回調査)

夫の帰宅時間	n	40%未満	40~59%	60~79%	80~89%	90~99%	100%
17~19時台	448	1.8	9.2	26.8	28.8	29.7	3.8
20~21時台	311	1.0	5.1	22.2	25.1	40.2	6.4
22~23時台	137	0.0	2.9	19.7	25.6	46.0	5.8

注) 妻の年齢が50歳未満であり、12歳未満の子どもと同居している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図5-12 育児の種類別にみた妻の育児遂行頻度の割合(第6回調査)

	遊び相手をする	風呂に入れる	食事をさせる	寝かしつける	おむつを替える	泣いた子をあやす	保育園などの送り迎え
n	1,717	1,717	1,717	1,717	1,717	1,717	1,381
毎日・毎回	94.0	64.5	96.8	90.7	97.0	95.9	88.1
週3~4回	4.3	20.8	2.5	6.4	2.1	3.2	7.2
週1~2回	1.5	7.9	0.6	1.5	0.2	0.4	2.2
月1~2回	0.2	5.0	0.0	0.9	0.1	0.2	1.8
まったくしない	0.0	1.8	0.2	0.5	0.5	0.3	0.7

注) 妻の年齢が50歳未満であり、子どもがいる世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図5-13 調査回別、育児の種類別にみた週1~2回以上育児を遂行した夫の割合

育児の種類	第4回		第5回		第6回	
	n	割合(%)	n	割合(%)	n	割合(%)
遊び相手をする	2,442	88.7	2,031	87.5	1,670	89.9
風呂に入れる	2,442	81.7	2,031	82.1	1,670	77.1
食事をさせる	2,442	59.4	2,031	60.8	1,670	58.1
寝かしつける	2,442	47.4	2,031	46.3	1,670	43.9
おむつを替える	2,442	57.1	2,031	59.3	1,670	62.8
泣いた子をあやす	2,442	65.6	2,031	65.0	1,670	65.2
保育園などの送り迎え	1,806	25.4	1,528	28.4	1,327	32.6

注) 妻の年齢が50歳未満であり、子どもがいる世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。

図5-14 妻の年齢別、育児の種類別にみた週1~2回以上育児を遂行した夫の割合(第6回調査)

妻の年齢	n	遊び相手をする	風呂に入れる	食事をさせる	寝かしつける	泣いた子をあやす	おむつを替える	保育園などの送り迎え
29歳以下	98(59)	95.9	83.7	69.4	46.9	73.5	78.6	45.8
30~34歳	222(150)	94.6	78.4	63.5	46.4	68.0	75.7	34.7
35~39歳	398(306)	92.5	78.1	65.1	44.5	70.1	70.1	36.6
40~44歳	460(386)	89.8	77.0	55.7	44.6	62.0	62.6	32.4
45~49歳	492(426)	84.8	74.6	50.2	41.1	53.0	56.3	27.2

注1) 妻の年齢が50歳未満であり、子どもがいる世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。

注2) 「n」欄の括弧内の数値は「保育園などの送り迎え」の集計対象となる票数を表す。

図5-15 最年少同居子の年齢別、育児の種類別にみた週1~2回以上育児を遂行した夫の割合(第6回調査)

最年少同居子の年齢	n	遊び相手をする	風呂に入れる	食事をさせる	寝かしつける	泣いた子をあやす	おむつを替える	保育園などの送り迎え
0歳	126(57)	96.0	83.3	66.7	50.8	77.0	84.9	42.1
1~2歳	262(186)	96.6	80.9	74.4	51.1	77.5	81.3	35.5
3~5歳	273(221)	91.9	74.0	60.8	40.7	66.7	65.2	37.1

注1) 妻の年齢が50歳未満であり、子どもがいる世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。

注2) 「n」欄の括弧内の数値は「保育園などの送り迎え」の集計対象となる票数を表す。

図5-16 妻の従業上の地位別、育児の種類別にみた週1～2回以上育児を遂行した夫の割合(第6回調査)

妻の従業上の地位	n	遊び相手をする	風呂に入れる	食事をさせる	寝かしつける	泣いた子をあやす	おむつを替える	保育園などの送り迎え
常勤	178(150)	97.2	84.3	75.8	54.5	81.5	82.0	46.0
パート	187(158)	94.1	77.5	69.0	46.0	69.0	74.9	38.0
自営	36(29)	88.9	63.9	58.3	38.9	63.9	63.9	27.6
その他	228(100)	93.4	77.2	59.6	42.1	70.6	72.4	20.0

注1) 妻の年齢が50歳未満であり、子どもがいる世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。

注2) 「n」欄の括弧内の数値は「保育園などの送り迎え」の集計対象となる票数を表す。

図5-17 夫の帰宅時間別、育児の種類別にみた週1～2回以上育児を遂行した夫の割合(第6回調査)

夫の帰宅時間	n	遊び相手をする	風呂に入れる	食事をさせる	寝かしつける	泣いた子をあやす	おむつを替える	保育園などの送り迎え
17～19時台	263(191)	95.8	81.4	70.7	52.1	74.9	79.8	40.8
20～21時台	188(123)	94.1	77.1	63.8	43.1	68.6	70.7	28.5
22～23時台	70(49)	90.0	75.7	58.6	40.0	77.1	68.6	34.7

注1) 妻の年齢が50歳未満であり、子どもがいる世帯のうちすべての育児の種類について回答している世帯について集計。

注2) 「n」欄の括弧内の数値は「保育園などの送り迎え」の集計対象となる票数を表す。

図6-1 調査回別にみた妻と夫の共通行動の頻度分布

項目	調査回	n	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
夕食を一緒にする	第4回	6,149	73.0	16.7	8.4	2.0
	第5回	5,740	71.8	16.9	8.8	2.5
	第6回	5,174	72.8	17.2	7.5	2.6
買い物に行く	第4回	6,149	40.0	36.5	16.2	7.3
	第5回	5,740	33.7	39.7	17.8	8.7
	第6回	5,174	32.9	39.7	18.2	9.2
旅行(日帰りを含む)に出かける	第4回	6,149	16.9	33.0	30.4	19.7
	第5回	5,740	18.8	32.7	27.8	20.7
	第6回	5,174	17.6	35.7	26.2	20.5
その日の帰宅時間や週の予定などを話す	第4回	6,149	57.6	23.4	12.8	6.2
	第5回	5,740	50.6	26.4	15.3	7.8
	第6回	5,174	50.1	27.8	14.0	8.1
休日の過ごし方について話し合う	第4回	6,149	41.7	27.3	21.2	9.8
	第5回	5,740	35.5	28.0	23.6	13.0
	第6回	5,174	34.6	30.5	22.2	12.7
家庭のことについてメールや電話で連絡しあう	第4回	6,149	36.5	25.0	22.0	16.5
	第5回	5,740	34.2	26.2	22.4	17.2
	第6回	5,174	38.7	35.0	19.9	6.3
心配事や悩み事を相談する	第4回	6,149	32.5	36.8	21.7	9.0
	第5回	5,740	30.0	38.1	22.9	9.0
	第6回	5,174	28.3	29.2	22.8	19.7
夫婦間で出かける	第6回	5,174	15.6	25.5	33.2	25.8
夫婦間のスキンシップ	第6回	5,174	4.5	19.8	23.2	52.6

注1) すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) 「夫婦で出かける」「夫婦間のスキンシップ」「夫婦間の性交渉」は第6回からの項目である。

図6-2 妻の年齢別にみた妻と夫の共通行動の有無の割合(第6回調査)

妻の年齢	n	夕食を一緒にする		買い物に行く		旅行(日帰りを含む)に出かける		その日の帰宅時間や週の予定などを話す	
		ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
29歳以下	148	91.2	8.8	89.2	10.8	66.9	33.1	91.2	8.8
30～39歳	751	87.0	13.0	80.7	19.3	63.5	36.5	85.0	15.0
40～49歳	1,073	84.7	15.3	70.0	30.0	55.0	45.0	77.3	22.7
50～59歳	1,067	88.5	11.5	71.9	28.1	51.2	48.8	79.1	20.9
60～69歳	1,231	92.9	7.1	69.9	30.1	50.2	49.8	75.4	24.6
70歳以上	904	96.1	3.9	70.9	29.1	47.2	52.8	72.6	27.4

妻の年齢	n	休日の過ごし方について話し合う		心配事や悩み事を相談する		夫婦だけで出かける		夫婦間のスキンシップ		夫婦間の性交渉	
		ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
29歳以下	148	90.5	9.5	83.1	16.9	52.0	48.0	79.1	20.9	66.9	33.1
30～39歳	751	83.5	16.5	80.4	19.6	39.3	60.7	61.4	38.6	49.3	50.7
40～49歳	1,073	69.0	31.0	67.9	32.1	47.3	52.7	46.0	54.0	33.4	66.6
50～59歳	1,067	65.0	35.0	67.8	32.2	66.1	33.9	39.6	60.4	20.8	79.2
60～69歳	1,231	57.4	42.6	62.4	37.6	66.1	33.9	30.2	69.8	10.8	89.2
70歳以上	904	51.5	48.5	63.6	36.4	63.7	36.3	28.4	71.6	8.2	91.8

注)すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図6-3 妻の年齢別にみた妻と夫の共通行動の満足度の割合(第6回調査)

妻の年齢	n	夕食を一緒にする		買い物に行く		旅行(日帰りを含む)に出かける		その日の帰宅時間や週の予定などを話す	
		満足	不満	満足	不満	満足	不満	満足	不満
29歳以下	145	93.1	6.9	93.8	6.2	77.9	22.1	91.0	9.0
30～39歳	733	87.0	13.0	86.1	13.9	73.9	26.1	84.2	15.8
40～49歳	1,035	89.1	10.9	86.8	13.2	76.9	23.1	85.9	14.1
50～59歳	1,012	91.5	8.5	87.7	12.3	77.1	22.9	88.4	11.6
60～69歳	1,127	93.0	7.0	86.6	13.4	74.5	25.5	86.3	13.7
70歳以上	740	93.8	6.2	87.6	12.4	72.4	27.6	83.5	16.5

妻の年齢	n	休日の過ごし方について話し合う		心配事や悩み事を相談する		夫婦だけで出かける		夫婦間のスキンシップ		夫婦間の性交渉	
		満足	不満	満足	不満	満足	不満	満足	不満	満足	不満
29歳以下	145	89.0	11.0	82.8	17.2	77.9	22.1	89.0	11.0	86.9	13.1
30～39歳	733	83.1	16.9	81.3	18.7	74.4	25.6	80.8	19.2	80.2	19.8
40～49歳	1,035	81.4	18.6	78.1	21.9	81.3	18.7	85.2	14.8	82.9	17.1
50～59歳	1,012	84.2	15.8	81.2	18.8	84.5	15.5	86.1	13.9	84.5	15.5
60～69歳	1,127	80.4	19.6	78.7	21.3	83.4	16.6	83.8	16.2	85.6	14.4
70歳以上	740	76.1	23.9	78.5	21.5	81.8	18.2	77.4	22.6	76.5	23.5

注)すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図6-4 調査回別にみた妻と夫の間での主たる意思決定者の分布

項目	調査回	n	妻	一緒に	夫
車や耐久消費財など高価なものの購入	第4回	6,255	11.8	52.3	35.8
	第5回	5,731	11.8	48.7	39.5
	第6回	5,502	10.8	51.1	38.1
家計の分配や管理・運営	第4回	6,255	66.6	20.3	13.1
	第5回	5,731	62.6	21.4	16.1
	第6回	5,502	63.8	21.3	14.9
親や親族とのつきあい	第4回	6,255	35.3	55.8	8.9
	第5回	5,731	34.1	55.0	11.0
	第6回	5,502	39.0	53.9	7.1
育児や子どもの教育	第4回	5,535	49.8	47.5	2.7
	第5回	5,109	53.5	43.4	3.2
	第6回	4,818	57.4	40.7	2.0

注)「車や耐久消費財など高価なものの購入」「家計の分配や管理・運営」「親や親族とのつきあい」は当該3項目すべてに回答した者について集計。「育児や子どもの教育」はすべての項目について回答した者(子どものいる者)について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図6-5 妻の年齢別にみた妻と夫の間での主たる意思決定者の分布(第6回調査)

妻の年齢	n	車や耐久消費財など高価なものの購入			家計の分配や管理・運営			親や親族とのつきあい		
		妻	一緒に	夫	妻	一緒に	夫	妻	一緒に	夫
29歳以下	151	5.3	71.5	23.2	54.3	37.1	8.6	35.1	62.3	2.6
30～39歳	781	10.0	56.1	33.9	61.2	21.8	17.0	36.7	58.0	5.2
40～49歳	1,143	12.8	49.8	37.4	64.9	21.5	13.6	44.4	49.6	6.0
50～59歳	1,126	10.1	48.8	41.1	62.7	19.4	17.9	39.1	52.6	8.3
60～69歳	1,297	10.7	50.7	38.6	66.6	19.9	13.5	38.6	54.4	7.0
70歳以上	1,004	10.8	48.7	40.5	63.3	22.4	14.2	35.6	55.4	9.1

妻の年齢	n	育児や子どもの教育		
		妻	一緒に	夫
29歳以下	104	45.2	54.8	0.0
30～39歳	648	51.9	47.1	1.1
40～49歳	1,018	59.5	38.6	1.9
50～59歳	987	56.7	41.7	1.5
60～69歳	1,181	62.0	36.2	1.8
70歳以上	880	54.9	41.5	3.6

注)「車や耐久消費財など高価なものの購入」「家計の分配や管理・運営」「親や親族とのつきあい」は当該3項目すべてに回答した者について集計。「育児や子どもの教育」はすべての項目について回答した者(子どものいる者)について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図6-6 妻の年齢別にみた妻に対する夫の情緒的支援のあてはまり度合い(第6回調査)

妻の年齢	n	あなたの心配事や悩み事を聞いてくれる		あなたの能力や努力を高く評価してくれる		あなたに助言やアドバイスをしてくれる	
		あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない
29歳以下	150	80.7	19.3	78	22	75	25
30～39歳	770	81.8	18.2	68	32	72	28
40～49歳	1,135	69.4	30.6	60	40	63	37
50～59歳	1,126	70.7	29.3	64	36	64	36
60～69歳	1,294	65.2	34.8	60	40	61	39
70歳以上	966	67.3	32.7	64	36	65	35

妻の年齢	n	あなたの気持ちをよく理解している		あなたへの感謝の気持ちを示してくれる		あなたに関心がない	
		あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない
29歳以下	150	71.3	28.7	78.7	21.3	16.0	84.0
30～39歳	770	61.9	38.1	67.4	32.6	22.7	77.3
40～49歳	1,135	53.3	46.7	57.8	42.2	29.0	71.0
50～59歳	1,126	56.4	43.6	59.5	40.5	28.0	72.0
60～69歳	1,294	50.4	49.6	57.0	43.0	27.8	72.2
70歳以上	966	56.0	44.0	61.0	39.0	30.7	69.3

注)すべての項目に回答している者について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図7-1 調査回別にみた性別役割についての考え方の各項目への賛否の分布(第6回調査)

項目	調査回	n	まったく賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	まったく反対
結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ	第4回	6,271	6.7	41.0	38.7	13.6
	第5回	5,807	5.4	39.5	39.2	15.9
	第6回	5,595	4.1	34.0	40.1	21.8
子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい	第4回	6,291	43.9	42.8	10.3	3.0
	第5回	5,831	28.6	48.7	16.8	5.9
	第6回	5,580	23.4	47.8	19.9	8.9
夫も家事や育児を平等に分担すべきだ	第4回	6,268	24.9	57.6	16.1	1.5
	第5回	5,803	23.3	57.2	17.6	1.9
	第6回	5,551	28.6	55.1	14.7	1.6
家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ	第4回	6,258	25.4	52.4	17.7	4.5
	第5回	5,805	19.4	52.2	21.8	6.6
	第6回	5,573	14.5	49.9	25.2	10.3
夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ	第4回	6,212	14.3	53.5	28.4	3.7
	第5回	5,743	13.1	53.9	29.6	3.5
	第6回	5,520	10.7	51.4	32.9	4.9
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	第4回	6,273	26.4	48.9	19.2	5.5
	第5回	5,796	15.7	51.5	25.2	7.6
	第6回	5,537	10.3	46.1	30.9	12.7

注)項目ごとに不詳を除外して集計した。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。調査回の表記のあとに記載された[]内の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた「賛成割合」であるが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

図7-2 妻の年齢別にみた性別役割についての各項目への賛成割合(第6回調査)

妻の年齢	結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ		子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい		夫も家事や育児を平等に分担すべき		家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ		夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ		男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	
	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合
29歳以下	153	37.9	153	56.2	154	90.9	153	56.9	153	49.0	155	49.0
30～39歳	785	29.0	788	53.2	779	84.0	787	55.7	782	53.8	785	45.1
40～49歳	1,170	29.8	1,166	64.5	1,164	85.4	1,168	60.7	1,156	58.1	1,161	49.6
50～59歳	1,168	33.0	1,154	72.0	1,156	84.0	1,155	63.3	1,150	61.4	1,148	53.2
60～69歳	1,317	40.7	1,314	77.7	1,307	83.9	1,316	66.0	1,298	64.9	1,301	59.8
70歳以上	1,002	57.5	1,005	85.9	991	79.9	994	76.4	981	72.8	987	73.7

注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。

注2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

図7-3 妻の従業上の地位別にみた性別役割についての各項目への賛成割合(第6回調査)

妻の従業上の地位	結婚後は、夫は外で働き、妻は主婦業に専念すべきだ		子どもが3才くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念したほうがよい		夫も家事や育児を平等に分担すべき		家庭で重要なことがあったときは、父親が最終的に決定すべきだ		夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なった時は、会社の仕事を優先すべきだ		男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	
	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合
常勤	919	19.5	921	51.6	919	89.8	917	51.9	918	54.2	915	46.0
パート	1,668	29.4	1,662	68.1	1,655	85.3	1,662	63.1	1,638	59.0	1,653	51.5
自営	446	41.0	440	73.2	438	81.1	443	67.3	436	69.5	431	61.3
その他	2,301	51.2	2,295	80.7	2,280	80.8	2,293	69.0	2,272	65.8	2,281	62.4

注1) 「自営」には家族従業者を含む。「その他」の大多数は仕事を持たないいわゆる専業主婦である。

注2) 項目ごとに不詳を除外して集計した。

注3) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

図7-4 調査回別にみた夫婦のあり方についての考え方の各項目への賛否の分布

項目	調査回	n	まったく賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	まったく反対
夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ	第4回	6,258	19.2	62.1	16.0	2.7
	第5回	5,831	21.5	65.4	11.6	1.4
	第6回	5,592	19.4	67.0	11.4	2.2
夫婦は子どもを持つてはじめて社会的に認められる	第4回	6,215	8.7	27.1	33.0	31.2
	第5回	5,735	6.8	25.3	35.0	32.9
	第6回	5,480	4.6	20.1	32.6	42.8
夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい	第4回	6,201	10.5	32.2	40.5	16.8
	第5回	5,761	10.1	31.4	41.2	17.3
	第6回	5,526	14.1	36.4	37.1	12.4

注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) []内の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた「賛成割合」であるが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

図7-5 妻の年齢別にみた夫婦のあり方についての考え方の各項目への賛成割合(第6回調査)

妻の年齢	夫や妻は、自分達のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ		夫婦は子どもを持つてはじめて社会的に認められる		夫、妻とも同姓である必要はなく、別姓であってもよい	
	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合
29歳以下	153	92.2	154	7.8	152	57.2
30～39歳	791	86.6	779	9.9	786	60.3
40～49歳	1,170	85.8	1,150	15.7	1,166	57.5
50～59歳	1,158	86.8	1,143	23.1	1,146	55.3
60～69歳	1,321	85.6	1,289	30.1	1,298	43.9
70歳以上	999	86.7	965	44.5	978	36.4

注1) 項目ごとに不詳を除外して集計した。

注2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

図7-6 調査回別にみた老親への援助についての考え方の各項目への賛否の分布

項目	調査回	n	まったく賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	まったく反対
年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ	第4回	6,238	6.7	44.0	41.2	8.0
	第5回	5,752	4.5	40.1	45.3	10.1
	第6回	5,521	3.2	31.1	51.3	14.5
年若い親の介護は家族が担うべきだ	第4回	6,259	9.1	54.3	30.3	6.4
	第5回	5,753	6.2	50.5	35.8	7.5
	第6回	5,523	4.7	40.5	43.2	11.5
高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ	第4回	6,257	3.2	24.0	51.4	21.5
	第5回	5,765	2.7	25.5	53.5	18.4
	第6回	5,534	2.4	20.9	54.0	22.7

注1) 項目ごとに不詳を除いて集計した。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) []内の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた「賛成割合」であるが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある

図7-7 妻の年齢別にみた老親への援助についての考え方の各項目への賛成割合(第6回調査)

妻の年齢	年をとった親は子ども夫婦と一緒に暮らすべきだ		年若い親の介護は家族が担うべきだ		高齢者への経済的援助は、公的機関より家族が行うべきだ	
	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合
29歳以下	151	35.8	153	57.5	154	22.1
30～39歳	772	27.3	772	45.7	778	18.3
40～49歳	1,157	32.5	1,165	44.4	1,156	18.0
50～59歳	1,144	33.8	1,149	41.2	1,152	20.5
60～69歳	1,304	32.7	1,297	40.9	1,308	24.8
70歳以上	993	44.0	987	54.4	986	35.2

注1) 項目ごとに不詳を除いて集計した。

注2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。

図7-8 同性カップルについての考え方の各項目への賛否の分布(第6回調査)

項目	n	まったく賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	まったく反対
男性どうしや、女性どうしのカップルで暮らす、という生き方があってもよい	5,544	24.4	47.5	20.3	7.8
男性どうしや、女性どうしのカップルにも、なんらかの法的保障が認められるべきだ	5,468	21.6	53.5	18.3	6.7
男性どうしや、女性どうしの結婚(同性婚)を法律で認めるべきだ	5,442	20.3	49.2	22.2	8.3
同性どうしのカップルも、男女のカップルと同じように、子どもを育てる能力がある	5,411	19.5	49.9	23.2	7.4
男性どうしや、女性どうしのカップルが養親や里親になってもよい	5,446	19.2	47.5	24.6	8.8
女性どうしのカップルも、生殖補助医療を用いて、子どもを持てるようにすべきだ	5,363	10.4	37.7	38.3	13.6

注1) 項目ごとに不詳を除いて集計した。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

注2) []内の数値は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた「賛成割合」であるが、四捨五入の関係で「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値と一致しない場合がある。

図7-9 妻の年齢別にみた同性カップルについての各項目への賛成割合(第6回調査)

妻の年齢	男性どうしや、女性どうしのカップルで暮らす、という生き方があってもよい		男性どうしや、女性どうしのカップルにも、なんらかの法的保障が認められるべきだ		男性どうしや、女性どうしの結婚(同性婚)を法律で認めるべきだ		同性どうしのカップルも、男女のカップルと同じように、子どもを育てる能力がある		男性どうしや、女性どうしのカップルが養親や里親になってもよい		女性どうしのカップルも、生殖補助医療を用いて、子どもを持てるようにすべきだ	
	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合	n	賛成割合
29歳以下	152	92.8	152	92.1	151	92.1	151	84.1	151	84.8	151	83.4
30～39歳	785	92.6	781	90.5	782	89.5	779	80.9	778	77.4	771	69.1
40～49歳	1,167	87.7	1,153	86.2	1,152	83.2	1,152	81.0	1,155	76.1	1,138	59.1
50～59歳	1,149	78.2	1,136	80.1	1,133	73.5	1,131	72.8	1,135	69.6	1,114	46.7
60～69歳	1,297	61.1	1,271	67.3	1,262	59.3	1,260	62.2	1,268	60.4	1,244	36.7
70歳以上	994	40.4	975	51.3	962	42.2	938	49.0	959	48.6	945	28.9

注1) 項目ごとに不詳を除いて集計した。

注2) 「賛成割合」は「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合をあわせたものである。